



Title	日韓漢語動詞における通時的対照研究
Author(s)	趙, 惠真
Citation	北海道大学. 博士(文学) 甲第12957号
Issue Date	2018-03-22
DOI	10.14943/doctoral.k12957
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/70220
Type	theses (doctoral)
File Information	Cho_Hyejin.pdf



[Instructions for use](#)

博士学位論文

日韓漢語動詞における通時的対照研究

北海道大学文学研究科

趙 恵 真

博士学位論文

日韓漢語動詞における通時的対照研究

この論文を博士(文学)学位論文として提出する

提出：2017年11月30日

北海道大学大学院文学研究科

言語文学専攻

指導教員 李連珠

氏名 趙恵真

博士学位論文

日韓漢語動詞における通時的対照研究

北海道大学文学研究科

趙 恵 真

目 次

第一章 序論

1.1	研究の背景および目的	1
1.2	研究の方法	1
1.2.1	時代の区分	1
1.2.2	用例収集の方法	3
1.2.3	用例の示し方	8
1.2.4	韓国語(ハングル)の表記	8
1.3	本論文の構成	9

第二章 先行研究

2.1	漢語について	11
2.1.1	漢語の概念と位置	11
2.1.2	漢語動詞における漢語について	14
2.2	「スル」と「hada」について	15
2.2.1	「スル」と「hada」の先行要素	15
2.2.1.1	「スル」の先行要素による分類	16
2.2.1.2	「hada」の先行要素による分類	19
2.2.2	「スル」と「hada」に関する先行研究	22
2.2.2.1	「スル」に関する先行研究	23
2.2.2.2	「hada」に関する先行研究	25
2.3	機能動詞について	27
2.4	日韓漢語動詞の対照に関する先行研究	29
2.5	本章のまとめ	33

第三章 日韓漢語動詞における形態の様相

3.1	日本語の漢語動詞	35
3.1.1	日本語の二字漢語動詞	35
3.1.2	日本語の一字漢語動詞	38
3.2	韓国語の漢語動詞	40

3.2.1	韓国語の二字漢語動詞	40
3.2.1.1	hada形	42
3.2.1.2	doeda形	43
3.2.1.3	chida形	46
3.2.1.4	gada形	47
3.2.1.5	sikida形	48
3.2.1.6	jisda形	52
3.2.1.7	nada形	53
3.2.1.8	まとめ	54
3.2.2	韓国語の一字漢語動詞	54
3.3	漢語動詞の定義	60

第四章 日韓漢語動詞における形態の歴史的変遷

4.1	二字漢語動詞	62
4.1.1	日本語の二字漢語動詞	63
4.1.1.1	現代語の二字漢語動詞	63
4.1.1.2	前期現代語の二字漢語動詞	64
4.1.1.3	中古・近世語の二字漢語動詞	67
4.1.1.4	本節のまとめ	70
4.1.2	韓国語の二字漢語動詞	70
4.1.2.1	現代語の二字漢語動詞	71
4.1.2.2	前期現代語の二字漢語動詞	72
4.1.2.2.1	hada形	72
4.1.2.2.2	doeda形	73
4.1.2.2.3	chida形	75
4.1.2.2.4	gada形	76
4.1.2.2.5	sikida形	78
4.1.2.2.6	jisda形	80
4.1.2.2.7	nada形	81
4.1.2.2.8	その他	82
4.1.2.3	中世・近代語の二字漢語動詞	85
4.1.2.4	本節のまとめ	87
4.1.3	日韓二字漢語動詞の形態の変遷に関する対照考察	88
4.2	一字漢語動詞	89

4.2.1	先行研究の再検討	90
4.2.2	日本語の一字漢語動詞	91
4.2.2.1	一字漢語動詞の消滅と残存	93
4.2.2.1.1	一字漢語動詞をめぐる類義語について	93
4.2.2.1.2	現代語における一字漢語動詞の消滅と残存	94
4.2.2.2	本節のまとめ	95
4.2.3	韓国語の一字漢語動詞	97
4.2.3.1	一字漢語動詞の消滅と残存	97
4.2.3.1.1	一字漢語動詞をめぐる類義語について	101
4.2.3.1.2	現代語における一字漢語動詞の消滅と残存	102
4.2.3.1.3	その他の要因による一字漢語動詞の消滅と残存	104
4.2.3.2	一字漢語動詞とハングル表記	106
4.2.3.3	本節のまとめ	110
4.2.4	日韓一字漢語動詞の消滅に関する対照考察	112

第五章 韓国語の漢語形容詞に関する考察

5.1	漢語形容詞について	114
5.1.1	漢語形容詞の概念	114
5.1.2	「hada形」の形容詞性と動詞性	117
5.1.2.1	先行研究	117
5.1.2.2	「hada形」漢語形容詞の設定	123
5.2	漢語形容詞の形態と変遷	126
5.2.1	漢語形容詞の形態	127
5.2.1.1	「hada形」のみ	128
5.2.1.2	「hada形」と「他形」の共存	129
5.2.1.3	「他形」のみ	132
5.2.1.4	「hada形」漢語動詞との両立	134
5.2.2	漢語形容詞の形態の変遷	135
5.2.3	「doeda形」漢語形容詞をめぐる	140
5.3	漢語動詞との相違	141
5.3.1	形態の相違	142
5.3.2	形態的変遷の相違	143
5.4	日本語との対照考察	144
5.4.1	漢語形容詞に対応する「スル形」と「ダ形」	144

5.4.2. 漢語形容詞に対応するスル形の特質	146
-------------------------------	-----

第六章 結論

6.1 本論文のまとめ	148
6.2 今後の課題	150

参考文献	152
------------	-----

表 目次

表1 「日本語歴史コーパス」に収録されている資料	3
表2 「歴史コーパス」の中、本論文で利用した資料	5
表3 日韓両言語における語種の割合	13
表4 前期現代語と現代語における漢語動詞の変化(日本語)	67
表5 日本語における漢語動詞の形態の変化様相	70
表6 前期現代語と現代語における漢語動詞の変化(韓国語)	84
表7 韓国語における漢語動詞の形態の変化様相	87
表8 日韓両言語における漢語動詞の形態の変化様相	88
表9 類義語の有無による一字漢語動詞の消滅	96
表10 類義語の有無による一字漢語動詞の消滅	111
表11 日韓一字漢語動詞の変化の様相	112
表12 「hada形」の形容詞性と動詞性	126
表13 漢語形容詞の形態の変化様相	139
表14 漢語動詞と漢語形容詞の形態	142
表15 漢語動詞と漢語形容詞の形態の変化	143
表16 漢語形容詞に対応する日本語「スル形」と「ダ形」	145
表17 「スル形」のアスペクトテスト	147

第一章 序論

1.1 研究の背景および目的

日韓両言語において名詞として輸入されてきた漢語が動詞になる際、漢語の後部にそれぞれ「する」と「hada」が付加して「漢語+する(以下、スル形)」と「漢語+hada(以下、hada形)」の形態になり、動詞化するのがもっとも一般的である。このような形態を通常「漢語動詞」と称している。

従来、日韓漢語動詞における対照研究は、主に漢語動詞のボイスに関する研究が盛んに行われてきた。例えば、「漢語-スル」と「漢語-サレル」に対して「漢語-hada」と「漢語-doeda」のようなボイスの対応関係に観点を当てた研究が主流である。各時代における漢語動詞の様相を時間軸に沿って連続的に捉えるという通時的視点からの対照研究は管見の限り欠けているのが現状である。それゆえ、日韓漢語動詞が各々時代においていかなる形態を取って変化してきたのか、また、その形態からみられる共通点と相違点は何なのかなど、未だに明らかにされていない部分が多い。

本論文は、通時的観点を導入した分析を行うことにより、日韓漢語動詞の形態の形成プロセスを把握し、さらに日韓漢語動詞における形態的变化の様相など、漢語動詞の特徴を明らかにすることを目的とする。日韓両言語における歴史的文献から収集した漢語動詞に基づいて、漢語動詞が時間の経過とともにいかにして変化したかを記述し、さらに分析と解釈を行う。

以上のような通時的アプローチにより、現代語における日韓漢語動詞の形態のプロセスをより実証的に提示でき、さらに異なる言語間の言語変化における異同を明らかにすることが可能となる。

1.2 研究の方法

1.2.1 時代の区分

沖森(2013:6)では、日本語の時代を、奈良時代まで(~794)・平安時代(794~1192)・鎌倉時代(1192~1333)・室町時代(1333~1603)・江戸時代(1603~1867)・明治以降(1868~)の六つに分ける場合があり、このほか、日本文学史の区分に応じて上代(奈良時代まで)・中古(平安時代)・中世(鎌倉室町時代)・近世(江戸時代)・近代(明治以降)の五つに時代を区分する場合があると述べている。沖森(2013:6)をふまえつつ、本論文では大きく、三つの時代に分けて区分する。

平安時代¹から江戸時代までの日本語を「中古・近世語」、明治時代(1868年)から20世紀前半の日本語を「前期現代語」、そして現在の日本語を「現代語」と呼ぶことにする。

(1)本論文における日本語の時代区分

- a. 平安時代から江戸時代までの日本語 → 中古・近世語
- b. 明治時代(1868年)から20世紀前半の日本語 → 前期現代語
- c. 現在の日本語 → 現代語

次は、韓国語の歴史的な区分について述べる。ミン,ヒョンシク(1995)では、BC2世紀までの韓国語を「原始国語」、7世紀までの韓国語を「前期古代国語」、9世紀までの韓国語を「後期古代国語」、13世紀までの韓国語を「前期中世国語」、16世紀までの韓国語を「後期中世国語」、17世紀から1876年までの韓国語を「近代国語」、1876年から1910年までの韓国語を「開化期国語」、1945年までの韓国語を「前期現代国語」、そして現在の韓国語を「後期現代国語」に分けている。本論文での韓国語は、ハングル表記があらわれる15世紀半ば(1446年)以降の資料を分析対象としており、日本語と同様に大きく三つの時代に分けて区分する。

15世紀後半から19世紀前半の韓国語を「中世・近代語」、韓国の開化期である19世紀後半から20世紀前半の韓国語を「前期現代語」、そして現在の韓国語を「現代語」と呼ぶことにする。

(2)本論文における韓国語の時代区分

- a. 15世紀後半から19世紀前半の韓国語 → 中世・近代語
- b. 19世紀後半から20世紀前半の韓国語 → 前期現代語
- c. 現在の韓国語 → 現代語

日韓両言語の時代区分における「現代語」という用語は、「前期現代語」に対して「後期現代語」と称した方がふさわしいかもしれないが、「後期現代語」という用語からみると現在使用している言語ではなく、特定の時代の言語であると誤解される恐れがあり、本論文では「現代語」と称することにした。

¹ 本論文で用いた「日本語歴史コーパス」は、平安時代からの資料を集めているため、本論文では平安時代からの漢語動詞について検討することにする。

1.2.2 用例収集の方法

本論文では歴史的資料から漢語動詞を収集し、対照考察を行う。

日本語の場合は、「ヨミダス歴史館²」と「日本語歴史コーパス³」を利用する。「ヨミダス歴史館」は『読売新聞(以下、読売)』の創刊号(1874年)から最新号までの1,000万件以上の記事が検索できるサイトである。そして「日本語歴史コーパス」は国立国語研究所コーパス開発センターの製作のコーパスで、将来的に上代から近代までをカバーする通時コーパスとすることを目標にしているが、現在はその一部として「平安時代編」「鎌倉時代編」「室町時代編」「江戸時代編」「明治・大正編」を公開している。各時代の文献は、以下の表1のように提示する。

表1 「日本語歴史コーパス」に収録されている資料

時代	資料名	略称
平安時代編 ⁴	「古今和歌集」	<古今>
	「土佐日記」	<土佐>
	「竹取物語」	<竹取>
	「伊勢物語」	<伊勢>
	「落窪物語」	<落窪>
	「大和物語」	<大和>
	「枕草子」	<枕草>
	「源氏物語」	<源氏>
	「紫式部日記」	<紫式>
	「和泉式部日記」	<和泉式>
	「平中物語」	<平中>
	「堤中納言物語」	<堤中>
	「更級日記」	<更級>
	「讃岐典侍日記」	<讃岐>
	「蜻蛉日記」	<蜻蛉>
	「大鏡」	<大鏡>

² ヨミダス歴史館 (<https://database-yomiuri-co-jp.ezoris.lib.hokudai.ac.jp/rekishikan/>)
北海道大学附属図書館 (<https://www.lib.hokudai.ac.jp/>)からアクセスできる。

³ コーパス検索アプリケーション「中納言」 <https://chunagon.ninjal.ac.jp>

⁴ 国立国語研究所コーパス開発センター(富士池優美・須永哲矢・池上尚ほか)編(2016)『日本語歴史コーパス 平安時代編』(短単位データ 1.1 / 長単位データ 1.1, 中納言バージョン 2.2.0) http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/heian.html (2017年11月20日確認)

鎌倉時代編 ⁵	「今昔物語集（本朝部）」	<今昔>
	「宇治拾遺物語」	<宇治>
	「十訓抄」	<十訓抄>
	「方丈記」	<方丈記>
	「徒然草」	<徒然草>
	「海道記」	<海道記>
	「建礼門院右京大夫集」	<建礼>
	「東関紀行」	<東関>
	「十六夜日記」	<十六夜>
	「とはずがたり」	<とはず>
室町時代編 ⁶	『大蔵虎明能狂言集翻刻註解』	<大蔵>
江戸時代編 ⁷	『洒落本 ⁸ 』	<洒落本>
	『人情本 ⁹ 』	<人情本>
明治・大正編 ¹⁰	『明六雑誌』	<明六>
	『国民之友』	<国民>
	『太陽』	<太陽>
	『女学雑誌』	<女学>
	『女性世界』	<女性>
	『婦人倶楽部』	<婦人>

⁵ 国立国語研究所コーパス開発センター（池上尚ほか）編（2016）『日本語歴史コーパス 鎌倉時代編 I 説話・随筆』（短単位データ 1.1 / 長単位データ 1.1, 中納言バージョン 2.2.1）http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/kamakura.html（2017年11月20日確認）

⁶ 国立国語研究所コーパス開発センター（市村太郎・渡辺由貴ほか）編（2016）『日本語歴史コーパス 室町時代編 I 狂言』（短単位 1.1 / 長単位データ 1.1, 中納言バージョン 2.2.1）http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/muromachi.html（2017年11月20日確認）

⁷ 国立国語研究所コーパス開発センター（市村太郎ほか）編（2015）『ひまわり版「洒落本コーパス」（日本語歴史コーパス江戸時代編）』http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/edo.html#share（Ver. 0.5）（2017年11月20日確認）

⁸ 江戸時代後期の江戸語・上方語が描写された会話文を含む文学作品で、同時期の重要な口語資料とされている。

⁹ 幕末期の江戸語が描写された会話文を含む文学作品で、近世江戸語から近代東京語への過渡的状況を研究する上で、重要な口語資料とされている。

¹⁰ 国立国語研究所コーパス開発センター（近藤明日子・間淵洋子・服部紀子ほか）編（2017）『日本語歴史コーパス明治・大正編 I 雑誌』（短単位データバージョン 1.1, 中納言バージョン 2.2.2）http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/meiji_taisho.html（2017年11月20日確認）

さらに、筆者がデータ化して作った日本語コーパスを資料に含まれており、これは以下の3本の映画シナリオに基づいている。

- (3)a. 『ハナミズキ』(2010年)
- b. 『舟を編む』(2013年)
- c. 『真夏の方程式』(2013年)

韓国語の場合は、主に「三千里コーパス」と「歴史コーパス¹¹⁾」を用いる。「三千里コーパス(以下、三千里)」は、1929年から1942年まで発行された『サムチョンリ(三千里)』という月刊総合雑誌を基にアン, イェリが博士論文のため製作したコーパスである(アン, イェリ(2013b)による)。

一方の「歴史コーパス」は、15世紀から20世紀までの資料を基に韓国国立国語院が製作したコーパスである。本論文で用いた資料を時代順に提示すると以下のようなになる。

表2 「歴史コーパス」の中、本論文で利用した資料

時代	資料名	略称
15世紀	月印釋譜	<月印>
	楞嚴經諺解	<楞嚴>
	法華經諺解	<法華>
	金剛經諺解	<金剛>
	初刊 杜詩諺解	<杜詩>
	龍飛御天歌	<天歌>
	阿彌陀經諺解	<阿彌陀>
	六祖法寶壇經諺解中	<六祖>
	觀音經諺解	<觀音>
	釋譜詳節	<釋譜>
	禪宗永嘉集諺解	<禪宗>
	圓覺經諺解	<圓覺>
	三綱行實圖	<三綱>
16世紀	改刊 法華經	<改法>
	大學諺解	<大學>
	論語諺解	<論語>

¹¹⁾ 国立言語院言語情報サイト <https://ithub.korean.go.kr>

	孟子諺解	〈孟子〉
	禪家龜鑑諺解	〈禪家〉
	朴通事	〈朴通事〉
	蒙山法語諺解	〈蒙山〉
	小學諺解	〈小學〉
17世紀	山城日記	〈山城〉
	重刊杜詩諺解	〈重杜詩〉
	勸念要錄	〈勸念〉
	南征歌	〈南征〉
	詩經諺解	〈詩經〉
	辟瘟新方	〈辟瘟〉
	諺解 痘瘡集要	〈痘瘡〉
	火砲式諺解	〈火砲〉
	捷解新語 初刊本	〈初捷解〉
	東國新續三綱行實圖烈女圖	〈烈女〉
18世紀	參禪曲 持經靈驗傳	〈參禪〉
	奠說因果曲 持經靈驗傳	〈奠說〉
	因果文 彌陀懺 抄	〈因果〉
	修善曲 持經靈驗傳	〈修善〉
	關東別曲	〈關東〉
	松江歌辭	〈松江〉
	樂學拾零	〈樂學〉
	賞春曲	〈賞春曲〉
	武穆王貞忠錄	〈武穆〉
	大學栗谷諺解)	〈栗谷〉
	地藏經諺解	〈地藏〉
19世紀前半	九雲夢	〈九雲夢〉
	興夫傳	〈興夫〉
	黃雲傳	〈黃雲〉
	陳大方傳	〈陳大方〉
	林花鄭延	〈林花〉
19世紀後半	張景傳	〈張景〉
	蕃花紅蓮傳	〈蕃花〉

	張韓節孝記	<張韓>
	諸馬武傳	<諸馬>
	独立新聞	<独立>
	毎日新聞	<毎日>
20世紀 (1900年~1950年)	京郷新聞	<京郷>
	修正増補朝鮮語辭典	<朝鮮語>
	沈清傳	<沈清>
	花ui 血(花の血)	<花血>
	新約全書	<新約>
	月下佳人	<月下>
	神學月報	<神学>
	九疑山	<九疑山>

さらに、上記の二つのコーパス以外に筆者が用いた資料は以下の(4)に示す。

- (4) a. 『李朝語辞典(以下、李朝)』:朝鮮時代の資料から収集し作られた辞書である。
- b. 『金氏夫人の上言(以下、金氏)』:1725年、金さんの女性が王に書を差上げたもので、ハングルのみで書いてある。
- c. 『正祖御札帳(以下、正祖)』:1755年から1798年までハングルのみで書かれている手紙である。
- d. 『萬石君伝(以下、萬石)』:漢文の『萬石君伝』を翻訳した小説であり、1794年に孝懿王后がハングルのみで書いた。
- e. 『郭子儀伝(以下、郭子)』:漢文の『郭子儀伝』を翻訳した小説であり、1794年に孝懿王后がハングルのみで書いた。
- f. 『純元王后のハングルの手紙(以下、純元)』:1842年から1855年までハングルのみで書かれてある手紙である。
- g. 『大韓毎日新報(以下、大新)』:1904年に創刊して1910年に廃刊した新聞である。
- h. 『東亞日報(以下、東亞)』¹²:1920年に創刊して現在まで発行されている新聞である。

¹² ニュースライブラリー(<http://newslibrary.naver.com>)から検索できる。

1.2.3 用例の示し方

本稿での出典の提示は用例の最後に示すが、出典が表示されないのは筆者の内省による作例である。そして、引用中の下線は強調の意味で筆者による加筆である。

日本語の用例は、原文そのまま引用しており、必要に応じて日本人の母語話者にチェックしてもらい、筆者が加筆し修正を施した。なお、歴史的資料から収集した各用例の現代日本語訳については、小学館『新編日本古典文学全集(2002)』における現代日本語訳を用いた。

韓国語の用例は、ハングル表記、ハングルのローマ字表記、グロス、和訳の順に提示する。歴史的資料から収集した用例の現代韓国語訳は筆者によるもので、和訳は必要に応じて日本人の母語話者に検討してもらった。

そして、漢字の字体については、用例の漢字は原文そのまま表記しており、それ以外は新字体にすることとする。

1.2.4 韓国語(ハングル)の表記

本論文での韓国語のハングル字母のローマ字表記は、「国語のローマ字表記法」に従う。

「国語のローマ字表記法」は2000年7月7日文化観光部告示第2000-8号であり、韓国語における現行のローマ字表記法である。

母音

ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅣ
a	ya	eo	yeo	o	yo	u	yu	eu	i

ㅞ	ㅟ	ㅚ	ㅜ	ㅜ	ㅞ	ㅟ	ㅚ	ㅜ	ㅟ	ㅚ
ae	yae	e	ye	wa	wae	oe	wo	we	wi	ui

子音

ㄱ	ㄴ	ㄷ	ㄹ	ㅁ	ㅂ	ㅅ	ㅇ	ㅈ	ㅊ
g, k	n	d, t	r, l	m	b, p	s	ng	j	ch

ㅋ	ㅌ	ㅍ	ㅎ	ㄱ	ㅌ	ㅍ	ㅅ	ㅈ
k	t	p	h	kk	tt	pp	ss	jj

なお、現代語に消滅している旧ハングル¹³の字母に関しては、本論文において以下の通り規定する。

旧ハングル

·	ᄃ	△	ᄆ	ᄇ
@	b'	z	h'	ng'

ただし、「ㄱ, ㄷ, ㅂ, ㄹ」は母音の前では「g, d, b, r」で、子音の前や語末では「k, t, p, l」で表記するのが原則であるが、論文などの特殊分野での転写は「g, d, b, l」のみ用いられるという別勅がある。本論文は、前述した別勅に従って、「ㄱ, ㄷ, ㅂ, ㄹ」は「g, d, b, l」のみで用いることにする。

1.3 本論文の構成

本論文は、全六章から構成される。

第一章では、序論として研究の背景や研究目的、研究方法を述べている。

第二章では、本論文に関わる全般的な先行研究を述べる。まず、漢語の概念と位置について触れた後、漢語動詞における漢語はいかなる性質をあらわしているのか述べる。次は、日韓両言語において「スル」と「hada」はいかにして取られてきたかを述べるため、「スル」と「hada」の先行要素を調べ、「スル」と「hada」に関する先行研究を概観する。そして、「スル」と「hada」が「機能動詞」として扱われるため、機能動詞についての先行研究を紹介する。最後に、日韓両言語における漢語動詞の対照研究について概観する。

第三章では、日韓漢語動詞について述べて、分析する。日韓両言語における一字漢語動詞と二字漢語動詞はいかなる形態が取られ、その性質について検討したうえ、日韓両言語での相違点と類似点を述べる。そのうえ、本論文での「漢語動詞」の定義を立てる。

第四章では、第三章において取り上げた一字漢語動詞と二字漢語動詞が時代の流れによりいかなる変化様相がみられてきたかを考察する。本論文で対象とするのは日本語の場合は平安時代から、韓国語の場合は15世紀後半からである。歴史的な文献から漢語動詞を取り上げ、漢語動詞の形態の変遷について記述・分析した後、日韓漢語動詞の相違点と類似点について述べる。現代語からさかのぼる観点を取る。

第五章では、韓国語漢語動詞の主な形態である「hada形」を取っているが、性質として

¹³ 「ᄃ」: 有声両唇破擦音 [β]

「△」: 有声歯茎摩擦音 [z]

「ᄆ」: 声門破裂音 [ʔ]

「ᄇ」: 軟口蓋鼻音 [ŋ]

は形容詞性があらわれる場合について考察を行う。このように性質としては形容性があらわれるが「hada形」が取られているのを本論文では「漢語形容詞」と称する。漢語形容詞の考察は、本論文のテーマである漢語動詞に離れているが、漢語動詞と同様の「hada形」を取っている点で検討すべきであると考えられる。主に韓国語の漢語形容詞について述べており、「hada形」以外の「他形」が形容詞性をあらわす場合も考察範囲に含める。そして最後は、漢語形容詞に対応してあらわれる日本語の形態についても検討する。

第六章では、第三章から第五章にかけて述べてきた内容を網羅し本論文をまとめる。そして、今後の課題について述べる。

第二章 先行研究

本章では、日本語と韓国語の漢語動詞に関する先行研究について概観する。

まず、日韓両言語での漢語について述べる。日韓両言語では漢語をいかにして取っているのか述べ、漢語動詞で用いられる漢語はどのような性質をあらわしているのか述べる。

次に、日韓両言語で「スル」と「hada」がいかにして捉えられてきたか概観する。漢語動詞は通常、漢語の後部に「スル」と「hada」が用いられるため、本論文で「スル」と「hada」の特質について取り上げるのは重要であると考えられる。

また、漢語の後部に付加する「スル」と「hada」は、機能動詞として扱われるため、機能動詞についても取り上げる。

最後に、日韓両言語における一字漢語動詞と二字漢語動詞の対照研究について述べる。

2.1 漢語について

2.1.1 漢語の概念と位置

承知の通り、日本と韓国は「漢字文化圏」と呼ばれている文化共同体に属している。漢字文化圏とは、簡単に言えば、漢字を読み書きできる人々が相互に意思の疎通をはかることができた集団であり、日本人と韓国人どうしの間でも、漢字で文を書ければ、通訳は不要であった。しかしながら、時代の流れに沿って、漢字文化圏という結束力は弱くなり、現在は日韓の交流の場で漢字を用いる意思疎通は不可能である。

日本と韓国では文字として漢字が使われており、漢字で作られた語は「漢語」である¹⁴。日本語は「漢語」で、韓国語では「漢字語」と称しているが、本論文では日本語の方の用語である「漢語」と呼ぶことにする。

「漢語」は日韓両言語でどのように定義しているのか述べる。日本語と韓国語においての「漢語」とはそれぞれ以下のように定義している。

¹⁴ 漢語を分析する際には中国から輸入された漢語と和製漢語、そして韓国語で作られた漢語に分けて分析すべきである。しかし、このような分析は現時点では難しいと考えられる。本論文では、区別せず分析を進めていく。中国から伝わった漢語、和製漢語、韓国語で作られた漢語の区別を踏まえた分析は、今後の課題としたい。

(1) 日本語における「漢語」

和語に対して漢音、呉音など漢字の字音による語。また、漢字の熟語。字音語。

もともと中国で用いられていたものを日本語の中に借用したもの、和語に漢字をあてて音読したもの、日本で作られたものなどがある。

〈日本国語大辞典〉

(2) 韓国語における「漢語」

漢字に基づいて作られた語

〈標準国語大辞典〉

本論文では、日本語では和語に対して漢音、呉音など漢字の字音による語、韓国語では漢字で表記できる語を「漢語」として呼ぶことにする。

なお、現在、日韓両言語での漢語の比重はどの程度なのかについて調べて述べたい。野間(2010)では、日本語と韓国語の語彙はその作られ方からみて、三つの語彙から成り立っていると述べている。以下のように示すことができる。

(3)a. 日本語の語彙

- ①古くから日本語にあるとされる、いわゆる「やまとことば」 → 和語
- ②中国から入ってきた漢字を基礎にできている → 漢語
- ③欧米などから入ってくる → 外来語

b. 韓国語の語彙

- ①韓国語の固有の単語と思われる → 固有語
- ②漢字を基礎にできている → 漢語
- ③欧米などから入ってくる → 外来語

野間(2010:43-43)

日韓両言語では両方、「恋」「사랑sanlang恋」のような固有の語彙である「和語」と「固有語」があり、「運動」「운동undong運動」のように漢字で作られている「漢語」、「デート」「데이트deiteuデート」のように欧米などから輸入されてきた「外来語」が存在する。ところが、野間(2010)には述べていないが、「混種語¹⁵」もあり、これら四種類の語種の割合を示すと以下ようになる。

¹⁵ 混種語とは、和語(または、固有語)、漢語、外来語という語種の異なる形態素からなる複合語のことを指す。たとえば、日本語では「ガラス窓、輪ゴム」など、韓国語では「양파yang-pa(洋ねぎ;たまねぎ)」「차드라이브cha-deulaibeu(車ドライブ)」などがあげられる。

表3 日韓両言語における語種の割合

	和語・固有語	漢語	外来語	混種語
日本語 ¹⁶	33.8%	49.1%	8.8%	8.4%
韓国語 ¹⁷	25.9%	58.5%	4.7%	10.9%

上記の表3から分かるように日本語と韓国語においての漢語は語種の半分くらいを占めており、両言語での漢語の比重は大きいと思われる。

チョ,ヘジン(2012)によると、日韓両言語での漢語は、同形の漢語の場合、意味により分類できると述べている。①同様の意味で使われる場合、②一方の意味領域が広い場合、③違う意味で使われる場合、④一方では使われていない場合の四つに見分けられ、それぞれの例を提示することができる。

(4)同様の意で使われる場合：家具、家庭、国家、経済、環境、危険…

(5)一方の意味領域が広い場合：時代

a. 日韓同様の意味：社会構造・政治形態や文化・思想など、ある目安によって区分された、相当の長さの歴史的期間

例) 時代の流れ、平安時代

b. 日本語のみあらわれている意味：人の一生におけるある時期

例) 学生時代

(6)違う意味で使われる場合：工夫

a. 日本語での「工夫」：よい方法や手段をみつけようとして、考えをめぐらすこと。また、その方法や手段。

例)新しい方法を工夫する。

b. 韓国語での「工夫」：学問や技術を学ぶ

例)언어학을 공부(工夫)하다.

eoneohag-eul gongbu(工夫)-hada

言語学-を 工夫-する

(言語学を勉強する)

¹⁶ 『新選国語辞典(2002)』から引用

¹⁷ 『高等学校の文法の教科書(2002:117)』から引用

(7) 一方では使われていない場合：

a. 日本語のみで使われる「了解」：物事の内容や事情を理解して承認すること。

例) 彼は友の言う意味をすぐに了解した。

b. 韓国語のみで使われる「無顔」：恥ずかしいこと

例) 어제의 행동이 무안(無顔)했다.

eoje-ui hangdong-i muan(無顔)-ha-essda

昨日-の 行動-が 無顔-する-過去終止形

(昨日の行動が恥ずかしかった)

(4)は日韓両言語で同様の意をあらわしている漢語であり、日韓両言語において大部分を占めている。(5)は主な意味は同様であるが、一方の意味領域が広い場合である。「時代」は(5)から分かるように日韓両言語で「歴史的な時期」で使われているが、日本語では「人の一生における時期」の意味もあり、「学生時代」は韓国語では使われていない。(6)は同形の漢語が日韓両言語で異なる意味であらわれる場合で、「工夫」は代表的な語例である。日本語では「手段と方法を考える」の意で使われるが、韓国語では「勉強」の意があらわれている。(7)は日本語と韓国語のうち、一方のみで出現する漢語の場合で、「了解」は日本語のみで、「무안muan無顔」は韓国語のみで観察される。

以上、日本と韓国での漢語の定義とその位置、そして日韓両言語における同形の漢語の意味による区分について述べた。日本語と韓国語での漢語はそれぞれの語彙のうち、重要な位置を占めている。日韓両言語の同形の漢語は同様の意を持っている場合が多いが、それではない場合もある。

本論文では、上記で述べている「漢語」が日本語と韓国語で動詞として用いられる場合、いかなる形態であらわれているのかとどのような形態の変遷をみせるのかに焦点を当てた研究を行う。そのため、漢語本来の意については取り上げないとする。

2.1.2 漢語動詞における漢語について

以上、漢語について述べたが、本節では、漢語動詞における漢語がいかなる性質を持っているのか述べる。

日韓両言語ですべての漢語が必ずしも漢語動詞になるのではない。漢語動詞になれる漢語はどのような性質を持っているのか先行研究を踏まえつつ述べる。

「近代」「問題」という漢語は「スル」と結合して「近代する」「問題する」になれない。これについて劉(2000)では「「近代」「問題」などは「動作性の意味を持っていないためである」と説明している。そのうえ、「通常「スル」との結合が可能な漢語名詞は動作性の意味を持っているものであることが理解される」と述べている。

ところが、動作性の意味を持っていないとみられる「学校」「電話」の場合は、「学校する」は不可能であるが、「電話する」は可能である。

- (8)a. 学校 → *学校-(を)-する
b. 電話 → 電話-(を)-する

- (9)a. 학교hagkyo学校 → *학교hagkyo学校-(를leulを)-하다hada
b. 전화jeonhwa電話 → 전화jeonhwa電話-(를leulを)-하다hada

日韓両言語で「学校」「電話」は、「東京には学校がたくさんある」「うちには電話がある」のように具体名詞であるが、(8b)と(9b)から分かるように「電話」の場合は「スル」と「hada」が後続でき、「学校」には「スル」と「hada」が付けられない。これについて、村木(1992)では以下のように述べている。

- (10)a. あなたのうちに電話がありますか。
b. あなたにさきほど電話がありました。

村木(1992:216)

村木(1992)では、(10a)の「電話」は具体名詞であるのに対して、(10b)の「電話」は動作名詞と解釈でき、具体名詞の「電話」は電話のハードウェアであり、動作名詞の「電話」は電話のソフトウェアであると述べている。「学校」のような具体名詞は「スル」と「hada」が付けられないが、「電話」のように具体名詞と動作名詞の二側面をあわせもった漢語の場合は「スル」と「hada」が取られている。

以上から、漢語動詞になれる漢語は、動作性を持っている場合であることが分かった。

2.2 「スル」と「hada」について

2.2.1 「スル」と「hada」の先行要素

日韓両言語における動詞は、以下の(11)のような一般動詞と、(12)のように「スル」「hada」が付加する動詞とに二分することができる。

- (11)a. 買う 行く 立つ 飛ぶ 死ぬ 住む 寝る…
b. 사다 가다 서다 날다 죽다 살다 자다…
sa-da ga-da seo-da nal-da jug-da sal-da ja-da

- | | | | |
|--------|---------|--------------|-------------|
| (12)a. | 仕事する | いたずらする | 運動する… |
| | b. 일하다 | 장난하다 | 운동하다… |
| | il-hada | jangnan-hada | undong-hada |

一方、韓国語の場合、形容詞は(14)と(15)から分かるように「hada」の形を取っている場合も観察される。

- | | | | | |
|--------|---------|----------|--------|----------|
| (13)a. | 明るい | 暗い | 長い | 短い… |
| | b. 밝다 | 어둡다 | 길다 | 짧다… |
| | balg-da | eodub-da | gil-da | jjalb-da |

- | | | | |
|--------|-----------|----------|-----------------|
| (14)a. | やさしい | 厳しい | 寂しい… |
| | b. 착하다 | 엄하다 | 쓸쓸하다… |
| | chag-hada | eom-hada | sseulsseul-hada |

- | | | | |
|--------|------------|---------------|----------------|
| (15)a. | 貧乏だ | 幸福だ | 正確だ… |
| | b. 가난하다 | 행복하다 | 정확하다… |
| | ganan-hada | haengbog-hada | jeonghwag-hada |

(13)、(14)、(15)をみると、日本語の形容詞は「-い、-だ」の形式であり、韓国語の方は動詞と同様に「-다-da」の一つしかない。そのうち、(14b)と(15b)は両者とも「hada」が使われている形であるが、結合度が異なる。(14b)は結合度が高い、先行要素と「hada」が分離不可能であり、(15b)は先行要素の独立性が強い、結合度が低い。以上から日本語の「スル」の形態はすべて動詞をあらわすのに対し、韓国語の「hada」は場合に沿い動詞と形容詞に分けられることが分かった。形容詞の場合については、第五章で詳しく述べる。

本節では「スル」と「hada」の先行要素を語種により分類し、検討することにする。

2.2.1.1 「スル」の先行要素による分類

日本語は、和語・漢語・外来語に分け、「スル」の前部には和語・漢語・外来語を置くことができる。「スル」の先行要素が和語である場合は、以下のようである。

(16)和語

- a-1. 仕事する、恋する、いたずらする
- a-2. まばたきする、手招きする、出入りする

b. ざらざらする、いらいらする、うっかりする、しっかりする

先行要素が和語の場合、主に(16a)の名詞の場合と、(16b)の副詞性要素の場合に分けられる。

名詞の場合は(16a-1)のように本来名詞である場合、(16a-2)のように動詞の名詞化による連用形名詞の場合が出現している。

(17)だが、恋する気持ちは止められない

<舟を編む>

何のために仕事してんのか

<ハナミズキ>

(18)これ、カグヤが作った煮物だけど、味見しない？

<舟を編む>

主人公の動作の切れ目などに合わせてまばたきするということは

<読売>2017

(19)何があったの？しっかりして、成実！

<真夏の方程式>

ざらざらしてるでしょ

<舟を編む>

(17)から(19)までは日本語の「和語+する」の用例である。(17)は(16a-1)のようなもともと名詞の場合で、(18)は(16a-2)のような連用形名詞の場合である。(19)は(16b)の用例であり、副詞性要素と「スル」が結合して使われているのがみられる。

次に、「スル」の先行要素として漢語があらわれる場合がある。

(20)漢語

a-1. 運動する、研究する、案内する

a-2. 逃亡する、故障する、拍手する

b-1. 愛する、樂する、損する、得する、害する

b-2. 対する、達する、関する、接する、属する

c. 近代化する、国際化する、民主化する、単純化する

問題視する、度外視する、過大視する、異端視する

二字漢語の場合、(20a)のように「スル」と結合し動詞になり極めて生産的である。

一方、一字漢語の場合は、上記の(20b)のような例が挙げられる。(20b-1)は一字漢語が名詞として使われ、自立的であるが、(20b-2)は先行要素である一字漢語と「スル」が分離不可能である。

なお、(20c)の場合、接尾辞である「化」「視」が漢語の後部についた形態と「スル」が結合している。「化」は主に漢語の名詞について、「そういう物・事・状態に変える、または変わる」という意をあらわし、「視」は名詞の下につけて、「…と考える」「…とみなす」という意味をあらわしており、両者とも動詞化している。「化」「視」などは漢語以外にも結合し、次の用例のように和語とも結合した状態で使われている。

(21) なんも、段々オヤジ化してきてんだ

〈ハナミズキ〉

次は、「スル」の先行要素として外来語があらわれる場合である。

(22) 外来語

サイン(sign)する、ノート(note)する、テスト(test)する

外来語は主に英語から受け入れ、もともと動詞や形容詞であるとしても名詞として扱われている。(22)の外来語の場合、単独では名詞であるが、「スル」と結合して動詞になる。以下は「外来語+する」の用例である。

(23) 普段はここでバイトして金が貯まったらあちこち写真撮りに行ってんだ

〈ハナミズキ〉

一週間うちの新しいお店がオープンするまで

〈真夏の方程式〉

外来語を動詞化する際に、「スル」のほか「-ル」の形態の造語も可能であり、例えば、「メモる」「事故る」があげられる。

以上、「スル」の前部に置く先行要素を語種により分類し検討したが、「スル」は和語・漢語・外来語のすべての語類と結合でき、動作性名詞と結合して動詞を作る機能を有し、生産性のある動詞である。

2.2.1.2 「hada」の先行要素による分類

「hada」の先行要素も、日本語と同様に固有語、漢語、外来語に分けられる。以下は、「hada」の先行要素が固有語である場合を示す。

(24)固有語

a. 일하다	il-hada	仕事-する	仕事する
사랑하다	salang-hada	愛-する	愛する
b. 달리기하다	dalli-gi-hada	走り-する	走る
밤샘하다	bam-sae-m-hada	夜+明かし-する	夜更かしする
달맞이하다	dal-maj-i-hada	月+迎え-する	月見する
c. 젓가락질하다	jeosgalag-jil-hada	箸-使い-する	箸を使うことをする
d. 반질반질하다	banjilbanjil-hada	つるつる-する	つるつるする
쿵광쿵광하다	kungkwangkungkwang-hada	すべすべ-する	すべすべする

(24)は韓国語の固有語の場合で、(24a)、(24b)、(24c)は名詞、(24d)は擬態語・擬声語の場合である。

(24a)の「일il仕事」「사랑salang愛」は単純名詞である。(24b)は、先行要素が動詞の名詞化の場合であり、日本語の連用形名詞の場合と異なり、動詞の語幹に「기gi」「(으)口(eu)m」「이i」などの接尾辞がつけられ派生する。これは日本語の「さ、み」などの接尾辞をつける形容詞の名詞化に似ている。

(24b)の例である「달리다dalli-da」「밤새다bamsae-da」「달맞이다almaj-da」はそれぞれ名詞化され、「달리기dalli-gi」「밤샘bamsae-m」「달맞이almaj-i」になり、「hada」と結合できる。

次に、(24c)のような接辞「-질jil」による動作性名詞化は、日本語とは異なる造語法であるといえる。「-질jil」は以下のように定義される。

(25)-질jil

①(道具をあらわす名詞の後ろに付いて)その道具を持って何かすること

: 가위질 gawi-jil ハサミ-jil
망치질 mangchi-jil ハンマー-jil

②(身体をあらわす名詞の後ろに付いて)その身体を用いて何かすること

: 손가락질 songalag-jil 指-jil
주먹질 jumeog-jil 拳-jil

③(職業をあらわす名詞の後ろに付いて)その職業を下目に見える意味をあらわす

: 선생질 seonsaeng-jil 先生-jil

목수질 mogsu-jil 大工-jil

④(一部の名詞の後ろに付いて)よくない行為の意味をあらわす

: 노름질 noleum-jil ばくち-jil

싸움질 ssaum-jil 喧嘩-jil

⑤(ものをあらわす名詞の後ろに付いて)そのものを持って何かすること

: 물질 mul-jil 水-jil

풀질 pul-jil 糊-jil

⑥(擬声語または語根の後ろに付いて)その音をする行為の意味をあらわす

: 딸꾹질 ttalkkug-jil しゃっくりの音-jil

수군덕질 sugundeog-jil ひそひそ話す-jil

(25)に挙げられている例はすべて単独では「hada」との結合ができず、「-질jil」を下接して動作をあらわし、「hada」との結合を可能にする。動作性の意味を持たない名詞に後接し、動作性を持たせるのは「-化」「-視」の役割と似ている。

また、(24d)のように「hada」の先行要素が擬態語・擬声語である場合は、日本語の場合と同様に生産的である。

一方、「hada」の先行要素の語種が漢語であるものをあげると以下のようになる。日本語の場合とほぼ同様の分類ができる。

(26)漢語

a-1.	공부하다	gongbu-hada	工夫-する	勉強する
	운동하다	undong-hada	運動-する	運動する
	노력하다	nolyeog-hada	努力-する	努力する
a-2.	가능하다	ganeung-hada	可能-する	可能だ
	간단하다	gandan-hada	簡単-する	簡単だ
	건강하다	geongang-hada	健康-する	健康だ
b-1.	욕하다	yog-hada	辱-する	悪口を言う
b-2.	관하다	gwan-hada	関-する	関する
	반하다	ban-hada	反-する	反する
	접하다	jeob-hada	接-する	接する
b-3.	급하다	geub-hada	急-する	急ぐ
	권하다	gwon-hada	勸-する	勧める

강하다	gang-hada	強-する	強い
c. 근대화하다	geundae-hwa-hada	近代-化-する	近代化する
국제화하다	gugje-hwa-hada	国際-化-する	国際化する
민주화하다	minju-hwa-hada	民主-化-する	民主化する
경시하다	gyeong-si-hada	輕-視-する	輕視する
문제시하다	munje-si-hada	問題-視-する	問題視する
도외시하다	dooe-si-hada	度外-視-する	度外視する

韓国語の「hada」が極めて生産的であることは、前節で触れた通り日本語の場合と同様の
特徴である。特に(26a-1)のように二字漢語は「hada」と結合して漢語動詞になり、日
本語の「漢語+する」の形の漢語動詞と似ている。(26a-1)は日本語と対応関係で、韓国語
の漢語動詞のうち最も多いものであると思われる。

ところが、(26a-2)は日本語との相違点がみられる場合である。(26a-1)はすべて
「공부하다gongbu-hada : 勉強する」 「운동하다undong-hada : 運動する」
「노력하다nolyeog-hada : 努力する」のように「hada」と「スル」が対応してあらわれる
が、(26a-2)の場合は、「가능하다ganeung-hada : 可能だ」 「간단하다gandan-hada : 簡単
だ」 「건강하다geongang-hada : 健康だ」のように韓国語の「hada」に日本語の形容動詞
の形である「-だ」が漢語の後部についてあらわれる。日本語は動詞の場合は「スル」、
形容詞の場合は「-だ」にその形が分かれているが、韓国語は動詞も形容詞も「hada」が
後接してあらわれることが相違点である。形容詞の「hada形」については第五章で詳しく
述べることにする。

先行要素が一字漢語による場合は、多くが(26b-2)と(26b-3)のように非自立語として
「hada」との分離が不可能なものである。(26b-1)は自立語としてあらわれるが、その数
は限られている。

(26c)は、日本語の(20c)の例と同様のパターンである。動作性を持たない漢語名詞に
「化」か「視」を付加して動作性をあらし、その後部に「hada」が接続するのである。
日本語の場合と同様、「근대geundae近代」「문제munje問題」は「hada」と結合した形で
はあられず、「근대화geundae-hwa近代化」「문제시munje-si問題視」の形のみが
「hada」と結合できる。

最後は、先行要素が外来語の場合である。日本語の場合、外来語を動詞化する際、「ス
ル」のほか前節で述べた通り、「-ル」の形態の造語も可能であるが、韓国語ではもっぱ
ら「hada」と結合してあらわれている。

(27) 外来語

- | | | | |
|-------------------|---------------|----------|---------|
| a. 스테디 (study) 하다 | seuteodi-hada | スタディー-する | スタディーする |
| 서비스 (service) 하다 | seobiseu-hada | サービス-する | サービスする |
| b. 스마트 (smart) 하다 | seumateu-hada | スマート-だ | スマートだ |
| 핸섬 (handsome) 하다 | haenseom-hada | ハンサム-だ | ハンサムだ |

(27)は外来語の後部に「hada」が付けられている場合で、(27a)は動詞、(27b)は形容詞として用いられている。固有語と漢語の場合と同様、外来語も(27b)のように「hada」が付加して形容詞化するのが日本語と異なるところである。一方、外来語の多くは欧米から与えられた語であるが、日本語から伝えてきたのも少数であるが韓国語でみられる。

- (28) 이지메하다 ijime-hada いじめ-する いじめする
 삐까삐까하다 ppikappika-hada ピカピカ-する ピカピカする

(28)の例のように日本語が韓国語に受け入れられる際にも、日本語に「hada」が結合してあらわれることが分かった。

以上、「hada」の先行要素による分類を述べたが、「hada」は、固有語・漢語・外来語のすべての語類と結合することができる。

2.2.2 「スル」と「hada」に関する先行研究

日韓両言語の最も基本的な動詞の一つである「スル」と「hada」は、多様な性質を有しており、互いに類似した性質を持っていることから日韓両言語の対照研究の分野において、最も取り上げられやすいテーマの一つであるといえる。前節で「スル」と「hada」の前部要素について述べているが、日韓語両方とも固有語、漢語、外来語が前に位置できることが分かった。本節では、「スル」と「hada」について先行研究を踏まえつつ、それぞれの性質を検討する。

まず、「スル」と「hada」の辞書的な意味を以下のように提示できる。

(29) 「スル」

① 自動詞的な用法

なんらかの動きやけはいがあらわれる。

② 他動詞的な用法

ある動作や行為を行う。

〈日本国語大辞典〉

(30) 「hada」

他動詞的な用法

人や動物、物などが動きや作用をおこなう。

〈標準国語大辞典〉

本節では、日本語における「スル」と韓国語における「hada」に関する先行研究について概観する。

2.2.2.1 「スル」に関する先行研究

日本語の「スル」に関する先行研究として山田(1908・1936)、村木(1991)があげられる。

まず、山田(1908・1936)は「形式用言」を「実質用言の補欠部分にして、其の属性的觀念極めて広汎にして、唯、思想の形式的能力をあらはすに止まるが如き性質の用言なり。之を使用するには殆大抵実質ある語を添へざるべからず(1908:312)」と定義し、形式用言のうち動作性形式用言を「形式動詞」と呼び、「形式動詞」に属するものは「スル¹⁸」の一語のみであると述べている。

形式動詞の性質としては「実質的属性觀念を捨象したる其の形式をあらはすもの(1908:317)」と述べつつ、「スル」については「動作の形式のみをあらはして具体的の実質を考ふべからざるもの、英語のdoに似たり(1936:149)」と説明している。そして「スル」は名詞、漢語、外国語などを動詞とする力を持っていると述べており、以下のような語例を示している。

(31)a. 名詞を動詞とするもの

音す 心地す 罪す 尽きす 欲りす

b. 漢語を動詞とするもの

研究す 分配す 奏上す 勉強す 依頼す 利す 要す 議す 論ず 案ず 観ず

c. 外国語を動詞とするもの¹⁹

祝(プレス)する 詛(ウオ-)する

山田(1908:257)

なお、「スル」を「形式動詞」のみではなく、「代動詞的な用法」もあると説明している。(下線は引用者による)

¹⁸ 原文は、「す」であらわれている。

¹⁹ 原文は、「庶幾は祝(プレス)する處多くして詛(ウオ-)する處鮮からしめよ(1908:257)」である。

(32) 「す」といふ語は動詞としての属性を有することは明かなるが、その属性は甚だ広漠たるものにして、ただ動作作用といふ極めて抽象的の意をあらはすものなるが故に、いづれの動詞の意をあらはすにも代用せらるべき性質を有するなり。この故にこの語が実地に用ゐらるるにあたりては種々の事相を呈するものなり。即ちこの「す」の上に他の語を冠せしめて、その動作作用を具体的に示すこと少なからず。

山田(1936:648)

山田(1936)は上記の内容に付け加え、以下のような例を提示した。(下線は引用者による)

(33) 今にして(至りて)わが思慮の足らざりしをさとりぬ。

刀して(を用いて)削る。…

文して(をかきて)いひおとす。

つまり、(33)の例における「スル」は、それぞれ括弧内の動詞であらわれている「至る、用いる、かく」の代理として機能していると捉えるわけである。

一方、村木(1991)は「実質的な意味を名詞にあずけて、みずからはもっぱら文法的な機能をはたす動詞(1991:203)」を「機能動詞」として捉えており、以下の例をあげている。(下線と太字は村木(1991)による)

(34) a-1. 太郎は花子をさそった。

a-2. 太郎は花子にさそいをかけた。

b-1. 山田さんは早速課長に連絡した。

b-2. 山田さんは早速課長に連絡をとった。

c-1. 日本の住宅事情を考慮して…

c-2. 日本の住宅事情を考慮にいれて…

d-1. なにかににおう。

d-2. なにかににおいがする。

村木(1991:204)

(34)では、「さそい」「連絡」「考慮」「におい」などの広い意味での動作性、つまりそれぞれ行為、過程、状態、現象の動詞性を持っている名詞によってあらわれ、これらの名詞とくみあわさっている「かける」「とる」「入れる」「する」といった動詞は、実質的な意味が薄く、述語形式をつくるための文法的な機能をはたしている。

(36) 한자로서의 그 본의가 임자씨(体言)인 것은 물론이요, 설혹 그 본대가 분명히 움직씨(動詞)인 것일지라도, 그것이 우리말이 될 적에는 반드시 이름씨(名詞)로 보고 그것에 다시 뒷가지 “하다”를 붙이어서 비로소 움직씨(動詞)나 그림씨(形容詞)로 만드나니; 이는 일반적으로 다른 나라 말을 우리말로 만드는 데에 한 보편적 법칙이 되느니라)

漢語のその本来の意が動詞であるとしてもそれが韓国語に輸入する時には必ず名詞として扱い、それに接尾辞の「hada」を付加して動詞か形容詞を作る；これは一般的に他国から輸入された語を韓国語として用いる法則である。

チュ,ヒョンベ (1929:673)

チュ,ヒョンベ(1929)では(36)のように「hada」を転成接尾辞として扱えると述べているが、転成接尾辞のみではなく、形式的な動詞、すなわち、「形式用言」として扱われる可能性があるとして述べている。(下線は引用者による)

(37) “하다”를 씨가지로 보지 아니하고 일종의 형식적 풀이씨(형식적 움직씨, 형식적 그림씨)로 보고서, 이름씨에 “하다”가 붙어서 된 움직씨와 그림씨를 겹씨(複詞)로 풀 수도 있을 것이다.

「hada」를接辞として扱わず、一種の「形式的用言(形式的な動詞、形式的な形容詞)」として見做し、名詞に「hada」がついて作られた動詞と形容詞を複合語として扱うことが出来るだろう

チュ,ヒョンベ (1929:674)

一方、ソ,ジョン스(1975)は、「hada」に多様な機能があるのではなく先行要素の意味分析によって「hada」の機能を分析すべきであると主張しつつ、「hada」の機能を一貫して規定している。「hada」の先行要素は実体性と非実体性に大きく分けられ、先行要素が実体性を持つ要素である際には他の適切な動詞を代理する「代動詞」として、先行要素が非実体性の要素である際には実質的意味を持っておらず、単に述語化する機能でしかはたされない「形式動詞」として捉えられると述べている。そのうち、「形式動詞」としての「hada」は、漢語や外来語の後部に添え、動詞の形態を作ることであると述べている。(下線は引用者による)

(38) 독서를 한다.

dogseo-leul ha-nda

讀書-을 する-現在終止形

- (39) a. 술을 한다.
sul-eul ha-nda
お酒-を する-現在終止形
- b. 술을 마신다.
sul-eul masi-nda
お酒-を 飲む-現在終止形

(38)の「hada」は動詞としての形式的な機能のみをはたしている。しかし、(39a)の「hada」は先行要素の「술sulお酒」から予測される動詞、つまり(39b)のような「마시다masida飲む」という動詞を代理しあらわれている。(39a)のように「代動詞」になる場合の「hada」については文化、社会的な要素が含まれていると述べているが、上記の(39a)の「hada」は「사다sada買う」「따르다ttaalruda注ぐ」などの動詞ではなく、「마시다masida飲む」の意を持っている動詞のみを代理するわけである。

以上をまとめると、韓国語における「hada」は日本語の「スル」と同様、まず、本来の意を失い、動詞を作る形式的な役割を担っており、次は、具体的な動詞の代理として機能している。ところが、「hada」には形容詞を作る機能もあるということが日本語との異なる点である。

2.3 機能動詞について

前節で述べている通り、漢語動詞とは日韓両言語で「漢語+スル」と「漢語+hada」の形態を取る動詞を指している。日本語の「スル」について村木(1992)では、「典型的な機能動詞で、実質的な意味をもった本来の用法のずれとしてではなく、ここでとりあげている、動作性・名詞性・むすびについて文法的なはたらきをするための動詞としてもともとある性格を持ったもの」であると述べている。韓国語の「hada」も語彙的な意味はなく、文法的な役割を担っているといえる。ところが、「スル」と「hada」以外の機能動詞も存在し、これらはどのような性質を持っているのか述べる。

本節では、「機能動詞」についての先行研究を紹介する。まず、実質動詞と機能動詞の対立について述べる。(下線は引用者による)

(40) <実質動詞としての用法>

- a. 木の実をとる
- b. お金をはらう
- c. 品物をおくる
- d. 皿をかさねる

<機能動詞としての用法>

- 連絡をとる
- 努力をはらう
- 拍手をおくる
- 練習をかさねる

村木(1992:217)

左にあげた名詞は「木」「お金」「品物」「皿」といった具体的なものをさししめしている。それに対して、右にあげた名詞は「連絡」「努力」「拍手」「練習」といった動作名詞である。これについて村木(1992)では、以下のように述べている。(下線は引用者による)

(41) 動作名詞のような非具体名詞とむすびついた動詞の意味は、抽象的形式的な意味にずれていて、具体名詞とくみあわさった動詞とくらべると、相対的に、意味がぼやけている。

村木(1992:219)

動詞の「意味がぼやけている」ことで、(40)の「とる」「はらう」「おくる」「かさねる」は機能動詞として扱える。

一方、金恒洵(2006)では日韓語における機能動詞に関する対照研究を行ったが、動詞の実質的な意味をあらわす例と機能動詞として使われる場合の例を以下のように示している。

- (42) a. 木の実をとる。
- b. 連絡をとる。

- (43) a. 야구공을 치다.
yagu-gong-eul chida
野球-ボール-を 打つ
(野球ボールを打つ)
- b. 장난을 치다.
jangnan-eul chida
いたずら-を 打つ
(いたずらをする)

以上、金恒洵(2006:26)

(42a)では具体名詞、(42b)では動作名詞が使われており、後部に付加した「とる」の意味は互いに異なっている。金恒汨(2006)では、(42a)では「とる」の実質的な意味がそのままいきているが、(42b)ではほとんどそのような意味は感じられないと述べている。韓国語の(43)でも同様のことがいえる。金恒汨(2006)は、以上を述べた後、動詞の持つ実質的な意味とは「その動詞のもっとも典型的な意味である」と述べており、機能動詞を「実質的な意味を持った動詞が文法的な役割をするために用いられていること」と定義している。金恒汨(2006)の解釈からみると、機能動詞は動詞が文法的な役割をするため用いられているので、本来持っている典型的な意味から離れていると解釈できる。

「スル」と「hada」は、漢語の後部に付加される典型的な機能動詞であるが、「スル」と「hada」以外の機能動詞もあり、これらの意味は動詞本来の意味から離れている。日本語の「スル形」に対応する韓国語のうち、「hada形」としてあらわれておらず、漢語の後部に「hada」以外の動詞がついて出現している場合がある。この場合は漢語動詞として扱えるかの問題が生じ、これについては第三章で詳しく述べることにする。

2.4 日韓漢語動詞の対照に関する先行研究

日韓両言語の漢語動詞は、「一字漢語+スル・hada」の一字漢語動詞と「二字漢語+スル・hada」の二字漢語動詞がある。以下、それぞれの先行研究を紹介する。

まず、二字漢語動詞の場合、日本語の「二字漢語+する(スル形)」と韓国語の「二字漢語+hada(hada形)」を研究対象とし、主に「スル-hada」と「サレル-doeda」の対応関係に焦点を合わせたボイスに関する研究が盛んに行われてきている。そのうち早い時期の重要な論文として位置付けられるのが生越(1982)である。

生越(1982)は、日本語の「する」は非常に生産的であり、漢語動詞のボイスに関する形態の対立は一般の動詞に比べ単純かつ規則的なものであると述べている。そして、韓国語の「hada」も生産的な点、また一般の動詞より単純かつ規則的な形態の対立をなす点で、日本語の漢語動詞と平行的な性格を持つと述べている。

生越(1982)では日韓両言語における漢語動詞の対応関係を以下のように分類する。

(44) I. (自動詞)

スル形 ⇔ hada形

II. (自動詞)

スル形 ⇔ doeda形

III. (他動詞)

スル形 ⇔ hada形

サレル形 ⇔ doeda形

自動詞の場合は、(44)のⅠから分かるように「スル形」と「hada形」、(44)のⅡのように「スル形」と「doeda形」が対応している。そして他動詞の場合、(44)のⅢのように「スル形」と「hada形」が対応しており、その受動形として「サレル形」と「doeda形」が対応している。

生越(1982)では(44)のような対応関係について以下のように説明している。

(45)a. 彼はどんな苦しい時でも挫折しなかった。

b. geu-neun eotteon goelou-n ttae-edo jwajeol-ha-jianh-assda.
彼-は どんな 苦しい-連体形 時-にも 挫折-する-否定-過去終止形
生越(1982:56)の改変

(46)a. 計画が挫折した。

b. gyehoeg-i jwajeol-doe-eossda.
計画-が 挫折-なる-過去終止形

生越(1982:56)の改変

(45)は(46)は、Ⅰの「スル形」と「hada形」が対応する用例であり、(46)は、Ⅱの「スル形」と「doeda形」が対応する用例である。(45)の主語「彼」と「그geu(彼)」は、その意志によって「挫折」という動作の実現をコントロールできるものである。従ってこの場合、主語は動作主として認められる。一方、(46)の主語「計画」と「계획gyehoeg(計画)」は、自らの力で「挫折」という動作・作用を起こすことはできない。そのため、主語は動作主とは認めがたい。以上から、「スル形」に対応する「hada形」と「doeda形」の区別は、主語が動作の動作主か否かによるものであることが分かる。しかし、日本語では(45a)と(46a)から分かるように「スル形」が用いられており、韓国語のような主語が動作主か否かによる形態は区別されない。(46)のような「スル形」は主語による積極的な働きかけが示されていない。

一方、(44)のⅢの場合、「スル形」と「hada形」は他動詞である。「スル形」の受動形である「サレル形」は韓国語の「doeda形」に対応する。

(47)a. 国語辞典が3月に発行された。

b. gugeosajeon-i 3wol-e balhaeng-doe-eossda.
国語辞典-が 3月-に 発行-される-過去終止形

生越(1982:58-59)の改変

- (48) a. 台風によって たくさんの家屋が 破壊された。
 b. taepung-euihae manh-eun gaog-i pagoe-doe-eosdda
 台風-によって 多い-連体形 家屋-が 破壊-される-過去終止形

生越(1982:58-59)の改変

(47)と(48)をみると、主語はいずれも動作主からの働きかけを受ける対象である。動作主は(47)のように不明確な場合と、(48)のように明確な場合がある。(47)の場合、動作主があらわれなくても、文を聞く者・読む者にとって動作主が何であるか全くわからないわけではない。たとえば、(47)の「発行される」を用いた文では、しばしば文中に動作主があらわされないが、これらの語は人間による行為をあらわしており、逆に動作主が文中に示されていないか、その動作が人または人の集団・組織によってなされたことは明白である。(47)と(48)から分かるように、文の動作主は人や集団、「台風」のようにそれ自体大きな力をもつ事物であり、主語に対し積極的な働きかけを行う。言い換えれば、「サレル形」を用いた文は、常に主語に対し積極的な働きかけを行う動作主の存在を前提として成り立っている。「doeda形」は主語に動作を起こす力、すなわち自発性がないことを重視した表現であるのに対して、「サレル形」は主語に対する動作主の働きかけを重視する点に特徴がある。

以上、生越(1982)の説明を三つにまとめられる。まず、一つ目は、「スル形」には、主語が動作主である場合と、主語が動作主でなく、かつ主語に対する積極的な働きかけも示されない場合の二つの場合がある点である。次に、二つ目は、「スル形」と「サレル形」の区別は、主語に対する積極的な働きかけの有無によるものである。最後に、三つ目は、「hada形」と「doeda形」の区別は、基本的には主語が動作主のとき「hada形」、動作主でないときは「doeda形」が用いられる点である。

李成圭・関丙燦(2003)では、日本語の漢語動詞が自動詞であり、韓国語の「漢語+hada」と「漢語+doeda」が対応する場合に注目した。そのうち、韓国語の「hada形」と「doeda形」が共存している理由について考察しつつ、以下のような例をあげた。

- (49) a. 인형극이 민간사회에서 유행(流行)되었다
 inhyeonggeug-i mingansahoe-eseo yuhaeng-doe-eoss-da
 人形劇が 民間社会で 流行した
 b. 불교가 동부지방에서 유행(流行)하였다
 bulgyo-ga dongbujibang-eseo yuhaeng-ha-yeoss-da
 仏教が 東部地方で 流行した

李成圭・閔丙燦(2003)では、(49)の「人形劇」と「仏教」は動作主で扱われない名詞のため、生越(1982)によると「doeda」が使われるはずであるが、(49b)のように「hada」も使われるのを指摘し、日本語の「スル形」に対応する韓国語の「hada形」と「doeda形」の区分には動作主の存在は重要ではないと述べた。その上で自動詞文において「hada形」と「doeda形」の区別は出来事をどのように認識しているのかによると述べている。

- (50) a. 열차가 도착(到着)하였다
 yeolcha-ga dochag-ha-yeoss-da
 列車が 到着した
- b. 열차가 도착(到着)되었다
 yeolcha-ga dochag-doe-eoss-da
 列車が 到着した

(50a)のようにあらわれていないが、事件を起こした動作主が含まれている場合は「hada形」が使われ、(50b)のように動作主の存在を無視し、事件が自然に起っていることであると認識している場合には「doeda形」が使われていると述べている。

一方、一字漢語動詞の場合は、日韓両言語ともに主に二字漢語動詞を中心に行われ、相対的に一字漢語動詞についての研究は、ほとんどなされなかったといえるが、このような現象は、二字漢語動詞に比べて一字漢語動詞の重要度が落ちるからかといえ、実際にはそうではないと考えられる。今までの一字漢語動詞の研究は二字漢語動詞の研究の一部として扱われており、一字漢語動詞における単独の研究は少なかった。

近年、一字漢語動詞に対する日韓対照研究が行われているが、まだ基礎的な研究にとどまっており、主に韓国の研究者により行われている。一字漢語動詞についての主なテーマは、韓国語の一字漢語動詞における日本語の対応様相である。主な研究として全鐵(2004)と裴晋影(2010a・2010b)を紹介したい。

全鐵(2004)は日韓両言語における「一字漢語」について語構成、品詞性、一字漢語動詞、一字漢語副詞など多彩な面から対照研究を行った。そのうち、「一字漢語動詞」については、日韓両言語で「する」と「hada」がついた「一字漢語動詞」だけではなく、それ以外の動詞が連結した形態も含めて「一字漢語動詞」全般に渡って、形態における対照を行った結果を以下のように述べている。

同一の先行要素、つまり同様の形の一字漢語を持っており、「する」と「hada」が付いているのは66%を占めているが、形態に一致をみせないのは34%であった。特に、「毒する(自動詞・他動詞)-毒hada(形容詞)」、「便じる(自動詞・他動詞)-便hada(形容詞)」の場合は、日本語では動詞として使われる漢語動詞であるが、韓国語では形容詞として使われ

る場合であり、これらについては両言語における漢語の受け入れ方の差異から始まった結果であると述べている。全鐵(2004)では以下のような日韓両言語の用例を提示しつつ、日韓両言語の対応関係について述べている。

(51)a. 百円も損した。

b. 백엔이나 손해(損害) 봤다.

baeg-en-ina sonhae bo-assda

百円-も 損害 受ける-過去終止形

全鐵(2004:274)

(51)は日本語の「損する」に対して韓国語の「손해(損害)보다 sonhae(損害)-boda(損害を受ける)」が対応している。日本語の一字漢語に韓国語の二字漢語が対応することについて、二字漢語と一字漢語が自立性と安定性という面で異なる性格を持っているため、非自立的で安定的ではない一字漢語が日韓両言語で二字漢語あるいは固有語に代置されると述べている。

裴晋影(2010a・2010b)は、日韓両言語で一字漢語動詞を中心に考察している。韓国語の一字漢語動詞には、「属-hada」「反-hada」「称-hada」などのように、そのまま日本語の「スル形」に対応するものもあるが、「斬-hada(斬首する)」「酔-hada(酔う)」「薬-hada(薬を用いる)などのように、二字漢語動詞、和語動詞、句に対応し、一字漢語動詞には直接に対応しない場合が多い。日韓両言語での一字漢語動詞は語形が類似しており、「一字漢語+hada」に「一字漢語+する」が対応すると思われるが、裴晋影(2010a・2010b)の結果からも分かるように、韓国語の一字漢語動詞に日本語の異形の対応があらわれる場合が多い。

2.5 本章のまとめ

以上、日韓両言語における漢語、「する」と「hada」、機能動詞、漢語動詞について述べた。

まず、漢語の概念と日韓両言語での位置について述べた後、「スル」と「hada」の先行研究を踏まえた。漢語動詞になれる漢語は、動作性があらわれるもので、漢語の後部に付加する「スル」と「hada」は漢語を動詞化とする機能的役割を担っている典型的な機能動詞である。ところが、「スル」と「hada」以外の機能動詞もあり、これらの機能動詞の意味は本来の意味から離れている。日本語の「スル形」に対応する韓国語のうち、「hada形」としてあらわれておらず、漢語の後部に機能動詞がついて出現している場合がある。この場合は漢語動詞として扱えるかの問題が生じ、これについては第三章で詳しく述べること

にする。

次に、日韓両言語における二字漢語動詞と一字漢語動詞の対照研究の先行研究を述べたが、二字漢語動詞は、主に、「スル形」と「hada形」のボイスに関する対照研究が行われており、一字漢語動詞は日韓両言語にいかなる形で対応しているのか研究されてきたことが分かった。ところが、現代語における漢語動詞の対照研究のみで、時代の流れによる漢語動詞の形態からみられる変遷に視点を当てた研究はほとんどなされなかったのが現状である。二字漢語動詞と一字漢語動詞を一貫してそれぞれ形態がいかなる変化を経て現在にまで至るようになったのかを探ってみると、日本語の漢語動詞と韓国語の漢語動詞それぞれの漢語動詞の特徴を明らかにすることができると思われる。

第三章 日韓漢語動詞における形態の様相

日韓両言語における漢語は、それぞれ「スル」と「hada」が結合し、例えば「運動」「研究」「努力」は、日本語では「運動-する」「研究-する」「努力-する」になり、韓国語では「운동undong運動-hada」「연구yeongu研究-hada」「노력nolyeog努力-hada」になり動詞化している。また、「対」「関」「属」などの一字漢語の後部に「スル」と「hada」をつけて「対-する・대dae対-hada」「関-する・관gwan関-hada」「属-する・속sog属-hada」になり、動詞化とする場合もある。このように「漢語+する(スル形)」と「漢語+hada(hada形)」の形態の動詞を通常「漢語動詞」と呼び、一字漢語からなるのは「一字漢語動詞」、二字漢語から成り立つのは「二字漢語動詞」と称している。

一方、日本語の「スル形」に韓国語の「hada形」が対応していない場合もある。たとえば、「感染する」は「感染-doeda(なる)」、「逃亡する」は「逃亡-gada(行く)」などがそれである。このように漢語の後部に「スル」と「hada」以外の後部要素がついて動詞化しており、助詞の挿入が可能で漢語との結束力が弱い形態を本論文では「他形」と呼ぶことにする。日本語の「スル形」に韓国語の「他形」が対応する場合がしばしばあり、「他形」の形も考察の範囲に入れて、「他形」は漢語動詞になれるのかについて検討する。そして、最後に、本論文における「漢語動詞」を定義する。

3.1 日本語の漢語動詞

本節では、日本語での二字漢語動詞と一字漢語動詞の形態についてか述べ、分析する。

3.1.1 日本語の二字漢語動詞

まず、現代日本語における漢語動詞の形態を示す。(1a)の「運動する」は韓国語にも「hada形」であられるが、(1b)から(1h)の「スル形」は韓国語の「他形」に対応している。

- (1)a. 子供と一緒に運動した。
- b. 目が充血した。
- c. 旅行者が放射線に被曝した。
- d. 観客が拍手した。
- e. 泥棒が逃亡した。

- f. この作品は観客を魅了した。
- g. 政府はそう結論した。
- h. パソコンが故障した。

日本語における漢語動詞は「スル形」に固定している。(1)であらわれている「スル」について村木(1992)では、「典型的な機能動詞で、実質的な意味をもった本来の用法のずれとしてではなく、ここでとりあげている、動作性の名詞とむすびついて文法的なはたらきをするための動詞としてもともとあるという性格を持ったもの」であると述べている。村木(1992)によると「スル」は、語彙的な意味はなく、文法的な役目を担っていると解釈できる。(1a)は韓国語にも「hada形」としてあらわれる場合で、(1b)からは韓国語で「他形」として観察される場合である。

(1c)の「被曝」は現代語のみで出現している漢語で、新語の場合にも「スル形」が取られることが分かった。

(2) 死の灰、被曝の船員死亡

〈読売〉1959

「被曝」は1950年代から使い始め、動詞化して用いる場合は「スル」をつけ、「スル形」になっている。

(3)a. 少なくとも六十人以上の被曝したと見られる労働者と出会った。

〈読売〉1988

b. 米国の水爆実験で被曝した木造マグロ漁船「第五福竜丸」…(以下略)

〈朝日〉2017

ところが、(1g)の漢語「結論」は、以下から分かるように「スル」以外の「つける」を用いてあらわれる場合が多い²⁰。ただ、「つける」は「づける」に音変化している。以下に「漢語+づける」の語例を示す。

(4)a. 全体的に問題はないと結論づけた。

〈読売〉2017

²⁰ 日本人母語話者のアンケートによると、「決定づける」「関係づける」「意味づける」「関連づける」「位置づける」の場合、「スル形」(「決定する」「関係する」「意味する」「関連する」「位置する」)の意味とは異なっていたが、これについては取り上げない。

- b. 新たな資料は「東電の過失を基礎づける上で決定的なもの」と強調した。
 <読売>2016
- c. 身のまわりの世界の全体を関係づける意味のつながりが断ち切れ…(以下略)
 <読売>2017
- d. 政治思想を意味づける方法が専門業界ではすでに定着しているし…(以下略)
 <読売>2017
- e. 世界情勢に影響を与える米中関係をどう定義づけるかが注目された。
 <読売>2017
- f. 従業員名簿の作成を義務づける。
 <読売>2017
- g. 参院を都道府県代表と位置づけるなら…(以下略)
 <読売>2017
- h. 試合終了間際には優勝を決定づける追加点…(以下略)
 <読売>2017
- i. 検察が言う詐欺グループと関連づける証拠がない…(以下略)
 <読売>2017
- j. 佐藤作品を特徴づけるのは素朴なフレーズの繰り返しや…(以下略)
 <読売>2017

「つける」の持っている本来の意味は以下のようになる。

(5) 「つける」

あるものと他のものとのすきまをなくす。離れない状態にする。

『日本国語大辞典』

(5)は「つける」が持っている語彙的な意味であり、(4)の「つける」は本来の意味から離れているので機能動詞として扱えるといえる。村木(1992:212)では、名詞からの動詞化は生産力の高い「する」に頼っているが、「する」の他に「つける」もあげられていると説明している。しかし、「する」との違いに関しては言及していない。

(4)のように漢語と組み合わさってあらわれる「つける」は動詞化する機能を担っている点で、興味深いところである。しかし、漢語の後部に付加する際、「つける」は「づける」になり、連濁現象が起きる点、「スル」より生産性が低い点、漢語と「つける」の間に助詞が挿入できない、漢語との結束力が強い点で、「スル形」とは異なっていると考えられる。

3.1.2. 日本語の一字漢語動詞

一字漢語動詞は、「愛する」「面する」「得する」「損する」などのような、漢字一字からなる漢語に「スル」が付加する形をとっている動詞のことであり、日本語において限られた数しか存在しない。

本論文で収集した日本語の一字漢語動詞^{21, 22}は71語²³であり、以下のように提示できる。

(6)愛する 臆する 介する 会する 害する 画する 科する 課する 合する 関する 帰する
記する 期する 屈する 与する 期する 際する 察する 辞する 称する 食する 処する
制する 征する 接する 節する 絶する 即する 属する 損する 対する 題する 託する
達する 脱する 旅する 呈する 適する 徹する 得する 毒する 熱する 排する 廃する
博する 発する 罰する 反する 比する 表する 評する 瀕する 扮する 欲する 没する
面する 訳する 有する 揺する 夭する 要する 擁する 利する 律する 略する 漁する
領する 類する 例する 列する 勞する

(7)a. 春を愛する人。

b. アジア太平洋地域に属する各国。

(8)a. 絶対に得するクレジットカード。

b. あのニュースで損する人。

(7)と(8)の「愛する」「属する」「得する」「損する」は形態面からみると、同様のタイプにみられるが、活用形から異なる性質があらわれることが分かる。

三宅(2010)では一字漢語動詞を対象とし、二字漢語動詞²⁴と対比して活用の形を中心に

²¹ 本論文では、「一字漢語+スル」を収集する際、「論じる」「応じる」などのような「-じる」という形をとったものは除外した。三宅(2010:108)では、「論じる」「応じる」のような「スル」との交代が可能は「-じる」形をとったものも類を同じくするものとしているが、このようなタイプのものは、外形的にも、さらの形態論的な性質という点でも、まったく異質のものであると見做し得る。

²² 本論文では、「漢字一字の和語+スル」は和語と見做し、取り上げない。例えば、「汗する」「涙する」「唾する」「噂する」「旅する」「値する」「心する」「幸する」などがあげられる。三宅(2010)によると、「スル形」の一字和語動詞は一字漢語動詞と形態が同様であるが、アクセントと活用の面で二字漢語動詞と類似していると述べている。

一字漢語動詞の「愛する」と一字和語動詞の「汗する」と比較してみると、以下のようになる。

「愛する」：アクセント→「あいす'る」、活用→「愛さない」

「汗する」：アクセント→「あせ'する」、活用→「汗しない」

²³ 日本語の場合、『大辞林』から収集した一字漢語動詞は349語であり、3人の日本人にチェックしてもらった結果、3人とも現在用いられるとチェックした一字漢語動詞は71語である。

²⁴ 三宅(2010:108)では、「一般的な“～スル”型動詞」を「漢字二字以上の漢語」、「和語」、「外来語」に“～する”が後接する型をとった動詞のことを指すことであると定義し、最も典型的な「二字漢

述べている。三宅(2010)で述べているのをふまえつつ、以下のように検討する。

和語と二字漢語動詞は以下のような活用パターンをとっている。

(9)a. 和語「話す」の場合

否定:話さない

過去:話した

仮定:話せば

命令:話せ

可能:話せる

b. 二字漢語動詞「運動する」の場合

否定:運動しない

過去:運動した

仮定:運動すれば

命令:運動しろ

可能:運動できる

(9)から分かるように、和語と二字漢語動詞の活用形は全く異なっている。(9)のような二字漢語動詞に対して一字漢語動詞である「愛する」「属する」にはどのような活用形がみられるのか以下のように提示できる。

(10)a. 一字漢語動詞「愛する」

否定:愛さない、愛しない

過去:愛した

仮定:愛せば、愛すれば

命令:愛せ

可能:愛せる

b. 一字漢語動詞「属する」

否定:属さない、属しない

過去:属した

仮定:属せば、属すれば

命令:属せ

可能:属せる

語」の場合を代表させて、「一字漢語スル」型動詞と対比すると述べている。

一字漢語動詞の活用は、二字漢語動詞の場合と異なり、否定の場合は「-さない」「-しない」、仮定の場合は「-せば」「-すれば」のそれぞれ二通りの活用形があらわれ、可能の場合は「できる」がつけられない。二字漢語動詞の場合「運動さない」「運動せば」は不可能で、可能の場合も「運動せる」では活用しない。ところが、「得する」と「損する」は二字漢語動詞の活用形に従っている。否定の場合、「得しない」「損しない」で「得さない」「損さない」は不可能である。

日本語における一字漢語動詞は二字漢語動詞と同様の「漢語+する」の形態をとっているが、活用形からみると、その性質が異なることが分かった²⁵。「漢語+する」という形態は同様であるが、活用形からみて、一字漢語動詞は和語の方に近く、漢語と「する」の間に助詞が挿入できない点で、結束力が二字漢語動詞より強い。ただ、少数ながら、二字漢語動詞と同様の活用形があらわれる場合もある。

このような特徴から、一字漢語動詞は、二字漢語動詞の歴史的な変遷様相と異なると考えられる。漢語動詞の歴史的な変化様相については第四章で述べる。

3.2 韓国語の漢語動詞

以上、日本語における二字漢語動詞と一字漢語動詞について述べてきた。日本語の場合は、「スル形」があらわれている。本節では、韓国語における漢語動詞の形態について述べ、分析する。

3.2.1 韓国語の二字漢語動詞

まず、前節の(1)の日本語に対応する韓国語の場合を以下に示す。

- (11) a. 아이와 함께 운동(運動)하였다.
 ai-wa hamkke undong(運動)-ha-yeosda
 子供-と 一緒に 運動-する-過去終止形
 (子供と一緒に運動した)
- b. 눈이 충혈(充血)되었다.
 nun-i chunghyeol(充血)-doe-eosda
 目-が 充血-なる-過去終止形
 (目が充血した)
- c. 관객이 박수(拍手)쳤다.
 gwangaeg-i bagsu(拍手)-chi-essda

²⁵ 三宅(2010:116)によると、次のように仮説を立てたが、本論文では受け入れないとする。「一字漢語」は、「[一字漢語] s-」という語幹を持つ一つの動詞として、レキシコンに登録されるものである。

観客-が 拍手-打つ-過去終止形
(観客が拍手した)

d. 도둑이 도망(逃亡)갔다.

dodug-i domang(逃亡)-ga-ss-da
泥棒-が 逃亡-行く-過去-終止形
(泥棒が逃亡した)

e. 이 작품은 관객을 매료(魅了)시킨다.

i jagpum-eun gwangeog-eul maelyo(魅了)-siki-nda
この 作品-は 観客-を 魅了-させる-過去-現在終止形
(この作品は観客を魅了する)

f. 진품이라고 결론(結論)지었다.

jinpum-ilago gyeollon(結論)-ji-eosdda
真品-と 結論-作る-過去終止形
(本物であると結論付けた)

g. 컴퓨터가 고장(故障)났다.

keompyuteo-ga gojang(故障)-na-ssda
パソコン-が 故障-出る-過去終止形
(パソコンが故障していた)

(11a)のような「hada形」の「hada」は日本語の「する」と同様、語彙的な意味は持つておらず、漢語名詞を動詞化とする機能的役割のみを担っており、非常に生産的である。ところが、(11b)から(11g)の場合は、漢語の後部に「hada」が付加しておらず、hada形以外の動詞がついて動詞化しており、助詞の挿入が可能で、漢語との結合力が弱い形(他形)が観察される。(11)は日本語においては以下のように「スル形」として用いられている。

(12)a. スル形-hada形

「運動する」：「운동undong運動-hada」

b. スル形-doeda形

「充血する」：「충혈chunghyeol充血-doeda(なる)」

c. スル形-chida形

「拍手する」：「박수bagsu拍手-chida(打つ)」

d. スル形-gada形

「逃亡する」：「도망domang逃亡-gada(行く)」

- e. スル形-sikida 形
「魅了する」：「매료 maelyo 魅了-sikida(させる)」
- f. スル形-jisda 形
「結論する」：「결론 gyeollon 結論-jisda(作る)」
- g. スル形-nada 形
「故障する」：「고장 gojang 故障-nada(出る)」

日本語においてはすべて「スル形」としてあらわれるが、韓国語では「hada形」と「他形」に観察されている。

次からは「hada形」「doeda形」「chida形」「gada形」「sikida形」「jisda形」「nada形」のそれぞれの形態について述べてみる。

3.2.1.1 hada形

承知の通り、韓国語における漢語動詞は「hada形」で出現している。すでに述べているが、「hada」は語彙的な意味は持っておらず、動詞化とする役割をはたしている機能動詞である。

『標準国語大辞典』での「hada形」は38,025語が収録されているが、そのうちで筆者が整理し本論文で用いられる「hada形」は2,100語である。(後部の「hada」は省略して提示する)

(13) 종결 jonggyeol 終結	종료 jonglyo 終了	가감 gagam 加減	가담 gadam 加担
가맹 gamaeng 加盟	가입 gaib 加入	각색 gagsaeg 脚色	감시 gamsi 監視
개시 gaesi 開始	개정 gaejeong 改定	개탄 gaetan 慨嘆	건립 geonlib 建立
견학 gyeonhag 見学	결정 yeoljeong 決定	겸용 gyeomyong 兼用	경고 geyonggo 警告
갱신 gaengsin 更新	공격 gonggyeog 攻撃	귀성 gwiseong 帰省	날조 naljo 捏造
노력 nolyeog 努力	단결 danlyeol 團結	만회 manhwi 挽回	신청 sincheong 申請
반복 banbog 反復	발언 baleon 發言	생략 saenglyeog 省略…	

また、新語の場合にも主に「hada」が付加して用いられる。2002年以降、観察される「복회 boghwi 複会」「혼입 honib 婚入」の場合は「hada」が後接して使われている²⁶。

²⁶ (14)の「복회 boghwi 複会」「혼입 honib 婚入」は、『사전에 없는 말 신조어辞書にない言葉、新造語』(国立国語院篇)から引用した。

(14) a. 복회 boghwi 復会-hada

ある団体を脱退してからまた再入会すること

例) 신규 입회 또는 복회(復会)하는 모든 회원에게

新規入会および復会するすべての会員に…(以下略)

<朝鮮日報>2005

b. 혼입 honib 婚入-hada

入籍すること

例) 같은 집안으로 혼입(婚入)해왔다는 짐과

同じレベルの家柄に婚入してきたところと…(以下略)

<東亜日報>2002

以上から分かるように、韓国語においてはほとんどの場合において「hada形」があらわれている。

3.2.1.2 doeda形

(11b)の「充血」の場合は、「doeda形」のみ定着している。

(15) 눈이 충혈(充血)되었다.

nun-i chunghyeol(充血)-doe-eossda

目-が 充血-なる-過去終止形

(目が充血した)

(11b)の再掲

「doeda」は本来、以下の意味をあらわす。

(16) 「doeda」

①人がある身分に変わる。

②ある物がほかの物に変わる。

<標準国語大辞典>

「doeda」には、日本語の「-になる」の意味を持っており、(16)の用例は以下のように提示できる。

(17) a. 나는 선생님이 되었다.
 na-neun seonsaengnim-i deo-eosdda.
 私-は 先生-が なる-過去終止形
 (私は先生になった)

b. 얼음은 물이 되었다.
 eoleum-eun mul-i deo-eosdda
 氷-は 水-が なる-過去終止形
 (氷は水になる)

(17)から分かるように、変化をあらわす際「doeda」を用いる。一方、「doeda」は受動形としてもあらわれる。

(18) a. 경찰이 도둑을 체포(逮捕)하였다.
 gyeongchal-i dodug-eul chepo(逮捕)-ha-yeosdda.
 警察-が 泥棒-を 逮捕-する-過去終止形
 (警察が泥棒を逮捕した)

b. 도둑이 경찰에게 체포(逮捕)되었다.
 dodug-i gyeongchal-ege chepo(逮捕)-deo-eosdda.
 泥棒-が 警察-に 逮捕-される-過去終止形
 (泥棒が警察に逮捕された)

(18a)の「체포chepo逮捕-hada」は能動形で、それに対して(18b)の「체포chepo逮捕-doeda」は受動形である。

ところが、(15)の「충혈chunghyeol充血-doeda」は(17)と(18)の「doeda」とは異なる。(15)の現象は「고립golib孤立」「전염jeonyeom伝染」「마비mabi麻痺」にも観察される。

(19) a. 산 속에 고립(孤立)되었다.
 san-sog-e golib(孤立)-deo-essda
 山-中-に 孤立-なる-過去終止形
 (山中に孤立した)

b. 병이 전염(伝染)된다.
 byeong-i jeonyeom(伝染)-deo-nda.
 病-が 伝染-なる-現在終止形
 (病気が伝染する)

c. 교통이 마비(麻痺)되었다.
 gyotong-i mabi(麻痺)-deo-eosdda.
 交通-が 麻痺-なる-過去終止形
 (交通が麻痺した)

「고립golib孤立」「전염deonyeom伝染」「마비mabi麻痺」の場合、(19)のように「doeda形」のみが定着している。このような「doeda形」は、それ以外にも以下のような語例がある²⁷。(「doeda」は省略する)

(20) 결렬gyeollyeol決裂	경직gyeongjig硬直	고갈gogal枯渴	고조gojo高調
방수bangsu防水	발각balgag發覺	변질byeonjil變質	분산bunsan分散
변형byeonhyeong變形	소외sooe疎外	둔화junhwa鈍化	실종siljong失踪
악화aghwa惡化	약화yaghwa弱化	연루yeonlu連累	와해wahae瓦解
전소jeonso全燒	조난jonan遭難	누수nusu漏水	골절goljeol骨折
중독jungdog中毒	판명panmyeong判明	혼선honseon混線	와전wajeon訛伝
정전jeongjeon停電	상반sangban相反	결핍gyeolpib缺乏	

尹盛熙(2005)では「doeda形」のみを取る漢語は「状態変化」の事象をあらわすものであることを指摘しており、漢語の意味特徴と関係なく一律的に「スル」を取る日本語の漢語動詞の仕組みとの違い点であると述べている。

以上の語例からみると、「doeda形」について次のような解釈が可能である。「doeda」は(17)と(18)のような本来の意味を失っており、動詞化とする機能的な役割を担っている。漢語が状態をあらわす場合、「hada」と相補分布の関係である「doeda」が漢語の後部に付加すると考えられる。漢語の意味によって「hada」または、「doeda」が後接している。

一方、新語の場合はほとんどの場合において「hada形」があらわれるが、現代語から使い始めた「被曝」は「doeda形」としてあらわれる。

(21) 여행자가 방사능에 피폭(被曝)되었다.
 yeohangja-ga bangsaneung-e pipog(被曝)-doe-eosdda
 旅行者-が 放射線-に 被曝-なる-過去終止形
 (旅行者が放射線に被曝した)

²⁷ 尹盛熙(2005)と生越(2008)の先行研究からの結果と標準国語大辞典から収集したのをリスト化し、韓国語母語話者にアンケートを取った結果である。

「被曝」も(20)の語例のように状態をあらわす漢語で、動詞化するには「doeda」がつけられた形態として出現する。

3.2.1.3 chida形

(11c)の漢語「박수bagsu拍手」の場合、「chida」が後接して動詞化する。

- (22) 관객이 박수(拍手)쳤다.
gwangaeg-i bagsu-chi-ess-da
観客-が 拍手-打つ-過去-終止形
(観客が拍手した)

例(11c)の再掲

「chida」は「打つ」の意味があり、前節の「doeda形」とは異なる現象がみられる。「doeda」は本来の意味を失い、機能的な役割をはたしている機能動詞であるが、(22)の「拍手」に後接している「chida」は「打つ」という本来の意をあらわしている。

「박수bagsu拍手」という漢語には、もう「악수agsu握手」に「打つ」の意味が含まれており、「박수bagsu拍手-chida」の構造を「악수agsu握手」の動詞化する場合と一緒にみせると以下のようなになる。

- (23)a. [손 쥐다 son jwida 手 握る]



악수agsu握手-hada

- b. [손 치다 son chida 手 打つ]



박수bagsu拍手-chida

「악수agsu握手」の場合は漢語の内部に述語の意味をあらわす「握る」が含まれており、もう「악수agsu握手」の中に「手を握る」という意味があり、動詞化とする際には文法的な役割を担っている「hada」がつけられる。ところが、(23b)の「박수bagsu拍手」は、「악수agsu握手」と同様の構造で、述語の意味をあらわす「拍」が含まれており、「박수bagsu拍手」には「手を打つ」の意があらわれる。しかし、「악수agsu握手」とは異なり、後部には「hada」ではない「chida(打つ)」という動詞が付加する。

これは、「박수bagsu拍手」の動詞性をあらわす「拍」が弱くなっているためであると

考えられる。「박수bagsu拍手」の動詞性は薄くなったため、後部に実際の意味をあらわす動詞が必要である。

今までの内容をみせると以下のようなになる。

(24) a. [손son手] 치다chida打 ⇨ → 박수bagsu拍手 + chida
 (実質動詞)

b. [손son手] 쥐다jwida握る → 악수agsu握手 + hada
 (機能動詞)

「박수bagsu拍手-chida」は「他形」としてあらわれるが、後部につく動詞は前節の「doeda」とは異なり、実質的な意味があらわれる動詞である。

3. 2. 1. 4 gada形

(11d)は漢語の後部に「gada(行く)」が後接する現象をみせる。

(25) 도둑이 해외로 도망(逃亡)갔다.
 dodug-i haeoe-eulo domang(逃亡)-ga-ss-da
 泥棒-が 海外-に 逃亡-行く-過去-終止形
 (泥棒が海外に逃亡した)

(11d)の再掲

(25)の漢語「도망domang逃亡」は、漢語の後部に「gada」が付加して動詞化する。

「gada」には実質動詞として「移動する」の意味があらわれている。これは「학교haggyo学校-gada(行く)」と形態面からみると同様であるが、前部に位置する漢語は場所をあらわすのではない。「逃亡」という漢語には「逃げる」という移動の意味が含まれており、動詞の後部要素である「gada」の「移動」の意味は残っている。

「逃亡」以外に「gada形」が観察されるのは以下のようなになる。

(26) a. 전쟁이 나서 남쪽으로 피난(避難)갔다²⁸.
 jeonjaeng-i na-seo namjjog-eulo pinan(避難)-ga-ss-da

²⁸ 「避難」は、「災害を避けて、安全な場所へ立ちのくこと」の意味があらわれるが、韓国語においては「戦争の時、安全な場所へ逃げること」の意味で使われており、日本語との相違点がみられる。災害の時は「대피daepi待避-hada」を用いる。

戦争 - が 出る - 理由 南側-へ 避難-行く-過去-終止形
(戦争が起こって南の方へ避難した)

b. 해외로 휴가(休暇)갔다.

haeoe-lo hyuga(休暇)-ga-ss-da
海外-に 休暇-行く-過去-終止形
(休暇で海外に行った)

c. 일본으로 유학(留学)갔다.

ilbon-eulo yuhag(留学)-ga-ss-da
日本-に 留学-行く-過去-終止形
(日本に留学した)

漢語の「피난pinan避難」「휴가hyuga休暇」「유학yuhag留学」は「hada」ではなく「gada」が付けられ動詞化している。このような「gada形」は、場所と一緒にあらわれる場合が多い。(26)の用例からみると「南」「海外」「日本」という場所と一緒に用いられる。

また、「gada形」は、前部要素である漢語には移動の意味が含まれており、後部要素の動詞の「gada」にも移動の意味が残っている。「gada形」は、漢語に含まれている動作性が薄くなっており、語彙的な意味がない「hada」のみでは意味をあらわすには不足し、漢語の後部に動詞性を埋めることができる「gada」が 付加していると考えられる。

3.2.1.5 sikida形

(11e)の「魅了」は「sikida形」があらわれている。

(27) 이 작품은 관객을 매료(魅了)시킨다.

i jagpum-eun gwangeog-eul maelyo(魅了)-siki-n-da

この 作品-は 観客-を 魅了-させる-過去-現在終止-終止形

(この作品は観客を魅了する)

例(11e)の再掲

「sikida」は韓国語において動詞をボイス的に派生する機能を持っている。

(28) 「sikida」

人にある動作をするようにしむける。

<標準国語大辞典>

「漢語+hada」の場合、使役をあらわす際には「hada」に変えて「sikida」をつける。
例えば、以下の用例を示すことができる。

(29) a. 아이가 운동(運動)한다.

ai-ga undong(運動)-ha-nda.

子供-が 運動-する-現在終止形

(子供が運動する)

b. 부모가 아이에게 운동(運動)시킨다.

bumo-ga ai-ege undong(運動)-siki-nda.

父母-が 子供-に 運動-させる-現在終止形

(親が子供に運動をさせる)

(29a)は「運動-hada」の用例であり、(29b)は「運動」に「sikida」を付けて使役の意味があらわれている。(27)は(29b)の「sikida」とは異なる性質を持っている。

(27)のような現象について、チェ,ヒョンベ(1929)では単純に他動詞として使われる場合には「hada」で充分であるものが、「sikida」を用いる誤用がかなり多いと指摘している。(下線は引用者による)

(30) “시키다” 를 그릇 쓰는 수가 있나니, 그는 “하다” 로 녀넉한 것을 공연히
“시키다” 로 하는 것이다. 보기를 들면,

김 아무가 민중을 선동시켜서...

술이란 것은 신경을 자극시킨다.

의 같은 따위이니라. 제음직씨의 “하다 따위 음직씨” 를 남음직씨 같이 만들어 쓰는 데에는 “시키” 가 필요하지마는, 본대 남음직씨를 그저 단순한 남음직씨로 쓰는 데에는 조금도 하임의 뜻을 보이는 “시키” 가 필요없는 것이어늘, 흔히들 이것을 깨치지 못하고, 조심없이 “시키” 를 붙여 씀은 무서운 일이라 아니할 수 없다.

チェ,ヒョンベ(1929:416-417)

(「sikida」を間違って使われる場合があり、それは「hada」で充分なことを無駄に「sikida」が用いられることである。例えば、

政府が民衆を扇動させて(扇動する)...

酒というのは神経を刺激させて(刺激する)...

のようなものである。自動詞の「hada」などの動詞を他動詞のように使う際には「sikida」が要るが、本来他動詞を単に他動詞として使うには使役の意味である

「sikida」が必要ではないのに、この事実を知らず「sikida」をつけて使うことは恐ろしいことである。)

チェ, ヒョンベ(1929)では、(27)のような現象は「hada」を使うべきのところに「sikida」を用いる誤りであると述べているが、柴公也(1993)では「漢語-sikida」の「sikida」は文法的使役とは見做しがたく、文脈によって「hada」の強調の意をあらわすと述べている。(27)の「魅力」は「人の心をひきつけて夢中にさせること」という、すでに使役の意味を持っているため「sikida」との結合が二重使役になると判断できるが、柴公也(1993)の意見からみると「sikida」は、強調・強制をあらわすものであると考えられる。(27)の以外に提示できる語例は、以下のようなになる。

(31) 매혹 maehog 魅惑

세뇌 senoe 洗脳

오염 oyeom 汚染

현혹 hyeonhog 眩惑

경질 gyeongjil 更迭

구속 gusog 拘束

- (32) a. 이 영화가 전 세계를 매혹(魅惑)시켰다.
 i yeonghwa-ga jeonsegye-leul maehog(魅惑)-siki-eoss-da
 この 映画-が 全世界-を 魅惑-させる-過去-終止形
 (この映画が全世界を魅惑した)
- b. 선생님이 학생을 세뇌(洗脳)시켰다.
 seonsaengnim-i hagsaeng-eul senoe(洗脳)-siki-eoss-da
 先生-が 学生-を 洗脳-させる-過去-終止形
 (先生が学生を洗脳した)
- c. 주민이 강을 오염(汚染)시켰다.
 jumin-i gang-eul oyeom(汚染)-siki-eoss-da
 住民-が 川-を 汚染-させる-過去-終止形
 (住民が川を汚染した)
- d. 백화점이 고객들을 현혹(眩惑)시켰다.
 baeghwajeom-i gogaeg-deul-eul hyeonhog(眩惑)-siki-eoss-da
 百貨店-は 顧客-たち-を 眩惑-させる-過去-終止形
 (顧客たちを眩惑した)

- e. 팀이 감독을 경질(更迭)시켰다.
 tim-i gamdog-eul gyeongjil(更迭)-siki-eoss-da
 チーム-は 監督-を 更迭-させる-過去-終止形
 (チームは監督を更迭した)
- f. 검찰이 피의자를 구속(拘束)시켰다.
 geomchal-ga piuija-lleul gusog(拘束)-siki-eoss-da
 檢察-가 被疑者-を 拘束-させる-過去-終止形
 (檢察が被疑者を拘束した)

韓国人母語話者のアンケートによると、(32)の場合は「hada 形」とのゆれがみられる。前節で述べている「doeda 形」「chida 形」は定着しているに対して「sikida 形」は「hada 形」と共存する。しかし、「sikida 形」が「hada 形」より優勢的に使われる。

- (33) a. 이 작품은 관객을 매료(魅了)했다.
 i jagpum-eun gwangeog-eul maelyo(魅了)-ha-ess-da
 この 作品-は 観客-を 魅了-する-過去-終止形
 (この作品は観客を魅了する)
- b. 이 영화가 전세계를 매혹(魅惑)했다.
 i yeonghwa-ga jeonsegye-leul maehog(魅惑)-ha-ess-da
 この 映画-가 全世界-を 魅惑-する-過去-終止形
 (この映画が全世界を魅惑した)
- c. 선생님이 학생을 세뇌(洗脳)했다.
 seonsaengnim-i hagsaeng-eul senoe(洗脳)-ha-ess-da
 先生-가 学生-을 洗脳-する-過去-終止形
 (先生が学生を洗脳した)
- d. 주민이 강을 오염(汚染)했다.
 jumin-i gang-eul oyeom(汚染)-ha-ess-da
 住民-가 川-을 汚染-する-過去-終止形
 (住民が川を汚染した)
- e. 백화점은 고객들을 현혹(眩惑)했다.
 baeghwajeom-i gogaeg-deul-eul hyeonhog(眩惑)-ha-ess-da
 百貨店-가 顧客-たち-을 眩惑-する-過去-終止形
 (顧客たちを眩惑した)
- f. 팀이 감독을 경질(更迭)했다.

tim-i gamdog-eul gyeongjil(更迭)-ha-ess-da

チーム-は 監督-を 更迭-する-過去-終止形

(チームは監督を更迭した)

g. 김찰이 피의자를 구속(拘束)했다.

geomchal-ga piuija-lleul gusog(拘束)-ha-ess-da

検察-が 被疑者-を 拘束-する-過去-終止形

(検察が被疑者を拘束した)

「sikida 形」の場合は、上記から分かるように「hada 形」と共存するが、前部に位置する漢語は「人に何かの行動をさせる」という使役の意味があらわれるにもかかわらず、使役の意味を持っている「sikida」が用いられるのは、漢語のみでは使役の意味が強くあらわれなためであると考えられる。「hada 形」と「sikida 形」が共存するのは言語変化の過渡期であると推測される。

3.2.1.6 jisda形

(11f)から分かるように漢語の後部に「jisda(作る)」が付加する場合がある。

(34) 진품이라고 결론(結論)지었다.

jinpum-ilago gyeollon(結論)-ji-eoss-da.

真品-と 結論-作る-過去-終止形

(本物であると結論づけた)

例(11f)の再掲

漢語「결론gyeollon結論」は後部に「jisda」が後接して動詞化している。「jisda」の本来の意味は、「建物-jisda(建てる)」「ご飯-jisda(炊く)」「名前-jisda(つける)」などのように「作る」の意味をあらわしているが、(34)の「jisda」は本来の意味から離れている機能動詞である。

実質動詞 건물(建物) 짓다.(ビルを建てる)

機能動詞 결론(結論) 짓다.(結論する)

一方、「jisda形」は(34)の「결론gyeollon結論」以外に「미소miso微笑」の場合にも出現している。

(35) 꽃을 보고 미소(微笑)지었다.
 kkoch-eul bo-go miso(微笑)-ji-eoss-da
 花-を みる-て 微笑-作る-過去-終止形
 (お花を見て微笑んだ)

ところが、(35)の「jisda」も(34)と同様、本来の意味を失っている機能動詞である。

実質動詞 건물(建物)을 짓다.(ビルを建てる)

機能動詞 미소(微笑)를 짓다.(微笑する)

3.2.1.7 nada形

(11g)は現代韓国語で漢語「고장gojang(故障)」と「nada(出る)」が共起する場合である。

(36) 컴퓨터가 고장(故障)났다.
 keompyuteo-ga go.jang(故障)-na-ss-da
 パソコン-が 故障-出る-過去-終止形
 (パソコンが故障していた)

例(11g)の再掲

「nada」は「身体表面や土の上に吹き出る」の意味を持っている。以下は「nada(出る)」の実質的な意味があらわれる用例である。

(37)a. 여드름이 났다.
 yeodeuleum-i na-ss-da
 ニキビ-が 出る-過去-終止形
 (ニキビが出た)

b. 밭에 싹이 났다.
 bat-e ssag-i na-ss-da
 畑-に 芽-が 出る-過去-終止形
 (畑に芽が出た)

ところが、「故障」は(37)の「ニキビ」と「芽」と異なり、実質名詞ではなく抽象的で

a. 가加ga-hada	격激gyeog-hada	격隔gyeog-hada	겸兼gyeom-hada
고告go-hada	곡哭gog-hada	과科gwa-hada	과課gwa-hada
관関guan-hada	구救gu-hada	구求gu-hada	굴屈gul-hada
권勸(勸)gwon-hada	극極geug-hada	금禁geum-hada	기期gi-hada
노怒no-hada	달達dal-hada	당当dang-hada	대對dae-hada
논論non-hada	임臨im-hada	망亡mang-hada	면免myeon-hada
면面myeon-hada	멸滅myeol-hada	반反ban-hada	발發bal-hada
배倍bae-hada	범犯beom-hada	변變byeon-hada	분扮bun-hada
봉封bong-hada	비比bi-hada	사赦sa-hada	상傷sang-hada
성盛seong-hada	속屬sog-hada	쇠衰soe-hada	요要yo-hada
원願won-hada	위為wi-hada	응応eung-hada	의依ui-hada
인因in-hada	임任im-hada	전伝jeon-hada	점占jeom-hada
접接jeob-hada	정定jeong-hada	제除je-hada	준準jun-hada
처處cheo-hada	칠綴cheol-hada	칭請cheong-hada	취取chwi-hada
취醉chwi-hada	칭稱ching-hada	탐貪tam-hada	택挾taeg-hada
토吐to-hada	통通tong-hada	파罷pa-hada	패敗pae-hada
표表pyo-hada	피避pi-hada	필畢pil-hada	한限han-hada
해害hae-hada	행行haeng-hada	향向hyang-hada	혹惑hog-hada
흥興heung-hada	합合hab-hada		
b. 답答dab-hada	명命myeong-hada	벌罰beol-hada	욕辱yog-hada
칠漆chil-hada	평評pyeong-hada		

(39) 他形

병病byeong-nada 병病byeong-deulda 탐貪tam-nada

一字漢語動詞は二字漢語動詞の場合と同様、「hada形」と「他形」が観察される。ところが、二字漢語動詞の場合と異なるのは、「他形」が少ない点である。(38)の「hada形」から述べると以下のようなになる。

- (40) a. 봉투를 봉(封)했다.
bongtu-leul bong(封)-ha-essda
封筒-を 封-する-過去終止形
(封筒を閉じた)
- b. 커피를 권(勸)했다.

keopi-leul gwon(勸)-ha-essda
 コーヒー-を 勸-する-過去終止形
 (コーヒーを勧めた)

- c. 이야기를 jeon(伝)했다.
 iyagi-leul jeon(伝)-ha-essda
 話-を 伝-する-過去終止形
 (話を伝えた)

- (41) a. 선생님의 질문에 dab(答)했다.
 seonsaengnim-ui jilmun-e dab(答)-ha-essda
 先生-の 質問-に 答-する-過去終止形
 (先生の質問に答える)

- b. 소설이 재미있다고 pyeong(評)했다.
 soseol-i jaemiiss-dago pyeong(評)-ha-essda
 小説-が 面白い-と 評-する-過去終止形
 (小説が面白いと評価した)

- c. 친구에게 yog(辱)했다.
 chingu-ege yog(辱)-ha-essda
 友達-に 辱-する-過去終止形
 (友達に悪口した)

まず、(40)と(41)は「hada形」であらわれ、形態面からみると、同様のタイプにみられるが、活用は異なっている。以下は固有語と二字漢語動詞の場合の活用である。

- (42) a. 固有語「가다gada行く」の場合
 否定:안 가다an-gada、가지 않다ga-jianh-da
 過去:갔다ga-ss-da
 假定:가면ga-myeon
 命令:가라ga-la
 可能:갈 수 있다ga-lsuiss-da

- b. 二字漢語動詞「운동하다undong-hada運動する」の場合
 否定:운동 안 하다undong-an-hada、운동하지 않다undong-ha-jiah-da
 過去:운동했다undong-ha-ess-da
 假定:운동하면undong-ha-myeon

命令:운동해라undong-ha-ela

可能:운동 할 수 있다undong-ha-lsuiss-da

(42) から分かるように、固有語と二字漢語動詞の活用形は、否定³⁰の「안-an-」の場合、「안-an-」は挿入する位置が異なっている。以下のような例を参照されたい。

(43)a. 집에 간다.

jib-e ga-nda

家-に 行く-現在終止形

(家に行く)

b. 집에 가지 않는다.

jib-e ga-jianh-neunda

家-に 行く-否定-現在終止形

(家に行かない)

c. 집에 안 간다

jib-e an-ga-nda

家-に 否定-行く-現在終止形

(家に行かない)

(44)a. 운동한다.

undong-ha-nda

運動-する-現在終止形

(運動する)

b. 운동하지 않는다.

undong-ha-jiang-neunda

運動-する-否定-現在終止形

(運動しない)

c. 운동 안 한다.

undong an-ha-nda

運動 否定-する-現在終止形

(運動しない)

「가다gada行く」の場合、(43c)から分かるように否定の「안-an-」は「가다gada行く」

³⁰ 韓国語の否定は「-지 않다-ji anhda」の長い否定と、「안-an-」の短い否定の二つの形態がある。

の前部に位置しており、(44c)であらわれるように「운동하다undong-hada運動する」の否定は「운동undong運動」と「hada」の間に挿入されている。

上記のような固有語と二字漢語動詞に対して一字漢語動詞「전jeon伝-hada」と「답dab答-hada」にはいかなる形がみられるのか以下のように提示できる。

(45)a. 이야기를 안 전(伝)했다.

iyagi-leul an-jeon(伝)-ha-essda

話-を 否定-伝-する-過去終止形

(話を伝えなかった)

a'. *이야기를 전(伝) 안 했다.

iyagi-leul jeon(伝)-an-ha-essda

話-を 伝-否定-する-過去終止形

(話を伝えなかった)

b. ?선생님의 질문에 안 답(答)했다.

seonsaengnim-ui jilmun-e an-dab(答)-ha-essda

先生-の 質問-に 否定-答-する-過去終止形

(先生の質問に答えなかった)

b'. 선생님의 질문에 답(答) 안 했다.

seonsaengnim-ui jilmun-e dab(答)-an-ha-essda

先生-の 質問-に 答-否定-する-過去終止形

(先生の質問に答えなかった)

「전jeon伝-hada」の場合、(45a)から分かるように否定をあらわす「안an」は「전jeon伝-hada」の前部に位置している。ここから二字漢語動詞と異なる点として、漢語と「hada」の結束力が強いことが分かる。ところが、「답dab答-hada」は(45b)のように「답dab答」と「hada」の間に挿入される形であらわれ、前部に位置する際にはやや不自然になる。これは上記で述べている「운동하다undong-hada運動する」のような二字漢語動詞の活用形に従っている。そのうえ、「답dab答-hada」の「답dab答」は単独で使える漢語である。

(46)문제의 답(答)을 가르쳤다.

munje-ui dab(答)-i galeuchi-essda

問題-の 答-を 教える-過去終止形

(問題の答えを教えた)

漢語動詞は「漢語」と「hada」のくみあわさったものであり、一字漢語動詞も「hada形」であられるが、二字漢語動詞とは否定の活用形が異なっているのが多い。

一方、日本語とは異なる現象であるが、韓国語においては二字漢語動詞と同様、「他形」もみられる。ところが、その数は限られている。「他形」の一字漢語動詞で、筆者が収集したのは「병病byeong-nada」「병病byeong-deulda」「탐貪tam-nada」の3語のみ出現している。

- (47) a. 공부를 많이 해서 병(病)났다.
 gongbu-leul mang-i ha-aeseo byeong(病)-na-ssda
 勉強-を 多い-副詞化 する-理由 病-出る-過去終止形
 (勉強をたくさんして病気になった)
- b. 공부를 많이 해서 병(病)들었다.
 gongbu-leul mang-i ha-aeseo byeong(病)-deul-eosssa
 勉強-を 多い-副詞化 する-理由 病-入る-過去終止形
 (勉強をたくさんして病気になった)
- c. 저 목걸이가 탐(貪)났다.
 jeo moggeoli-ga tam(貪)-na-ssda
 あの ネックレス-が 貪-出る-過去終止形
 (あのネックレスがほしかった)

「병病byeong-nada」「병病byeong-deulda」「탐貪tam-nada」の場合、一字漢語の「병病byeong」「탐貪tam」は状態をあらわす漢語で、後部の「nada」「deulda」はそれぞれ「出る」「入る」の意味を持っている動詞であるが、一字漢語の後部につく際には文法的役割を担っている機能動詞としてあらわれる。

一方、(47)の一字漢語動詞は通常のものとはその性質が異なり、二字漢語動詞と同様の活用形がみられる。

- (48) a. *안 병(病)났다.
 an byeong(病)-na-ssda
 否定 病-出る-過去終止形
 (病気になっていない)
- a'. 병(病) 안 냐다.
 byeong(病)-an-na-ssda
 病-否定-出る-過去終止形

(病気になっていない)

b. *안 병(病) 들었다.

an byeong(病)-deul-eosssa

否定 病-入る-過去終止形

(病気になっていない)

b'. 병(病) 안 들었다.

byeong(病)-an-deul-eosssa

病-否定-入る-過去終止形

(病気になっていない)

c. *안 탐(貪)난다.

an tam(貪)-na-nda

否定 貪-出る-現在終止形

(ほしくない)

c'. 탐(貪) 안 난다.

tam(貪)-an-na-nda

貪-否定-出る-現在終止形

(ほしくない)

「他形」の「병病byeong-nada」「병病byeong-deulda」「탐貪tam-nada」は二字漢語動詞の活用形が同様である。

以上、一字漢語動詞について述べたが、第一、二字漢語動詞と同様の「hada形」と「他形」であられる。そして、第二、二字漢語動詞とは否定の活用形が異なることから、一字漢語動詞は二字漢語動詞より漢語と「hada」の結合力が強いということが分かった。ただ、二字漢語動詞と同様の否定の活用形がみられる場合もあるがその数は限られている。

3.3 漢語動詞の定義

「漢語+後部要素」の場合は、「スル形」と「hada形」があらわれるが、「他形」もみられる。日本語において「-づける」の形態が出現するが、音変化しており、生産性が低く、漢語との結束力が強い点で、これを「他形」として扱えないと考えられる。一方、韓国語においては「hada形」と「他形」の「doeda形」「sikida形」「gada形」「jisda形」「nada形」「chida形」が観察される。これらの「他形」のうち、「doeda形」は「hada形」と相補分布の関係で、前部の漢語の状態動詞の場合「doeda形」があらわれ、「doeda」は本来の意味を失っている。動詞性があらわれる漢語と機能動詞の結合で、「doeda形」は漢語動詞として用いられる。ところが、「chida形」「gada形」の動詞「chida」「gada」

は動詞本来の意味をあらわす実質動詞のため、漢語動詞としては認めないと考えられる。

「sikida形」「jisda形」「nada形」の動詞「sikida」「jisda」「nada」は、動詞本来の意味から離れている機能動詞であるが、前部に位置する漢語は動作性が失われており、漢語動詞とは認めがたい。以上をまとめると以下のように提示できる。

(49)

日本語		韓国語	
漢語動詞	スル形(運動する)	hada形(運動-hada)	漢語動詞
	スル形(充血する)	doeda形(充血-doeda)	
	スル形(拍手する)	chida形(拍手-chida)	-
	スル形(逃亡する)	gada形(逃亡-gada)	
	スル形(魅了する)	sikida形(魅了-sikida)	
	スル形(結論する)	jisda形(結論-jisda)	
	スル形(故障する)	nada形(故障-nada)	

本論文での漢語動詞は次のようになる。

漢語は、動作性があらわれており、述語的な意味が含まれている。そして同時に動詞の後部要素として機能動詞が位置する。日本語においては「スル形」があり、韓国語においては「hada形」と「doeda形」がある。

第四章 日韓漢語動詞における形態の歴史的変遷

第三章では日韓両言語における漢語動詞の形態について述べ、本論文における「漢語動詞」の定義を立てた。本章では第三章の分析を踏まえつつ、時代の流れにより日韓漢語動詞の形態にいかなる変化の様相がみられるのかそれぞれの時代における文献から「漢語+後部要素」を収集して考察を行う。

4.1 二字漢語動詞

すでに述べた通り、日本語においては「漢語+する」の形態で、韓国語においては「漢語+hada」の形態がもっとも一般的である。しかし、一律的に「スル形」の形態であらわれる日本語とは違って韓国語は「hada形」以外の「他形」もあらわれることが分かった。

(1)a. ウイルスに感染した。

b. 전염병에 감염(感染)되었다.
jeonyeombyeong-e gamyecom(感染)-deo-eosdda
伝染病-に 感染-なる-過去終止形
(伝染病に感染した)

漢語「感染」は、現代日本語では(1a)のように「感染-する」の形を取っているが、現代韓国語においては「感染」の後部に(1b)のように「doeda」という後部要素がついて「感染-doeda」の形としてあらわれる。

一方、韓国語の方も前期現代語において、「doeda形」以外に「hada形」も用いられている場合がある。

(2)お前が感染しても、俺が感染しても…(以下略)

〈女学世界〉1909

(3)a. 소아에게 제일 잘 감염(感染)되고…(以下略)

soa-ege jeil jal gamyecom(感染)-deo-go
小児-に 一番 よく 感染-なる-て
(小児に一番よく感染して)

〈東亞〉1930

b. 여행	도중에	천연두에	감염(感染)하야…(以下略)
yeohaeng	dojung-e	cheonyeondu-e	gamyecom(感染)-ha-ya
旅行	途中-に	天然痘-に	感染-する-て
(旅行中、天然痘に感染して)			

〈三千里〉1940

すなわち、漢語「感染」の場合、前期現代日本語において(2)のように「スル形」のみ観察されるが、前期現代韓国語では(3)から分かるように「hada形」と「doeda形」両方の形が出現しており、現代語では二つの形態のうち「hada形」が消滅し「doeda形」のみが用いられる。

本節では、以上のように二字漢語動詞の形態がどのような変遷をみせているのかについて考察を行う。

4.1.1 日本語の二字漢語動詞

4.1.1.1 現代語の二字漢語動詞

すでに第三章で述べているが、時代を遡るに先立ち、現代日本語における漢語動詞の形態について述べてみる。

- (4)a. 子供と一緒に運動した。
 b. 目が充血した。
 c. 観客を魅了した。
 d. 泥棒が逃亡した。
 e. 監督が拍手する場面もあった。
 f. 旅行者が放射線に被曝した。
 g. 政府はそう結論した。
 h. パソコンが故障した。

(4)から分かるように現代語の漢語動詞は「スル形」に固定化している。現代韓国語においては、(4a)は「hada形」に対応しているが、(4b)から(4h)までの用例は、「他形」としてあらわれている。

すでに述べている通り、(4f)の「被曝」は現代語のみ出現している漢語であり、(4g)の「結論」の場合は、「漢語+づける」の形の方が一般的にあらわれる。

(5) 全体的に問題はないと結論づけた。

<読売>2017

4.1.1.2 前期現代語の二字漢語動詞

以下の(6)は、前節の(4)の漢語動詞が前期現代語においてはいかなる形態を取っているのか示したものである。

(6)a-1. 常に激しく運動してもいゝやうになっている。

<太陽>1925

a-2. 子供と一緒に運動した。

(4a)の再掲

b-1. お前の眼は充血して居ますね。

<婦人>1925

b-2. 目が充血した。

(4b)の再掲

c-1. 登山者を魅了するお花畑の美観。

<読売>1931

c-2. 観客を魅了した。

(4c)の再掲

d-1. 氣狂女が病院から逃亡したので…(以下略)

<婦人>1925

d-2. 泥棒が逃亡した。

(4d)の再掲

e-1. 飛行機を仰いで拍手する尾崎氏令妹。

<読売>1915

e-2. 監督が拍手する場面もあった。

(4e)の再掲

f. 旅行者が放射線に被曝した。

(4f)の再掲

g-1. 光線の速度が一秒に均十八萬六千哩であると結論した。

<太陽>1909

g-2. 政府はそう結論した。

(4g)の再掲

g-3. 全体的に問題はないと結論づけた。

(5)の再掲

h-1. 水道の水源地と配水地との間に在る鉄管に故障起こり…(以下略)

<読売>1911

h-2. パソコンが故障した。

(4h)の再掲

前期現代語では、「スル形」を取っており、現代語の形とは同様であることが分かった。ただし、(6f)の「被曝」は現代語から出現している漢語のため前期現代語では観察されない。

(6g)の「結論」は現代語では「-づける」の形もあらわれる。

(7)a. 罪にはならないと結論づけた。

b. 「農薬の摂取による中毒死の可能性が高い」と結論づけた。

c. 「風や波を引き続き受けて転覆したと考えられる」と結論づけた。

以上、<読売>2017

筆者が調べたところ、「結論づける」は1970年のコーパスで初めて観察され、現代語からあらわれる形態である。

(8)あまり性急に結論づけたり、教訓を述べたりすると、逆効果になりやすいものです。

<読売>1970

すなわち、漢語「結論」の場合、現代語では漢語動詞の形態もあるけれど、「-づける」の形も用いられていることが分かった。

(9) 【前期現代語】	→	【現代語】
結論する		結論する
		結論づける

一方、(6h)の「故障」の場合、前期現代語では「スル形」としてあらわれていない。

(10)a. 水道の水源地と配水地との間に在る鉄管に故障起こり…(以下略)

<読売>1911

b. 左なければ先板の本屋より故障出て出版かなひがたきものなり…(以下略)

〈太陽〉1895

(10)は、「故障する」と同じ意味で使われているが、現代語では出現していない。「故障する」の形は、下記の(11)から分かるように現代語の時代になってから観察される。

(11)a. 故障していた？開閉機。

〈読売〉1965

b. 架線が故障し遅れる。

〈読売〉1967

漢語動詞「故障する」の時代による変化を提示すると以下の(12)のようになる。

(12) 【前期現代語】 → 【現代語】
故障起こる 故障する
故障出る

上述した「故障起こる」と「故障出る」の形は「他形」で、現代韓国語の漢語動詞で見られる現象であるため興味深い。

現代語では「スル形」であらわれていないが、前期現代語においては「スル形」として観察される場合もある。「詐欺」「感懐」「作戦」がその語例で、以下のように用例を提示する。

(13)a. 詐欺したものとも思へませんから持つて歸りました。

〈太陽〉1909

b. 月光を望で種々感懐するは曾て衰へたること有らず…(以下略)

〈太陽〉1895

c. 彼れ我近海に來りて作戦する場合の對勢に鑑みて…(以下略)

〈太陽〉1917

(13a)の「詐欺」は前期現代語では「詐欺する」という「スル形」であらわれているが、現代語では「詐欺を働く」の形が用いられている。(13b)の「感懐(かんかい)」は「あることにあたって心に感じたこと」の意味であり、現代語では漢語動詞ではなく、「感懐を抱く」などの形で使われている。(13c)の「作戦」は現代語ではよく使われている漢語名詞であるが、漢語動詞「作戦する」はあらわれていない。代わりに、「作戦を立てる」な

どの形が観察される。

以上、前期現代語と現代語における漢語動詞について考察した結果を、形態変化の様相から大きく四つに分類し、表4のようにまとめる。

表4 前期現代語と現代語における漢語動詞の変化(日本語)

種類	語例	前期現代語	現代語
I	運動	スル形	スル形
II	結論	スル形	スル形・「-づける」
III	詐欺	スル形	句
IV	故障	他形	スル形化

Iは、現代語と前期現代語において「スル形」であらわれる場合である。この類はもともと生産的な形態である。IIは、「結論」の場合であるが、前期現代語では「スル形」であらわれるのが、現代語になってから、「-づける」の形態が一般的にあらわれる場合である。「-づける」の形は、音変化しており、漢語との結束力が強い点で、「スル形」とは異なる形である。IIIは、前期現代語では「スル形」で出現しているが、現代語では句としてあらわれる場合である。「スル形」と異なるのは、漢語と機能動詞の間に助詞が必ず必要である点である。IVは、前期現代語では「スル形」ではないが、現代語では「スル形」化して使われる場合であり、IVに属されるのは筆者が調べたところ「故障する」のみ出現している。

4.1.1.3 中古・近世語の二字漢語動詞

以上、前期現代語と現代語における漢語動詞の形態の変化について用例をあげながら比較考察を行った。その結果、前期現代語でも現代語と変わらず「スル形」があらわれていることが分かった。

本節では時代をさかのぼって、中古・近世語における漢語動詞について検討する。ほとんどの場合において「スル形」のみ出現している³¹。

(14)a. 美奴忠兼は火に焼けて死亡し、紀蔭連は炎に咽びて悶絶す。

(美奴忠兼は火に焼かれて死亡し、紀蔭連は炎にむせて悶絶してしまった)

<十訓抄>1252

³¹ 第一章にも述べているが、現代日本語訳は、小学館『新編日本古典文学全集(2002)』による。

- b. 拍子とりて唱歌したまふ。
(拍子をとって唱歌をなさる)

〈源氏〉1010

(14)は中古・近世語で「スル形」としてあらわれている用例である。(14a)の「死亡する」の場合は以下から分かるように前期現代語と現代語で「スル形」が取られている。

- (15)a. 年々死亡する九千三百頭の人民は…(以下略)

〈国民之友〉1888

- b. 運転手が死亡する事故が起きている。

〈読売〉2017

このような漢語動詞は「対面する」「売買する」もある。以下の(16)と(17)はそれぞれ時代別「対面する」と「売買する」の用例である。

- (16)a. 宣旨、対面して、御消息は聞こゆ。
(宣旨が応対に出て、お取り次ぎ申し上げる)

〈源氏物語〉1010

- b. 或は対面して質疑するものあり。

〈太陽〉1895

- c. 石田さんと対面した学生たちは…(以下略)

〈読売〉2017

- (17)a. 貨殖伝にのする所をみれば牛馬を売買する事にしへより甚多し。

〈虎明本狂言集〉1642

- b. 即ち第一直接に自ら其物を賣買するか…(以下略)

〈太陽〉1901

- c. 仲介サイトで正規の10倍超の価格で売買する例が相次ぎ…(以下略)

〈読売〉2017

これらの漢語動詞は中古・近世語から「スル形」が取られている。

ところが、(14b)の「歌唱する」の場合は現代語では漢語動詞としてあらわれていない。

(18) a. 文部の唱歌を誦して喜ぶ者は…(以下略)

<国民>1888

b. 食後小山さんと裏の銀杏の木の下で唱歌を唱つてると…(以下略)

<女学>1909

(19) 唱歌を歌う場面もあり…(以下略)

<読売>2016

(18)は前期現代語で、(19)は現代語で出現している用例である。これらから分かるように前期現代語の時代から「唱歌する」は「スル形」として使われていない。「唱歌する」の以外に「通夜する」があり、その用例を下記の(20)に示す。

(20) a. 今宵は通夜して、明日もいまだ夜に…(以下略)

(この夜は夜通し参籠していると、翌朝もまだ夜の明けない時に)

<とはずがたり>1306

b. 夜業をやすんで通夜してる五六人の友垣…(以下略)

<婦人倶楽部>1925

前期現代語まで漢語動詞としてあらわれる「通夜する」は現代語では句としてあらわれている。

一方、「申上する」は前期現代語と現代語では漢語動詞の形が取られておらず、和語動詞としてあらわれる場合である。

(21) 国人等これを歎て、守の京に有る間に申上(しんじょう)して…(以下略)

(国の人はそのを嘆き、守の上京中に申請して)

<今昔物語集>1100

(22) a. 夢にでも見た事を申上たのでございませう…(以下略)

<太陽>1895

b. 経済の繁栄に寄与してきたという歴史的事実を申し上げたと述べた。

<読売>2017

中古・近世語での「申上する」は漢語動詞として出現しているが、(22)から分かるように前期現代語と現代語では和語動詞「申し上げる」があらわれている。

以上、中古・近世語における「スル形」は前期現代語と現代語ではどのような形を取っているのか述べた。中古・近世語から現代語までの漢語動詞の形は「スル形」に固定している。ただ、中古・近世語では漢語動詞であったのが時間の流れに沿って漢語動詞の形を取っていない場合が観察される。

4.1.1.4 本節のまとめ

以上、漢語動詞の形態的様相について検討しており、その結果を下記のようにまとめられる。

表5 日本語における漢語動詞の形態の変化様相

分類	語例	中古・近世語	前期現代語	現代語
I	死亡	スル形	スル形	スル形
	充血	∅	スル形	スル形
	被曝	∅	∅	スル形
II	結論	∅	スル形	スル形・-づける
III	通夜	スル形	スル形	句
	歌唱	スル形	句	句
	申上	スル形	和語動詞	和語動詞
IV	故障	∅	他形	スル形化

I類から分かるのは、日本語における漢語動詞は、中古・近世語から「スル形」に固定していることである。

II類はI類のうち、「-づける」の形があらわれる場合である。「-づける」の形は、音変化しており、漢語との結束力が強い点で、「スル形」とは異なる形である。

III類は中古・近世語では「スル形」であったのが、前期現代語及び現代語では句か和語動詞として用いられる場合である。

最後、IV類の「故障する」は、前期現代語では漢語動詞として使われておらず、現代語の時代になってから「スル形」化してあらわれる。現段階では「故障する」一つしか観察されていないが、日本語における漢語動詞の変遷様相としては珍しいものであると考えられる。

4.1.2 韓国語の二字漢語動詞

以上、日本語における漢語動詞の形態の変化様相について述べた。日本語の方は時代が下がるに関係なく、ほとんどの場合において「スル形」に固定している。

本章では韓国語におけるの漢語動詞の形態について述べ、分析する。

4.1.2.1 現代語の二字漢語動詞

まず、現代韓国語における「hada形」と「他形」を以下に示す。

- (23) a. 아이와 함께 운동(運動)하였다.
ai-wa hamkke undong(運動)-ha-yeosdda
子供-と 一緒に 運動-する-過去終止形
(子供と一緒に運動した)
- b. 눈이 충혈(充血)되었다.
nun-i chunghyeol(充血)-doe-eosdda
目-が 充血-なる-過去終止形
(目が充血した)
- c. 여행자가 방사능에 피폭(被曝)되었다.
yeohangja-ga bangsaneung-e pipog(被曝)-doe-eosdda
旅行者-が 放射線-に 被曝-される-過去終止形
(旅行者が放射線に被曝した)
- d. 관객이 박수(拍手)쳤다.
gwangaeg-i bagsu(拍手)-chi-essda
観客-が 拍手-打つ-過去終止形
(観客が拍手した)
- e. 도둑이 도망(逃亡)갔다.
dodug-i domang(逃亡)-ga-ssda
泥棒-が 逃亡-行く-過去終止形
(泥棒が逃亡した)
- f. 이 작품은 관객을 매료(魅了)시킨다.
i jagpum-eun gwangeog-eul maelyo(魅了)-siki-nda
この 作品-は 観客-を 魅了-させる-過去-現在終止形
(この作品は観客を魅了する)
- g. 정부는 그렇게 결론(結論)지었다.
jeongbu-neun geuleoh-ge gyeollon(結論)-ji-eosdda
政府-は そうだ-副詞化 結論-作る-過去終止形
(政府はそう結論した)

- h. 컴퓨터가 고장(故障)났다.
 keompyuteo-ga gojang(故障)-na-ssda
 パソコン-が 故障-出る-過去終止形
 (パソコンが故障していた)

(23a)のような「hada形」の「hada」は語彙的な意味は持っておらず、漢語名詞を動詞化とする機能的役割のみを担っており、非常に生産的である。ところが(23b)から(23h)のように「hada形」が取られておらず、「他形」になっているのも観察される。

4.1.2.2 前期現代語の二字漢語動詞

本節では、現代語であらわれている「hada形」と「他形」は前期現代語ではいかなる形態を取るのか検討する。

4.1.2.2.1 hada形

日本語の場合と同様、韓国語においても主に「hada形」が観察される。

- (24) a. 아이와 함께 운동(運動)하였다.
 ai-wa hamkke undong(運動)-ha-yeosda
 子供-と 一緒に 運動-する-過去終止形
 (子供と一緒に運動した)

(25a)の再掲

- b. 계속 운동(運動)하였다.
 gyesog undong(運動)-ha-yeosda
 継続 運動-する-過去終止形
 (続けて運動した)

<三千里>1932

(24a)の「운동undong(運動)-hada」は(25)から分かるように前期現代語では「hada形」として用いられる。現代語で「hada形」で使われるほとんどのは前期現代語でも「hada形」で観察される。

- (25) a. 진서만 학습(学習)했더니...(以下略)
 jinsyeo-man hagseub(学習)-h@-deo-ni
 真書(漢文のことを指す)-のみ 学習-する-過去の回想-のに

(漢文だけ学習したのに)

<京郷>1906

- b. 비상히 학닥(虐待) 호얏거든…(以下略)
 bisanghi hagd@i(虐待)-h@-yas-geodeun
 非常に 虐待-する-過去-条件
 (非常に虐待したなら)

<九疑山>

- c. 도라가지 말나 지시(指示) 호심을…(以下略)
 dolaga-jimal-na jisi(指示)-h@-si-m-eul
 戻っていく-するな-命令 指示-する-敬語-名詞化-を
 (戻っていくなと指示なざることを)

<新約>

日本語の場合と同様であるが、韓国語でも前期現代語でもほとんどの場合において、「hada形」が取られている。

4.1.2.2.2 doeda形

現代語で「doeda形」に定着している「충혈(chunghyeol 充血)」は前期現代語では以下のような形態をみせる。

- (26) 눈이 충혈(充血) 되었다.
 nun-i chunghyeol(充血)-doe-eosdda
 目-が 充血-なる-過去終止形
 (目が充血した)

(26b)の再掲

- (27) a. 눈은 뺨 빨갓게 충혈(充血) 되야…(以下略)
 nun-eun ssisbeolgeos-ke chunghyeol(充血)-doe-ya
 目-は 真っ赤だ-副詞化 充血-なる-理由
 (目は真っ赤に充血して)

<東亞>1922

- b. 눈이 뺨 빨갓게 충혈(充血) 한 자본가들은…(以下略)
 nun-i beolgeos-ke chunghyeol(充血)-ha-n jabonga-deul-eun
 目-が 真っ赤-副詞化 充血-する-連体形 資本家-たち-は

(目が真っ赤に充血した資本家たちは)

<東亞>1927

前期現代語での「충혈chunghyeol 充血」は、(27)から分かるように「doeda形」と「hada形」が共存している。現代語で「doeda形」としてあらわれているのは、前期現代語においては「hada形」が取られる場合もある。「모순mosun 矛盾」「전염deonyeom 伝染」「마비mabi 麻痺」の場合も「doeda形」と「hada形」が混在している。

(28) 【矛盾】

a. 人類愛와	<u>矛盾되는</u>	民族은…(以下略)
inlyuae-wa	<u>mosun(矛盾)-doe-neun</u>	minjog-ida.
人類愛-と	矛盾-なる-連体形	民族-終止
(人類愛と矛盾する民族だ)		

<東亞>1923

b. 其宣言과	<u>矛盾하다</u>	云하였는데…(以下略)
gi-seoneon-gwa	<u>mosun(矛盾)-ha-da</u>	un-ha-yeoss-neundae
その-宣言-と	矛盾-する-と	云-する-過去-なのに
(その宣言と矛盾すると言ったのに)		

<東亞>1921

(29) 【伝染】

a. 그에게도	<u>전염(伝染)되었다.</u>
geu-ege-do	<u>jeonyeom(伝染)-deo-eosdda.</u>
彼-に-も	伝染-なる-過去終止形
(彼にも伝染した)	

<三千里>1934

b. 관람자에게	<u>전염(伝染)하는</u>	성질은…(以下略)
gwanlamja-ege	<u>jeonyeom(伝染)-ha-neun</u>	seongjil-eun
観覧者-に	伝染-する-連体形	性質-は
(観覧者-に伝染する性質は)		

<三千里>1932

(30) 【麻痺】

- a. 자기의 예술적 감정이 마비(麻痺)되고… (以下略)
jagi-ui yesuljeog gamjeong-i mabi(麻痺)-deo-go
自分-の 芸術的 感情-が 麻痺-なる-て
(自分の芸術的感情が麻痺して)

<三千里>1938

- b. 신경이 마비(麻痺)하여 이러할가.
singyeong-i mabi(麻痺)-ha-yeo ileo-ha-lga.
神経-が 麻痺-する-理由 このように -する -疑問
(神経が麻痺するからこのようだろうか)

<三千里>1938

本来「hada」のみで意味領域の一部分を担っていたが、時代の流れによって「hada」の役割を「doeda」が担うようになり、「hada」の意味領域が狭くなってしまい、前期現代語の時代になると「hada形」と「doeda形」が混在する。前期現代語において「hada形」と「doeda形」が同時にあらわれていることは言語変化における過渡期であると言えよう。

4.1.2.2.3 chida形

現代語で漢語動詞として使われない「박수bagsu(拍手)-chida」は前期現代語で「hada形」として用いられる。

- (31)a. 관객이 박수(拍手)쳤다.
gwangaeg-i bagsu(拍手)-chi-essda
観客-が 拍手-打つ-過去終止形
(観客が拍手した)

(26d)の再掲

- b. 청중은 박수(拍手)하였다.
cheong jung-eun bagsu(拍手)-ha-yeosda
聴衆-は 拍手-する-過去終止形
(聴衆は拍手した)

<三千里>1934

(31a)のように漢語動詞として出現する「박수bagsu拍手」は前期現代語では(31b)のように助詞付きの「chida」の形が観察される。

- (32) 찬탄의 박수(拍手)를 치다고 하는 말을… (以下略)
 chatan-ui bagsu(拍手)-leul chi-es-dagoha-neun mal-eul
 賛嘆-の 拍手-を 打つ-という-連体形 言葉-を
 (賛嘆の拍手をしたという言葉)

<三千里>1936

4.1.2.2.4 gada 形

以下は現代語で漢語の後部に「gada(行く)」が後接する用例である。

- (33) 도둑이 도망(逃亡)갔다.
 dodug-i domang(逃亡)-ga-ssda
 泥棒-が 逃亡-行く-過去終止形
 (泥棒が逃亡した)

例 (26e) の再掲

- (34) a. 혹은 무서워 도망(逃亡)가고… (以下略)
 hog-eun muse-wo domang(逃亡)-ga-go
 或い-は 怖い-理由 逃亡-行く-て
 (或いは怖くて逃亡して)

<三千里>1938

- b. 저편으로 기어서 도망(逃亡)한다.
 jeopyeon-eulo gi-eoseo domang(逃亡)-ha-nda
 あちら-に 這う-て 逃亡-する-現在終止形
 (あちらに這って逃亡する)

<三千里>1935

(34)から分かるように「gada形」と「hada形」は前期現代語では共存していることが観察される。以外に「출장chungjang出張」「피난pinan避難」の場合を提示する。

(35) 【出張】

- a. 출장(出張)갔다는 날… (以下略)
chungjang(出張)-ga-ss-daneun nal…
 出張-行く-過去-という 日
 (出張したという日)

<三千里>1941

- b. 이곳에 출장(出張)하지 아니하겠다 하므로...(以下略)
 igos-e chungjang(出張)-ha-jianiha-ges-daha-meulo
 ここ-に 出張-する-否定-意志-間接話法-理由
 (ここに出張しないつもりだそうなので)

<東亞>1935

(36) 【避難】

- a. 都市에서 피난(避難)간 富者.
 dosi-eseo pinan(避難)-ga-n buja
 都市-から 避難-行く-連体形 金持ち
 (近代都市から避難したお金持ち)

<三千里>1940

- b. 피난(避難)하는 주민들이 보통이를 들고...(以下略)
pinan(避難)-ha-neun jumindeul-i botungi-leul deul-go
 避難-する-連体形 住民たち-が 荷物-を 持つ-て
 (避難する住民たちがお荷物を持って)

<三千里>1939

ところが、現代語では「gada形」で出現するが、前期現代語では「hada形」のみあらわれる場合もある。

- (37) a. 아버지가 미국으로 휴가(休暇)갔다.
 abeoji-ga migug-euro hyuga(休暇)-ga-ss-da
 お父さん-が アメリカ-へ 休暇-行く-過去-終止形
 (お父さんがアメリカへ出張した)

(現代語の作例)

- b. 各 1개월씩 휴暇할 수 잇고
 gag 1gaewol-sig hyuga(休暇)-ha-lsyis-go
 各 1か月-ずつ 休暇-する-可能-て
 (各1か月ずつ休暇に入ることができて)

<三千里>1931

「휴가hyuga休暇」の場合、前期現代語で「他形」が観察されない。

4.1.2.2.5 sikida形

現代語においては漢語の後部に「sikida」を結合し用いられているが、前期現代語では「hada形」も観察できる。

- (38) 이 작품은 관객을 매료(魅了)시켰다.
 i jagpum-eun gwangeog-eul maelyo(魅了)-siki-eosdda
 この 作品-は 観客-を 魅了-させる-過去終止形
 (この作品は観客を魅了した)

(26c)の再掲

- (39) a. 수만의 朝鮮日報 독자들 매료(魅了)시키던…(以下略)
 suman-eui 朝鮮日報 dogja-leul maelyo(魅了)-siki-deo-n
 数万-の 朝鮮日報 読者-を 魅了-させる-過去の回想-連体形
 (数万の読者を魅了した)

<三千里>1933

- b. 讀者를 魅了하는 것은…(以下略)
 dogja-leul maelyo(魅了)-ha-neun geos-eun
 読者-を 魅了-する-連体形 こと-は
 (読者を魅了することは)

<東亞>1927

前期現代語においての「매료maelyo魅了」は、現代語と同様の「sikida形」があらわれるが、「hada形」も共存して使われている。現代語で「sikida形」として用いられる漢語動詞は、前期現代語においては「hada形」が取られる場合もある。

「매혹maehog(魅惑)」「세뇌senoe洗脳」の場合も「sikida形」と「hada形」が共存している。

(40) 【魅惑】

- a. 우리들을 매혹(魅惑)시켜 온…(以下略)
 ulideul-eul maehog(魅惑)-siki-eo o-n
 私たち-を 魅惑-させる-て 来る-連体形
 (私たちを魅惑してきたすべてのフランスの名画)

<三千里>1940

- b. 백성을 매혹(魅惑)하는 중이다
 baegsyong-eul maehog(魅惑)-ha-neunjyuong-ida.
 百姓-を 魅惑-する-ところ-である。
 (百姓を魅惑するところである)

<東亞>1923

(41) 【洗脳】

- a. 印度란데서 그들을 洗腦시켜 놓았으니…(以下略)
 indo-lan-de-seo geu-deul-eul senoe(洗脳)-siki-enoh-ass-euni
 インド-という-ところ-で 彼-達-を 洗脳-させる-て置く-過去-理由
 (インドという所で彼らを洗脳して置いたので)

<京郷>1955

- b. 모든 동독인들을 세뇌(洗脳)하는 데…(以下略)
 modeun dongdogin-deul-eul senoe(洗脳)-ha-neunde
 すべて 東ドイツ人-達-を 洗脳-する-のに
 (すべての東ドイツ人達を洗脳するので)

<東亞>1959

上記の前期現代語の「매료maelyo魅了」「매혹maehog(魅惑)」「세뇌senoe洗脳」は「hada形」と「sikida形」が混在して使われており、このような現象についてチェ, ヒョンベ(1929)では単純に他動詞として使われる場合には「hada」で充分であるものが、「sikida」を用いる誤りがかなり多いと指摘している。しかし、このような現象について誤りとして解釈するより、前節の「doeda形」と同様、言語変化における過渡期であると解釈できる。

一方、現代語では「sikida形」であられるが、前期現代語では「hada形」のみ出現している場合もある。「오염oyeom汚染」の場合、筆者の調べた限りでは「hada形」のみで用いられている。

- (42)a. 주민이 강을 오염(汚染)시켰다.
 jumin-i gang-eul oyeom(汚染)-siki-eoss-da
 住民-が 川-を 汚染-させる-過去-終止形
 (住民が川を汚染した)

(現代語の作例)

(43) a. 京成의 空気を 汚染할 우려가…(以下略)
 gyeongseong-ui gonggi-leul oyeom(汚染)-ha-lulyeo-ga
 京成-の 空気-を 汚染-する-恐れ-が
 (ソウルの空気を汚染する恐れが)

<東亞>1937

b. 肛門部가 羽毛를 오염(汚染)하고 있다.
 hangmunbu-ga umo-leul oyeom(汚染)-ha-goiss-da
 肛門部-が 羽毛-を 汚染-する-ている
 (肛門部が羽毛を汚染している)

<東亞>1939

c. 보루도液의 撒布는 果實을 汚染하므로…(以下略)
 boludoeg-ui salpo-neun gwasil-eul oyeom(汚染)-ha-meulo
 ボルドー液-の 撒布-は 果実-を 汚染-する-理由
 (ボルドー液の撒布は果実を汚染するので)

<東亞>1940

4.1.2.2.6 jisda形

以下は現代語で漢語の後部に「jisda(作る)」が後接する場合であり、その用例を提示する。

(44) 정부는 그렇게 결론(結論)지었다.
 jeongbu-neun geuleoh-ge gyeollon(結論)-ji-eosdda
 政府-は そうだ-副詞化 結論-作る-過去終止形
 (政府はそう結論した)

(26f)の再掲

漢語「결론gyeollon結論」は後部に「jisda(作る)」が後接して動詞化している。漢語の後部に位置している「jisda(作る)」の本来の意味は、「建物-jisda(建てる)」のように「作る、建てる」の意味をあらわしているが、(44)では「結論を出す」の意味があらわれており、本来の意味を失っている。

上記の「결론gyeollon結論」も今まで述べてきた「doeda形」「sikida形」「gada形」と同様、前期現代語では「jisda形」と「hada形」が混在している。

以下は前期現代語から収集した用例である。

(45) a. 간단하게 결론(結論)지을 수 없는 문제같이…(以下略)
 gandan-ha-ge gyeollon(結論)-ji-eulsueobs-neun munje-gati
 簡単-する-副詞化 結論-作る-可能-連体形 問題-ように
 (簡単に結論することが出来ない問題ように)

〈三千里〉1940

b. 국가적 명령이라고 결론(結論)하고 싶습니다.
 guggajeog myeonglyeong-ilago kyeollon(結論)-ha-gosip-seubnida.
 国家的 命令-と 結論-する-たい-終止形(丁寧)
 (国家的命令と結論したいです)

〈三千里〉1941

現代語において「jisda形」のみあらわれる「결론gyeollon結論」は、前期現代語では(45b)のように「hada形」も観察される。

「결론gyeollon結論」以外に「미소miso微笑」の場合にも同様の現象がみられる。

(46) a. 나는 微笑하였다.
 na-neun miso(微笑)-ha-yeosda
 私-は 微笑-する-過去終止形
 (私は微笑んだ)

〈三千里〉1932

b. 滿足의 微笑를 지으며
 manjog-ui miso(微笑)-leul ji-eumyeo
 滿足-の 微笑-を 作る-ながら
 (満足そうに微笑しながら)

〈三千里〉1935

(46)から分かるように、「미소miso微笑」も「결론gyeollon結論」と同様、前期現代語で「hada形」と「他形」が共存している。

4.1.2.2.7 nada形

一方、現代語と前期現代語両方とも「hada形」が取られていない場合もある。

(47) 컴퓨터가 고장(故障)나도 괜찮다.
 keompyuteo-ga gojang(故障)-na-do gwaenchan-da.

パソコン-が 故障-出る-も 大丈夫-終止
 (パソコンが故障しても大丈夫だ)

現代語では(47)のように「nada」が定着しているが、前期現代語では(48)から分かるように多様な形態であらわれており、常に助詞付きの形である。

- (48) a. 故障이 生하야…(以下略)
 go.jang(故障)-i saengha-ya
 故障-が 生ずる-終止
 (故障する) 〈東亞〉1920
- b. 故障이 생겼다.
 go.jang(故障)-i saenggi-eos-da
 故障-が 生ずる-過去-終止
 (故障した) 〈東亞〉1934
- c. 故障이 起할는지…(以下略)
 go.jang(故障)-i giha-lneunji
 故障-が 起る-推測
 (故障するのか) 〈東亞〉1920
- d. 故障이 나서…(以下略)
 go.jang(故障)-i na-seo
 故障-が 出る-理由
 (故障して) 〈東亞〉1936

(48d)は「故障」と助詞付きの「nada」の形があらわれている。ところが、「nada形」では出現しておらず、「hada形」も観察されないのが特徴である。

4.1.2.2.8 その他

以下の(49)の漢語動詞は現代語では漢語として残っており、漢語動詞としては用いられない。

(49) a. 二개월동안 교양(教養) 하얏다고 한다.
 igaewol-dongan gyoyang(教養)-ha-yas-dago-ha-nda.
 二カ月間 教養-する-過去-伝言-する-現在終止形
 (二カ月間、教育したという)

<東亞>1933

b. 어려움을 感覺하였다.
 eolyeoum-eul gamgag(感覺)-ha-yeosda.
 難しさ-を 感覺-する-過去終止形
 (難しさを覚えた)

<三千里>1937

c. 아희들은 拍掌하고…(以下略)
 ahoi-deul-eun bagjang(拍掌)-ha-go
 子供-たち-は 拍掌-する-て
 (子供たちは拍手して)

<三千里>1935

「교양gyoyang教養」「감각gamgag感覺」「박장bagjang拍掌」は(49)のように前期現代語では「hada形」としてあらわれるが、現代語では漢語動詞として用いられない。

「교양gyoyang教養-hada」は前期現代語においては「教えて養う」という意味を持っており、漢語動詞としてあらわれていたが、現代語になってから「個人の人格に結びついた知識や行い」という意味のみで使われるようになり、漢語動詞としては用いられなくなった。そして「감각gamgag感覺-hada」は現代語になってからほとんどの場合において「느끼다neukkida(感じる)」という類義語としての固有語動詞が用いられる。また、「박장bagjang拍掌」は現代語では単独ではほとんど使えず、「拍掌大笑(手を打って大笑いすること)-hada」という形であられる。漢語によっては語彙の意味領域の縮小、類義語との競争、使用の様相の変化などに伴い、それが漢語動詞化に影響を及ぼしていると考えられる。

前期現代語では漢語動詞であるが、時間の流れによって語彙が無くなる場合もある。

(50) 充分이 了解하고 잇다면…(以下略)
 chungbun-i yohae(了解)-ha-gois-damyeon
 充分-に 了解-する-ている-仮定
 (充分に了解しているのなら)

<三千里>1936

「요해yohae了解」の場合、日本語では前期現代語と現代語両者とも使われているが、韓国語では前期現代語でしか使われていない。これは現代になってからは無くなり、「요해yohae了解」の意味の代わりに「諒解、納得、理解」などの語彙を用いて入れ替えることができる。「요해yohae了解」以外にも「배견baegyeon拝見」「상달sangdal上達」「상매sangmae商売」などがある。

- (51) a. 書簡을 拜見하야 驚異하얏습니다.
 seogan-eul baegyeon(拜見)-ha-ya gyeonggi-ha-yas-seubnida
 手紙-を 拜見-する-て 驚異-ダ-過去-終止形(丁寧)
 (手紙を拝見して驚きました)

<東亜>1934

- b. 오랜 工夫를 통하여서만 上達하는…(以下略)
 olaen gongbu-leul tongha-yeoseo-man sangdanl(上達)-ha-neun
 長い 勉強-を 通じる-て-だけ 上達-する-連体形
 (長い間の勉強を通じるのみで上達する)

<三千里>1935

- c. 船내에 와서 商賣하고 있다
 seonnae-e wo-aseo sangmae(商賣)-ha-goisda
 船内-に 来る-て 商売-する-現在進行形
 (船内に来て商売をしている)

<三千里>1932

以上、現代語と前期現代語における漢語動詞について考察した結果を、形態の変化様相から大きく四つに分類し、以下の表6のようにまとめる。

表6 前期現代語と現代語における漢語動詞の変化(韓国語)

種類	語例	韓国語	
		前期現代語	現代語
I	運動	hada 形	hada 形
	婚入	∅	hada形
II	感染	hada形・他形	他形
	被曝	∅	他形
	拍手	hada形	他形
III	故障	句	他形化

IV	教養	hada形	句
	了解	hada形	∅

I は現代語と前期現代語において「hada形」であらわれる場合である。この類は最も生産的な形態であるといえ、用例が多い。

II は、現代語において「他形」であらわれる場合で、さらに三つの下位分類ができる。第一、前期現代語では「hada形」と「他形」があらわれているが、現代語では「他形」が用いられる場合がある。前期現代語では「hada形」と「doeda形」「sikida形」「gada形」「jisda形」「nada形」「chida形」の両方が取られていたものが、現代語では「他形」が主にあらわれている。前期現代語で「hada形」と共存してあらわれることは言語変化における過渡期であると解釈できる。第二、現代語になってから使い始めた場合があり、「被曝」は「doeda形」のみで使われている。第三、前期現代語では「hada形」と助詞付きの形であらわれるが、現代語になってから「hada形」は用いられなく、「他形」で使われる場合である。前期現代語では漢語動詞として用いられるが、現代語では漢語動詞ではない形態である。

III は、前期現代語では句としてあらわれたが、現代語になってから「他形」の漢語動詞になる場合である。これに属する漢語は「故障」のみ観察される。前期現代語では助詞付きの「nada」が後接しているが、現代語では「nada形」としてあらわれる。

IV は、前期現代語では「hada形」であったが、現代語においては句としてあらわれる場合と現代語ではもう使われていない場合である。

4.1.2.3 中世・近代語の二字漢語動詞

以上、前期現代語と現代語における漢語動詞の形態の変化について用例をあげつつ、比較考察を行った。その結果、前期現代語では「hada形」として用いられていたのが現代語では漢語の後部に多彩な形態が結合して使われている場合があることが分かった。

本節では時代をさかのぼって、中世・近代語における漢語動詞について検討してみる。中世・近代語においてはほとんどの場合において「hada形」のみ出現している。

「doeda形」「sikida形」などはあらわれおらず、以下の(52)と(53)から分かるように本動詞としての意味で用いられていた。

- (52) 제나라 정승이 되니... (以下略)
 jye-nala jeongseung-i deo-ni
 齊-国 政丞-が なる-理由
 (齊の丞相になるので)

〈萬石〉

- (53) 중을 시키 마만 칼질도 히며... (以下略)
 jyong-eul siki-eo g@mang@man kal-jil-do h@-myeo
 僕-を させる-て こっそり 刃物-動作をあらわす接尾辞-も する-假定
 (僕にこっそり包丁を入れさせたら)

〈李朝〉

では、中世・近代語における漢語動詞の用例を以下のように提示する。

- (54) a. 단명(短命) 히며 당슈(長寿) 히는 뵈되니... (以下略)
 danmyeong` (短命)-h@-myeo dyang`syu-h@(長寿)-n@n m@ingdyoi-ni
 短命-する-て 長寿-する-連体形 兆し-理由
 (若死にし、長生きする兆しなので)

- b. 그리 니르시니 감격(感激) 히영이다.
 geuli nileu-si-ni gamgyeog(感激)-h@-yeongida.
 そう 言う-敬語-理由 感激-する-終止形
 (そう仰るので感激である)

以上、〈李朝〉

(55)は中世・近代語で「hada形」としてあらわれており、これらは前期現代語と現代語でも「hada形」として出現している。

ところが、中世・近代語では「hada形」であるが、現代語では「hada形」ではない場合が三語観察される。以下の(55)の語例をみられたい。

(55) 【中世・近代語】

- 伝染-h@da
 微笑-h@da
 逃亡-h@da

- (56) a. 병기에 던염(伝染) 히여... (以下略)
 byeonggui-ye dyeonyeom(伝染)-h@-iyeo
 病氣-に 伝染-する-理由
 (病気に伝染して)

b. 부인이 미소(微笑)하코…(以下略)

buin-i miso(微笑)-h@-go

夫人-が 微笑-する-て

(夫人が微笑んで)

以上、〈李朝〉

c. 도망(逃亡)하러 줌으로…(以下略)

domang(逃亡)-h@-lryoch@m-eulo

逃亡-する-ところ-で

(逃亡するところで)

〈純元〉

(56)の場合、中世・近代語では「hada形」を取っているが、前期現代語と現代語ではそれぞれ以下のような形が用いられている。

(57) 【中世・近代語】	→	【前期現代語】	→	【現代語】
伝染-h@da		伝染-hada、伝染-doeda(なる)		伝染-doeda(なる)
微笑-h@da		微笑-hada、微笑-jisda(作る)		微笑-jisda(作る)
逃亡-h@da		逃亡-hada、逃亡-gada(行く)		逃亡-gada(行く)

中世・近代語では「hada形」であらわれるのが、前期現代語になつては「hada形」と「他形」の共存の時期を経て、現代語では「他形」のみあらわれている。

4.1.2.4 本節のまとめ

以上、漢語動詞の形態的様相について検討しており、その結果を以下のようにまとめられる。

表7 韓国語における漢語動詞の形態の変化様相

分類	語例	中世・近代語	前期現代語	現代語
I	感激	hada形	hada形	hada形
	運動	∅	hada形	hada形
	婚入	∅	∅	hada形
II	伝染	hada形	hada形・他形	他形
	充血	∅	hada形・他形	他形
	被曝	∅	∅	他形

	拍手	∅	hada形	他形
	故障	∅	句	他形化
Ⅲ	教養	hada形	hada形	句
	了解	hada形	hada形	無

I は、「hada形」が安定的にあらわれる場合である。どの時代に作られた漢語であっても、「hada形」に固定している。

II は、現代語で「他形」のみであらわれる場合で、五つのパターンがみられる。第一、中世・近代語では「hada形」のみあらわれているが、前期現代語で「他形」との共存を至って、現代語では「他形」のみに使われる場合である。この場合は、「hada形」と「doeda形」「sikida形」「nada形」「gada形」「jisda形」「chida形」が混在している。前期現代語まで「hada」の意味領域が広がったが、漢語に制約が生じ「hada」以外の形式を取る傾向がみられると考えられる。第二、前期現代語で「hada形」と「他形」が共存しており、現代語になってからは「他形」のみであらわれる場合である。第三、新語のうち、「他形」のみで出現する場合である。第四、「hada形」で用いられたのが、現代語では「他形」として使われる場合である。そして、第五、一語のみ観察されるが、前期現代語では句であらわれており、現代語では「他形」の形態で出現する場合である。

Ⅲは、中世・近代語から「hada形」で使われたのが、現代語になってから句または、まったく用いられていない場合である。

4.1.3 日韓二字漢語動詞の形態の変遷に関する対照考察

以上、日韓両言語における漢語動詞の形態について述べてきた。漢語動詞が時代の流れに沿って形態の変化様相を三つに分類し整理すると、以下の表8のようになる。

表8 日韓両言語における漢語動詞の形態の変化様相

分類	日本語			韓国語		
	中古・近世語	前期現代語	現代語	中世・近代語	前期現代語	現代語
I	スル形	スル形	スル形	hada形	hada形	hada形
II	スル形	スル形	∅	hada形	hada形	∅
				hada形	hada形 他形	他形
III	スル形	∅	∅	hada形	∅	∅

I は、「スル形」と「hada形」が対応する場合であり、漢語動詞の形態は日韓語両方と

も変わらず漢語の後部に「スル」と「hada」が取られている。ただ、日本語において「結論」の場合、「スル」以外の「-づける」が接続して「結論づける」の方が優先的にあらわれる。

Ⅱは、前期現代語まで日韓語両方ともそれぞれ「スル形」と「hada形」が使われているが、現代語では漢語動詞として使われていない場合である。ところが、韓国語において前期現代語では「hada形」と「他形」が共存してあらわれるが、現代語では「他形」であらわれる。

Ⅲは、前期現代語の以前の時代には漢語動詞として使われていたが、前期現代語の時代になってから漢語動詞として用いられていない場合である。

以上、日韓両言語における漢語動詞の形態の考察を行った結果、その特質は三つにまとめられる。

まず、一つ目は、日韓両言語とも古い時代から主に「スル形」と「hada形」が使われ、現代語と同様、対応している点である。次に、二つ目は、現代語になってから日本語に比べ、韓国語の方が漢語動詞の形態を取らなくなっている点である。一律的に「スル形」に固定化している現代日本語に反して、様々な形態を取る現代韓国語の様相は興味深い点で、本論文ではその原因については詳しく述べていないが、今後の課題とする。最後に、三つ目は、語例は少ないが、日本語でも「スル形」以外に「-づける」のように助詞なしの形を取る場合があり、本論文では漢語動詞の形態ではないので、詳細に分析していないが、これらの現象について今後深い考察を行う必要があると考えられる。

4.2 一字漢語動詞

前期現代語で出現する一字漢語動詞は日本語の方は460語、韓国語の方は895語であり、現代語では日本語と韓国語それぞれ71語と66語があらわれている。日韓両言語で減少する傾向がみられ、前期現代日本語と前期現代韓国語から観察される用例を以下のように提示することができる。

(58) a. アングロサクソン以外の人種に屬するものにして

<太陽>1909

b. それ**が**彼等の國々に傳する時には…(以下略)

<太陽>1909

(59) a. 高句麗에 屬하였다.

gogulyeo-e sog(屬)-ha-yeosda

高句麗-に 属-する-過去終止形

(高句麗に属した)

<三千里>1935

- b. 민족을 愛한다.
minjog-eul ae(愛)-ha-nda
民族-を 愛-する-終止
(民族を愛する)

<三千里>1932

(58)と(59)はそれぞれ前期現代日本語と前期現代韓国語で観察される一字漢語動詞の用例である。(58a)と(59a)の「属-する」と「속sog属-hada」は現代日韓両言語でよく使われているものであるが、(58b)と(59b)の「立-する」と「입ib立-hada」は現代日韓両言語では全くあらわれておらず、それぞれ「立つ」と「서다seoda立つ」という固有語動詞が用いられている。

本節では、一字漢語動詞をめぐる類義語の有無の観点から一字漢語動詞の減少に関わっている要因を明らかにする。

4.2.1 先行研究の再検討

ハン, ヨンギョン(2009)では、19世紀後半から20世紀前半の新聞の記事を対象として韓国語の文体における変化について分析した。前期現代語まで使われていた一字漢語動詞が現代語になって急減した原因として、現代語であらわれている一字漢語動詞は大抵対応する固有語動詞がない場合であると述べている(2009:329)。換言すると、一字漢語動詞に対応する固有語動詞がある場合、その一字漢語動詞は現代語で使われていないということである。

以下は前期現代韓国語であらわれる一字漢語動詞の用例である。

- (60)a. 政治家에 屬하시는 분이다.
jeongchiga-e son(属)-ha-si-neun bun-ida
政治家-に 属-する-敬語-連体形 方-終止形
(政治家に属する方である)

<三千里>1941

- b. 이것을 指함이다.
igeos-eul ji(指)-ha-m-ida
これ-を 指-する-名詞化-終止形
(これを指すことである)

<三千里>1940

- c. 今年부터 始하기로 하야…(以下略)
今年-buteo si(始)-ha-gilo ha-ya
今年-から 始-する-ことに する-て
(今年から始まることにして)

<三千里>1936

(60a)は固有語動詞が対応していない一字漢語動詞の場合であり、現代語にも「속sog属-hada(属する)」そのまま使われている。(60b)の「지ji指-hada(指す)」の場合は、固有語動詞の「가리키다garikida(指す)」が対応しており、現代語では「지ji指-hada」は消滅した。(60a)と(60b)はハン, ヨンギョン(2009)で述べているように、固有語動詞が対応している一字漢語動詞は現代語では出現しない。

しかし、(60c)の「시si始-hada(始める)」は、現代語であらわれておらず、固有語動詞に対応していない一字漢語動詞であり、現代語では「시작sijag始作-hada(始める)」という二字漢語動詞が出現している。(60c)から分かるように現代語で多くの一字漢語動詞が減少した原因は対応する固有語動詞の有無のみではなく、類義語の有無によるものであると考えられる。

本節では、類義語の有無による一字漢語動詞の消滅について検討する。ハン, ヨンギョン(2009)では、韓国語のみの一字漢語動詞を対象としたが、日本語の方も時代の流れに沿って消滅の様相がみられ、その原因としては韓国語と同様の類義語の有無によるものであると考えられる。

4.2.2 日本語の一字漢語動詞

以下の(61)から(63)に前期現代日本語の用例を提示する。

- (61)a. 自己の家庭を愛することによつて…(以下略)

<太陽>1925

- b. 合計二十五圓五十錢の経費に對し、一反歩の收穫を平均二石とし…(以下略)

<太陽>1909

- c. 従つて血の通つた一個の人間に接することができない…(以下略)

<太陽>1925

- (62)a. 軍艦製造の計畫を立する事が、甚だ危険である。

<太陽>1909

b. 僅かに二三人を乗する馬なき馬車たるに過ぎざりしかば…(以下略)

<太陽>1901

c. 或は少數の爲に作するのが文士本來の面目か…(以下略)

<太陽>1909

(63)a. 其の權勢の往々大臣を壓するものありしは余の自ら信ずる所なり。

<太陽>1901

b. 彼等の兒を育するや毫も教ふる所なし…(以下略)

<太陽>1895

c. 支那の書類を閲するを要せざるあるべく…(以下略)

<太陽>1895

(61)は一字漢語動詞に対応する類義語がない場合であり、現代語でも「属する」「対する」「接する」が用いられている。

(62)の「立する」「乗する」「作する」は、現代語では一字漢語動詞として使われなくなった用例で、「立する」は「立つ」、「乗する」は「乗る」、「作する」は「作る」という和語動詞としてあらわれている。(62)は対応する和語動詞があるため、もう一字漢語動詞は消滅したと考えられる。

(63)の「壓する」「育する」「閲する」も(62)と同様、現代語で出現していない一字漢語動詞であるが、(63)の一字漢語動詞の場合は以下のような二字漢語動詞が共存している。

(64)a. 少數の他邦人を制壓するの能力ありや否や是れ余の論ぜんとする…(以下略)

<太陽>1901

b. 一人の孤兒を養育するに毎月十五フラン…(以下略)

<太陽>1917

c. 自分はこの本の方は閲覽する機會を得なかつた。

<太陽>1917

(64)は(63)と同様の意味で用いられる二字漢語動詞で、前期現代語で共存している。ところが、現代語では(63)の一字漢語動詞が消滅し、この原因も類義語の二字漢語動詞が存在したためであると考えられる。

次は一字漢語動詞に類義語として二字漢語動詞が出現する場合である。

(69) 一字漢語動詞	:	類義語(二字漢語動詞)
壓する		制壓する
育する		養育する
閲する		閲覽する

(70) a. 其の權勢の往々大臣を壓するものありしは余の自ら信ずる所なり。

〈太陽〉1901

a'. 少數の他邦人を制壓するの能力ありや否や是れ余の論ぜんとする…(以下略)

〈太陽〉1901

b. 彼等の兒を育するや毫も教ふる所なし…(以下略)

〈太陽〉1895

b'. 一人の孤兒を養育するに毎月十五フラン…(以下略)

〈太陽〉1917

c. 支那の書類を閲するを要せざるあるべく…(以下略)

〈太陽〉1895

c'. 自分はこの本の方は閲覽する機會を得なかつた。

〈太陽〉1917

(69)は前期現代語で出現する一字漢語動詞の「壓する」「育する」「閲する」と類義語の二字漢語動詞の「制壓する」「養育する」「閲覽する」の用例である。一字漢語動詞と二字漢語動詞の意は同様で、(67)の場合と同じく類義語が存在しているので現代語での一字漢語動詞は消滅したと考えられる。

以上、前期現代語で一字漢語動詞をめぐる類義語がない場合と、和語動詞と二字漢語動詞が類義語として使用される場合を述べた。次の節では、現代語で類義語の有無が一字漢語動詞の消滅と残存にどのように関わっているのか述べてみる。

4.2.2.1.2 現代語における一字漢語動詞の消滅と残存

まず、前節のように前期現代語で類義語がない場合は現代語でどのようにあらわれているのか提示する。

(71) 【前期現代語】 一字漢語動詞	→	【現代語】 一字漢語動詞
閲する	→	閲する

科する	→	科する
欲する	→	欲する

(71)から分かるように類義語が存在しない一字漢語動詞は、現代語で残存できる。一字漢語動詞が現代語にも存続する場合は、(71)のように類義語がない場合に限っている。

一方、以下は前期現代語で類義語がある場合である。下記で類義語として和語動詞が存在する語例を示す。

(72) 【前期現代語】 一字漢語動詞、和語動詞	→	【現代語】 (消滅)、和語動詞
立する、立つ	→	立つ
乗する、乗る	→	乗る
作する、作る	→	作る

(72)は前期現代語の一字漢語動詞に類義語の和語動詞がある場合で、前期現代語で出現した一字漢語動詞は消滅して現代語では和語動詞のみ使用されている。(72)からみると、一字漢語動詞と和語動詞が類義語としてあらわれる場合は和語動詞が優勢であると考えられる。

なお、類義語として二字漢語動詞が存在する場合もあり、下記に示す。

(73) 【前期現代語】	→	【現代語】
一字漢語動詞、二字漢語動詞	→	(消滅)、二字漢語動詞
壓する、制壓する	→	制壓する
育する、養育する	→	養育する
閲する、閲覽する	→	閲覽する

(73)は前期現代語の一字漢語動詞と一緒に類義語の二字漢語動詞が出現する場合で、現代語では一字漢語動詞が消滅して二字漢語動詞のみあらわれている。(73)は(72)と同様、類義語の関係で二字漢語動詞より一字漢語動詞の方が劣勢であることが分かる。

4.2.2.2 本節のまとめ

以上、一字漢語動詞をめぐる類義語の有無の観点から一字漢語動詞の消滅と存続について述べており、その結果を下記の表9に提示してみる。

表9 類義語の有無による一字漢語動詞の消滅

分類	前期現代語				現代語		
I	一字漢語動詞			⇒	一字漢語動詞		
	関する	科する	欲する		関する	科する	欲する
	類義語：なし				類義語：なし		
II	一字漢語動詞			⇒	(消滅)		
	立する	乗する	作する				
	類義語：和語動詞			⇒	類義語：和語動詞		
	立つ	乗る	作る		立つ	乗る	作る
III	一字漢語動詞			⇒	(消滅)		
	壓する	育する	関する				
	類義語：二字漢語動詞			⇒	類義語：二字漢語動詞		
	制壓する	養育する	閲覽する		制壓する	養育する	閲覽する

一字漢語動詞の消滅と残存に類義語の有無が関わっていると考えられる。三つの種類に分類でき、類義語がないI類と類義語があるII類とIII類に分けることが出来る。

I類は、前期現代語の一字漢語動詞に類義語が存在しない場合であり、現代語でも一字漢語動詞が観察される。I類からみると、一字漢語動詞が存続するのに類義語がない場合に限っていることが分かった。

II類は、前期現代語の一字漢語動詞に類義語の和語動詞が存在する場合であり、一字漢語動詞は現代語で消滅して和語動詞が出現する。意味領域が似ている場合、一字漢語動詞が消滅することから和語動詞の方が優先的で選ばれると解釈できる。

III類は、前期現代語の一字漢語動詞に類義語の二字漢語動詞が観察できる場合であり、現代語では一字漢語動詞が消滅して二字漢語動詞が使用されている。III類はII類と同様、類義語が存在する場合は一字漢語動詞が消滅する傾向がみられ、類義語の競争で二字漢語動詞の方が優勢であると考えられる。

以上、類義語の有無により一字漢語動詞の消滅について述べてみた。類義語は、現代語における一字漢語動詞が消滅してから代用されて意味の穴を埋める役割を担っている。一字漢語動詞をめぐる類義語がない場合のみ一字漢語動詞が残存しており、それではない場合は消滅する傾向がみられる。これから一字漢語動詞は類義語との競争で劣勢であると解釈できる。

4.2.3 韓国語の一字漢語動詞

以下に一字漢語動詞の用例を提示する。

- (74)a. 永遠히 失하엿으나…(後略)
yeongwon-hi sil(失)-ha-yeos-euna
永遠-に 失-する-過去-逆接
(永遠に失ったが)

<三千里>1934

- b. 목숨을 救하엿다.
mogsum-eul gu(救)-ha-yeos-da
命-を 救-する-過去-終止形
(命を救った)

<三千里>1931

- (75) 멸종 위기 동족을 구(救)하다
myeoljong wigi donjog-eul gu(救)-hada
滅種 危機 同族-を 救-する
(絶命の危機の同族を救う)

<中央日報>2016)

(74)は前期現代語であらわれる一字漢語動詞の用例であるが、現代語においては(74a)の「실sil失-hada」は消滅しており、(74b)の「구gu救-hada」は消滅せず(75)のように現代語でも「구gu救-hada」があらわれている。(74a)の「실sil失-hada」は消滅し、(74b)の「구gu救-hada」は残存しているのにどのような要因が働いているのだろう。

4.2.3.1 一字漢語動詞の消滅と残存

『三千里』から収集した895語の一字漢語動詞のうち、現代語でも使われているのは66語、つまり約10%にすぎない。これについてハン(2009)では、現代語に生き残っている一字漢語動詞は大抵対応する固有語動詞がない場合であると述べている。言い換えれば、一字漢語動詞に対応する固有語動詞がある場合、その一字漢語動詞は現代語で使われていないということである。下記は『三千里』で確認される一字漢語動詞の用例である。

- (76)a. 셔바나에 속(屬)히지 아니고
syeobana-e sog(屬)-h@-jianih@-go

サバナ-に 属-する-否定-て
(サバナに属していなくて)

<京郷>1906

- b. 여러분께 인사 傳해 주십시오.
yeoreobun-kke insa 傳(jeon)-ha-e jusibsiyo
皆さん-に 挨拶 傳-する-て ください
(皆さんに挨拶を伝えてください)

<三千里>1941

- (77)a. 민족을 愛한다.
minjog-eul ae(愛)-ha-nda
民族-を 愛-する-終止
(民族を愛する)

<三千里>1932

- b. 自己便의 王을 立하려는 것…(以下略)
自己便(jagipyeon)-ui 王(wang)-leul ib(立)-ha-lyeonyun geos
自己便-の 王-を 立-する-ようとする こと
(都合がいい王を立てようとする)

<三千里>1931

- c. 거액을 損하였다.
geoaeg-eul son(損)-ha-yeoss-da
巨額-を 損-する-過去-終止
(巨額の損害を出した)

<三千里>1938

- d. 大學의 獨逸教授를 介하야…(以下略)
daehag -ui dogilgyosu-leul gae(介)-ha-ya
大学-の ドイツ教授-を 介-する-て
(大学のドイツ人の教授を介して)

<三千里>1930

- e. 석유나 면화를 産하는 지방…(以下略)
seogyu-na myeonhwa-leul san(産)-ha-neun jibang
石油-や 綿花-を 産-する-連体形 地方
(石油や綿花を産出する地方)

<三千里>1935

f. 協同組合이라고 譯하는 것은…(以下略)
 hyeobdong johab-ilago yeog(譯)-ha-neun geos
 協同組合-と 訳-する-連体形 こと
 (協同組合と訳すること)

<三千里>1931

(78)a. 敬意를 表합니다.
 敬意(gyeonggi)-leul pyo(表)-ha-mnida
 敬意-を 表-する-丁寧
 (敬意を表します)

<三千里>1931

b. 舞臺上の 연기를 評함…(以下略)
 mudaesang-ui yeonggi-leul pyeong(評)-ha-m
 舞臺上-の 演技-を 評-する-名詞化
 (舞臺上の演技を評価すること)

<三千里>1934

(76)は一字漢語動詞に対応する固有語動詞がない場合であり、現代語でも同型の一字漢語動詞の「속sog属-hada」「전jeon伝-hada」が使われている。

(77)の「애ae愛-hada」「입ib立-hada」「손son損-hada」「개gae介-hada」「산san産-hada」「역yeog訳-hada」の場合は、現代語では一字漢語動詞として使われなくなった用例である。「애ae愛-hada」と「입ib立-hada」は、現代語でそれぞれ「사랑하다salang-hada(愛する)」と「서다seuda(立てる)」という固有語動詞となり、「손son損-hada」は「손해sonhae損害-leul boda(損害を受ける；損する)」という句としてあらわれており、「개gae介-hada」は異型の一字漢語動詞の「통tong通-hada」で、「산san産-hada」と「역yeog訳-hada」はそれぞれ二字漢語動詞の「생산saengsan生産-hada」と「번역beonyeog翻訳-hada」が使われている。固有語動詞のみではなく、句、異型の一字漢語動詞、二字漢語動詞などが対応している一字漢語動詞も現代語でなくなることが分かった。

ところが、(77b)の「입ib立-hada」は他動詞であるが、前期現代語において下記の(79)のように自動詞としても使われている。

(79) 세계 연단에 立한 웅변가
 segye-yeondan-e ib(立)-ha-n ungbyeonga
 世界-演壇-に 立-する-連体形 雄弁家
 (世界のステージに立った雄弁家)

<三千里>1935

(76)の一字漢語動詞は自動詞と他動詞のどちらかに固定しているのに対して、(77b)は自他両方がみられる。このような現象は一字漢語動詞の消滅と関連性があるか否かについては、今後考察を深める必要がある。

なお、(77e)の「산san産-hada」は、現代語で「생산saengsan生産-hada」という二字漢語動詞に入れ替えても使えるが、下記の(80)は現代語において固有語動詞であらわれている。

(80) a. 러시아에서 産한 레닌
 losia-eseo san(産)-ha-n lenin
 ロシア-で 産-する-連体形 レニン
 (ロシアで産まれたレニン)

<三千里>1931

b. 평균 6兒을 産하고…(以下略)
 pyeonggyun 6兒(a)-eul san(産)-ha-go
 平均 6兒-を 産-する-て
 (平均6匹を産んで)

<三千里>1936

(80a)と(80b)はそれぞれ現代語では「태어나다taeeonada(産まれる)」と「낳다nahda(産む)」が用いられている。前期現代語の「산san産-hada」は多様な意味を持っているため、その意味を明らかにするために、現代語では固有語動詞か二字漢語動詞が使われている。これらも一字漢語動詞の消滅の原因であると考えられる。

一方、(78)の「표pyo表-hada」と「평pyeong評-hada」は現代語でも使われている一字漢語動詞であるが、共存する固有語及び二字漢語動詞が存在する場合である。(78a)の「표pyo表-hada」は「나타내다natanaeda(表す)」という固有語動詞と一緒に使われており、(78b)の「평pyeong評-hada」は「평가pyeongga評価-hada」という二字漢語動詞両方も使われている。(78)から分かるように現代語で多くの一字漢語動詞が消滅した原因は対応する言葉の有無のみではない。(76)の「속sog属-hada」と「전jeon伝-hada」が話し

言葉としても使われるのに対して(78)の「표pyo表-hada」と「평pyeong評-hada」は書き言葉としてよく使われている。(78)の用例から、一字漢語動詞が消滅した原因には一字漢語動詞の使い方が関わっていると考えられる。

4.2.3.1.1 一字漢語動詞をめぐる類義語について

一字漢語動詞をめぐる類義語として固有語動詞と二字漢語動詞がある。まず、前期現代語であられる類義語がない一字漢語動詞の場合である。

(81) 一字漢語動詞	:	類義語(なし)
属-hada(属する)		なし
伝-hada(伝える)		なし
救-hada(救う)		なし

(82) 이 類型에	<u>屬하는</u>	工業…(以下略)
i yuhyeong-e	<u>sog(属)-ha-neun</u>	gonggeob
この 類型-に	属-する-現在連体形	工業
(この類型に属している工業)		

<三千里>1932

(81)のような類義語を持っていないのは限られた数しか存在しない。そして次の(83)は類義語として固有語動詞があらわれる場合である。

(83) 一字漢語動詞	:	類義語(固有語動詞)
来-hada(来る)		oda(来る)
去-hada(行く)		gada(行く)
見-hada(見る)		boda(見る)

(84) 崔씨가	<u>去하고</u>	鄭씨	<u>來하여도</u> …(以下略)
chwissi-ga	<u>geo(去)-ha-go</u>	jeongssi	<u>lae(来)-ha-yeo-mo</u>
崔さん-が	去-する-て	鄭さん	来-する-て-も
(崔さんが行ってから鄭さんが来ても)			

<三千里>1935

(84)の「거geo去-hada」と「래lae来-hada」はそれぞれ「行く」と「来る」の意味をあらわしており、類義語の固有語動詞の「가다gada」と「오다oda」を入れ替わってもその意味は変わらない。

次は一字漢語動詞に類義語として二字漢語動詞が出現する場合である。

(85) 一字漢語動詞	:	類義語(二字漢語動詞)
始-hada(始める)		始作-hada(始める)
導-hada(導く)		引導-hada(導く)
浴-hada(沐浴する)		沐浴-hada(沐浴する)

(86) a. 今年부터	<u>始하기</u> 로 하여…(以下略)
geumnyeon-buteo	<u>si(始)-ha-giloha-ya</u>
今年-から	始-する-ことにする-て
(今年から始めることにして)	

<三千里>1936

a'. 毎夜 7時부터	<u>始作하</u> 고…(以下略)
maeya 7si-buteo	<u>si jag(始作)-ha-go</u>
毎夜 7時-から	始作-する-て
(毎晩7時から始めて)	

<三千里>1930

(85)は前期現代語で出現する一字漢語動詞の「시 si 始-hada」と類義語の二字漢語動詞の「시작 sijag 始作(-hada)」の用例である。これは(83)の場合と同様、互いに入れ替わってもその文の意味は変わらない。

以上、前期現代語で一字漢語動詞をめぐる類義語がない場合と、固有語動詞と二字漢語動詞が類義語として使用される場合を述べた。次の節では、現代語で類義語の有無が一字漢語動詞の消滅と残存にどのように関わっているのか述べてみる。

4.2.3.1.2 現代語における一字漢語動詞の消滅と残存

まず、前期現代語で類義語がない場合は現代語でどのようにあらわれているのか提示する。

(87) 【前期現代語】 一字漢語動詞	→	【現代語】 一字漢語動詞
属-hada	→	属-hada

伝-hada	→	伝-hada
救-hada	→	救-hada

(87)から分かるように類義語が存在しない一字漢語動詞は、現代語で残存できる。一字漢語動詞が現代語にも存続する場合は、(87)のように類義語がない場合に限っている。

一方、次は前期現代語で類義語がある場合である。下記の(88)で類義語として固有語動詞が存在する語例を示す。

(88) 【前期現代語】 一字漢語動詞、固有語動詞	→	【現代語】 (消滅)、固有語動詞
来-hada、oda(来る)	→	oda(来る)
去-hada、gada(行く)	→	gada(行く)
見-hada、boda(見る)	→	boda(見る)

(88)は前期現代語の一字漢語動詞に類義語の固有語動詞がある場合であり、前期現代語で出現した一字漢語動詞は消滅して固有語動詞のみ使用されている。(88)からみると、一字漢語動詞と固有語動詞が類義語としてあらわれる場合は固有語動詞が優勢であると考えられる。

なお、類義語として二字漢語動詞が存在する場合もあり、下記の(89)に示す。

(89) 【前期現代語】	→	【現代語】
一字漢語動詞、二字漢語動詞	→	(消滅)、二字漢語動詞
始-hada、始作-hada(始める)	→	始作-hada(始める)
導-hada、引導-hada(導く)	→	引導-hada(導く)
浴-hada、沐浴-hada(沐浴する)	→	沐浴-hada(沐浴する)

(89)は前期現代語の一字漢語動詞と一緒に類義語の二字漢語動詞が出現する場合であり、現代語では一字漢語動詞が消滅して二字漢語動詞のみあらわれている。(89)は(88)と同様、類義語の関係で二字漢語動詞より一字漢語動詞の方が劣勢であることが分かる。

どころが、(89)の場合の二字漢語動詞は古い時代から使い慣れてきたものが多い。

(90)a. 다시 始作하느니
dasi sijag(始作)-h@-n@ni
また 始作-する-理由
(また始めるので)

<月印>

b. 引導 ㅎ야

indo(引導)-h@-ya

引導-する-て

(教化して導いて)

<月印>

c. 沐浴 ㅎ디아니 ㅎ며

mogyog(沐浴)-h@-ji-anih@-myeo

沐浴-する-否定-て

(沐浴しなくて)

<小學>

(90)は15世紀の文献で観察される二字漢語動詞である。固有語動詞が存在しない場合、二字漢語動詞がその役割を担っていると考えられる。

4.2.3.1.3 その他の要因による一字漢語動詞の消滅と残存

今まで一字漢語動詞をめぐる類義語の有無の観点から述べてみたが、それを外している場合がある。まず、下記の場合を提示する。

(91) 【前期現代語】	→	【現代語】
一字漢語動詞、固有語動詞		一字漢語動詞、固有語動詞
加-hada、 deohada(加える)	→	加-hada、 deohada(加える)
告-hada、 allida(告げる)	→	告-hada、 allida(告げる)
願-hada、 balada(願う)	→	願-hada、 balada(願う)

(91)は前期現代語の一字漢語動詞に意味領域の一部分が重なっている固有語動詞がある場合であり、現代語では両方とも用いられている。下記の用例をみてほしい。

(92)a. 6에 1을	<u>加하</u> 야	7을	만들거나…(以下略)
6-e 1-eul	<u>加-ha</u> -ya	7-eul	maendeul-geona
6-に 1-を	加-する-て	7-を	作る-たり
(6に1を足して7になったり)			

<三千里>1929

a'. 5萬圓을 더하야 15萬圓을 줄터이니…(以下略)
 5-manwon-eul deoha-ya 15-manwon-eul ju-lteoini
 5-万円-を 足す-て 15-万円-を あげる-から
 (5万円を足して15万円をあげるから)

<三千里>1934

b. 拍車를 加하야…(以下略)
 拍車-leul 加-ha-ya
 拍車-を 加-する-て
 (拍車をかけて)

<三千里>1935

(92a)と(92a')は一字漢語動詞の「加-hada」と固有語動詞の「deohada」の用例である。用例から分かるように「足す」の意味をあらわす場合は両方とも使用できたが、現代語では「加-hada」に「足す」の意味がなくなり固有語動詞の「deohada」のみ観察される。そして「加-hada」は「作用を他に及ぼす」という意味をあらわしており、この場合は「deohada」は使えない。(92b)は「박차bagcha 拍車-를leul을 가ga 加-hada」「압력ablyeog 圧力-을eul을 가ga 加-hada」などのように限られた句でしかあらわれていない。

なお、下記は一字漢語動詞と二字漢語動詞が現代語で一緒に存在する場合である。

(93) 【前期現代語】	→	【現代語】
一字漢語動詞、二字漢語動詞		一字漢語動詞、二字漢語動詞
定-hada、決定-hadaなど	→	定-hada、決定-hadaなど
評-hada、評価-hadaなど	→	評-hada、評価-hadaなど
論-hada、評論-hadaなど	→	論-hada、評論-hadaなど

(93)の一字漢語動詞と二字漢語動詞は上下関係であり、一字漢語動詞は上位語で二字漢語動詞は下位語といえる。例えば、「定-hada」の場合「定める」の意味を持っており、「決定-hada」「断定-hada」「改定-hada」「制定-hada」「規定-hada」「肯定-hada」「否定-hada」「認定-hada」「設定-hada」「限定-hada」「選定-hada」などは下位語としてあらわれる。

以上から、一字漢語動詞の存続に類義語の有無のみではない他の要因が働いている可能性があると考えられる。固有語動詞が持っていない意味を一字漢語動詞が持っている場合と一字漢語動詞と二字漢語動詞の上下関係の場合には一字漢語動詞が存続できる。

4.2.3.2 一字漢語動詞とハングル表記

韓国の文字であるハングルは、15世紀に創られたが、当時は一般的で使われておらず、子供及び女性が使う文字として扱われてきた。しかし1894年11月21日、「公文式第14条³²」によりハングルが幅広く使い始めた。現代語で多くの一字漢語動詞が使われていない原因について、アン, イェリ (2013) では19世紀以降ハングル表記が盛んでおり、同音異義語の意味の弁別が難しくなったためであると指摘している。

以下の (94) は中世・近代語、(95) は前期現代語の用例で、現代語で「원won-hada」という音を持つ一字漢語動詞の「원won願-hada」「원won援-hada」「원won怨-hada」を示す。

(94) a. 願ㅎ스오디

won(願)-h@-z@od@i

願-する-なので

(願うので)

<法華>

b. 援ㅎ야 止ㅎ거든

won(援)-h@-ya ji-h@-geodeun

援-する-て 止-する-理由

(助けて止めるので)

<孟子>

c. 스스로 怨ㅎ며

seuseulo won(怨)-h@-myeo

自ら 怨-する-て

(自ら恨んで)

<孟子>

(95) a. 다만 사람답게 살기를 願헛슬뿐.

daman salam-dabge sal-gi-lrul 願(won)-ha-es-seulppun

ただ 人らしい 生きる-名詞化-を 願-する-過去-だけ

(ただ人間らしく生きることを願っただけ)

<三千里>1931

³²「公文式第14条」とは、「法律勅令總以国文為本漢文附訳或用国漢(すべての法律と勅令にハングルを元にして、漢文の翻訳をつけるかハングルと漢字を混ぜて使うようとする)」である。

- b. 合衆國이 玖馬을 援하야…(以下略)
 合衆國-i 玖馬-eul 援(won)-ha-ya
 合衆國-が 玖馬-を 援-する-終止形
 (合衆國がキューバを援ける)

<三千里>1935

- c. 누구를 怨하라.
 nugu-leul 怨(won)-ha-lya
 だれ-を 怨-する-か
 (だれを怨むか)

<三千里>1931

(94)と(95)から分かるように「원won-hada」の音を持っている一字漢語動詞は15世紀から前期現代まであらわれており、これらは漢字で表記されていたため意味の弁別が可能であった。しかしハングルで表記するとすべて「원won-hada」と表記され、意味の弁別がつかなくなってしまう。

- (96) 자기가 원(願)하는 것을…(以下略)
 jagi-ga won(願)-ha-neun geos-eul
 自分-が 願-する-連体形 もの-を
 (自分が願うもの)

<三千里>1936

(96)はハングルで表記されている用例で、(94)と(95)の「원won願-hada」「원won援-hada」「원won怨-hada」のうち、「원won願-hada」のみハングルで表記されていることが分かる。なお「원won願-hada」は三つの「won-hada」のうち唯一、現代語で残存している一字漢語動詞である。「원won願-hada」のみ残されている原因についてアン, イェリ(2013)は頻度と関係があると述べている。

「원won願-hada」「원won援-hada」「원won怨-hada」の一字漢語動詞が前期現代語においてどれほど使われているか調べてみると、「원won願-hada」は90%、「원won援-hada」は5%、「원won怨-hada」は5%で使われている。そして中世・近代語では「원won願-hada」は96%、「원won援-hada」は1%、「원won怨-hada」は3%である。前期現代語でも中世・近代語でも「원won願-hada」が他の一字漢語動詞に比べ、圧倒的に用いられていたため、ハングルで表記されても意味が分かり、固有語動詞の「balada」があるにもかかわらず現

代語であらわれているのである。

しかし、上記の「원won願-hada」と「원won怨-hada」の場合³³、中世・近代語では「원won(願)-hada」と「원h'won(怨)-hada」であらわれており、中世・近代語の時代では異なる一字漢語動詞であったことが分かる。このように現代語での同音異義語が中世・近代語ではそうではない可能性があり、当時の漢字音まで調べないとならないと考えられる。

『大韓毎日新報(以下、<大新>)』は当時、国漢文³⁴版とハングル版を発行しており、本論文では十日間³⁵の論説を中心とする。

国漢文版とハングル版それぞれその内容が同様で、国漢文の文章とハングル文の文章は対応している。通観部文書(1908)³⁶によると、<大新>は国漢文版の論説を書いてからハングルの翻訳担当者が翻訳したと述べている。そのため、前期現代語で一字漢語動詞をハングルで表記する際、どのようにあらわれていることか分かる。

まず、<大新>の国漢文版であらわれている一字漢語動詞の用例を示す。

- (97) a. 總是人事에 屬^ㄱ 者라
總是人事-e 屬-ha-n 者-la
總是人事-に 属-する-連体形 もの-である
(みんな人事に属したものである)
- b. 家屋을 失^ㅎ엿스니
家屋-eul 失-ha-yeos-seuni
家屋-を 失-する-過去-理由
(家屋を失ったので)
- c. 即時宣言書를 發^ㅎ야
即時宣言書-leul 發-ha-ya
即時宣言書-を 発-する-て
(すぐ宣言書を発表して)

³³ 「援-hada」のハングルの表記は、筆者の調べた限りあらわれなかった。

³⁴ 国漢文とは、漢字とハングルの交ぜて書いた文である。

³⁵ 1907年9月18日、1908年5月16日、1908年7月09日、1908年8月05日、1908年10月17日、1909年2月03日、1909年6月05日、1909年7月2日、1909年12月8日、1910年8月9日の論説である。

³⁶ 統監府文書2巻 警秘第二〇二號(1908年5月27日)

大韓毎日申報社ノ現況

申報社ノ擔任部署ハ左ノ如シ

編輯部 國漢文 論說 申采浩

國文 論說繙譯 金演和

- d. 其 懷를 觸^ㅎ며
 其 懷-leul 觸-h@-myeo
 その 懷-を 触-する-ながら
 (その懷を感動しながら)
- e. 衆生이 病^키던 藥을 與나니
 衆生-ga 病-ha-geodeon 藥-eul 與-nani
 衆生-が 病-する-仮定 藥-を あげる-である
 (衆生が病気にかかったら薬をあげる)

(97)からわかるように前期現代語には一字漢語動詞がよく使われていた。(97a)は現代語にもあらわれているが(97b)、(97c)、(97d)、(97e)は消滅したものである。

(97)の一字漢語動詞は<大新>のハングル版でどのように対応しているのか下記に示す。

- (98) a. 모다 인스에 속^ㅎ 거시라
 moda ins@-e syok(属)-h@-n geos-ila
 みんな 人事-に 属-する-連体形 もの-である
 (みんな人事に属したものである)
- b. 집을 일^헛스니
 jib-eul ilh-eos-seuni
 家-を 失う-過去-理由
 (家屋を失ったので)
- c. 선언서를 곧 발표^ㅎ여
 syeoneonsyeo-leul gos balpyo(発表)-ha-yeo
 宣言書-を すぐ 発表-する-て
 (すぐ宣言書を発表して)
- d. 그 회포를 감동^ㅎ며
 geu hoe-leul gamdong(感動)-h@-myeo
 その 懷-を 感動-する-ながら
 (その懷を感動しながら)
- e. 중싱이 병^들거든 약을 주^느니
 jyungs@ing-i byeong(病)-deul-geodeun yag-eul ju-n@ni
 衆生-が 病-する-たら 藥-を あげる-終止形
 (衆生が病気にかかったら薬をあげる)

(98)は(97)の内容をハングルで書いた<大新>のハングル版で収集した用例である。(98a)は一字漢語動詞の「属-hada」をそのまま「속属-hada」で使われた場合である。(98b)は一字漢語動詞の「失-hada」が固有語動詞である「잃다ilhda(失う)」であられる場合で、このような一字漢語動詞は<大新>のうち70%を占めている。(98c)は一字漢語動詞の「発-hada」に二字漢語動詞の「발표balpyo発表-hada」が対応している場合で、一字漢語動詞の「発-hada」より意味を明らかにするため、「발표balpyo発表-hada」という二字漢語動詞があらわれていると考えられる。

一方、(98d)は(98c)と少し違うパターンであるが、(98c)の場合は国漢文版の一字漢語動詞の漢字がハングル版であられる二字漢語動詞の一部に含まれているのに対して、(98d)の二字漢語動詞には(97d)であられる一字漢語動詞の漢字が含まれていない。(97d)の「触-hada」に対応してあらわれている(98d)の「감동gamdong感動-hada」は「触-hada」とは関連性がない二字漢語動詞であり、これは一字漢語動詞の「触-hada」の意味を明らかにするため文脈に合わせて入れ替えたと考えられる。(98c)と(98d)から分かったのは一字漢語動詞に二字漢語動詞が対応してあられることで、これは前期現代語から二字漢語動詞が増えた原因の一つであると考えられる。そして(98e)は一字漢語動詞の「病-hada」がハングル版では「병byeong病-deulda」であられる場合であり、これは(98a)から(98d)とは異なるパターンである。漢語の後部にhada以外の形が結合するのは二字漢語動詞では多く見られるものであるが、一字漢語動詞は(98e)の「病-hada」以外に「生-hada」「食-hada」があり、それぞれ現代語では「生-gida」と「食-naeda」として使われているが、このパターンは少ない。

国漢文版ではすべて一字漢語動詞で用いられたのが、ハングル版では、一字漢語動詞より固有語、二字漢語動詞、句などであられたことが分かった。時代のながれにより、ハングル表記が増えた点も韓国語において一字漢語動詞が消滅した言語外部的な原因として推測できる。

4.2.3.3 本節のまとめ

以上、一字漢語動詞をめぐる類義語の有無の観点から一字漢語動詞の消滅と存続について述べており、その結果を下記の表10に提示する。

表10 類義語の有無による一字漢語動詞の消滅

分類	前期現代語				現代語		
I	一字漢語動詞			⇒	一字漢語動詞		
	属-hada	伝-hada	救-hada		属-hada	伝-hada	救-hada
	類義語：なし				類義語：なし		
II	一字漢語動詞			⇒	(消滅)		
	来-hada	去-hada	見-hada				
	類義語：固有語動詞			⇒	類義語：固有語動詞		
	oda	gada	boda		oda	gada	boda
III	一字漢語動詞			⇒	(消滅)		
	始-hada	導-hada	浴-hada				
	類義語：二字漢語動詞			⇒	類義語：二字漢語動詞		
	始作-hada	引導-hada	沐浴-hada		始作-hada	引導-hada	沐浴-hada

一字漢語動詞の消滅と残存に類義語の有無が関わっていると考えられ、類義語がないⅠ類と類義語があるⅡ類とⅢ類に分けることが出来る。

Ⅰ類は、前期現代語の一字漢語動詞に類義語が存在しない場合であり、現代語でも一字漢語動詞が観察される。Ⅰ類からみると、一字漢語動詞が存続するのに類義語がない場合に限っていることが分かった。

Ⅱ類は、前期現代語の一字漢語動詞に類義語の固有語動詞が存在する場合であり、一字漢語動詞は現代語で消滅して固有語動詞が出現する。意味領域が似ている場合、一字漢語動詞が消滅することから固有語動詞の方が優先的に選ばれと解釈できる。

Ⅲ類は、前期現代語の一字漢語動詞に類義語の二字漢語動詞が観察できる場合であり、現代語では一字漢語動詞が消滅して二字漢語動詞が使用されている。Ⅲ類はⅡ類と同様、類義語が存在する場合は一字漢語動詞が消滅する傾向がみられ、類義語の競争で二字漢語動詞の方が優勢であると考えられる。

以上、類義語の有無により一字漢語動詞の消滅について述べてみた。先行研究では、固有語動詞の有無のみ触れているが、二字漢語動詞も固有語動詞と同様、現代語で一字漢語動詞が消滅してから代用されて意味の穴を埋める役割を担っている。一字漢語動詞をめぐっている類義語、つまり固有語動詞または二字漢語動詞がない場合のみ一字漢語動詞が残存しており、それではない場合は消滅する傾向がみられる。これから一字漢語動詞は類義語との競争で劣勢であると解釈できる。

一方、類義語の有無の観点から外しているが、一字漢語動詞が固有語動詞が持たない意味を持っている場合と一字漢語動詞が二字漢語動詞と上下関係である場合は消滅せず現代

語でも存続できることが分かった。

4.2.4 日韓一字漢語動詞の消滅に関する対照考察

以上、前期現代語と現代語における日韓両言語それぞれの一字漢語動詞について述べたが、ここで両言語における一字漢語動詞の時代による変化の様相をA、B、C、Dのパターンに整理し、以下のようにまとめてみた。

表11 日韓一字漢語動詞の変化の様相

パターン	前期現代語	現代語	
	日韓両言語	日本語	韓国語
A-1	関-する 関-hada	関-する	関-hada
	属-する 属-hada	属-する	属-hada
A-2	表-する 表-hada	表-する 表す	表-hada natanaeda(表す)
	評-する 評-hada	評-する 評価-する	評-hada 評価-hada
B	立-する 立-hada	立つ 立てる	seoda(立つ) seuda(立てる)
	載-する 載-hada	載る 載せる 掲載-する	sitda(載る) sillida(載せる) 掲載-hada
C	愛-する 愛-hada	愛-する	salang-hada (愛する)
	介-する 介-hada	介-する	通-hada
	損-する 損-hada	損-する	損害-leul boda (損害を受ける)
	譯-する 譯-hada	訳-する	翻訳-hada
	産-する 産-hada	産-する 産む 産まれる	- nagda(産む) taeonada(産まれる)

		産出-する	生産-hada
D	因-する 因-hada	因る	因-hada
	傳-する 傳-hada	伝える	伝-hada
	定-する 定-hada	定める	定-hada

Aは、前期現代語と現代語において日韓一字漢語動詞が同型の一字漢語動詞に対応しているパターンである。Aパターンはさらに二つのパターンに分けられる。A-1は現代語で同型の一字漢語動詞のみであらわれている場合であり、A-2は同型の一字漢語動詞とともに固有語動詞か二字漢語動詞が使われている場合である。A-1の一字漢語動詞が現代語において書き言葉としても話し言葉としても使われているのに対して、A-2の一字漢語動詞は現代語においては主に書き言葉である。一字漢語動詞の消滅には一字漢語動詞の使い方も深く関わっていると考えられる。

Bは、前期日韓両言語の一字漢語動詞が現代日韓両言語で消滅した場合であり、現代語では固有語動詞か二字漢語動詞が使われている。Aパターンの一字漢語動詞は自動詞と他動詞のどちらかに固定しているのに対して、Bパターンの一字漢語動詞は自他両方がみられる。

Cは、現代日本語では近代日本語と同型の一字漢語動詞を使っているが、現代韓国語では固有語動詞か異型の一字漢語動詞および句などであらわれているパターンである。

Dは逆に現代韓国語では前期現代語と同型の一字漢語動詞があらわれており、現代日本語では固有語動詞で使われているパターンである。CとDからみると、日本語の方は一字漢語動詞のほとんどが固有語動詞に対応しているのに対して、韓国語では一字漢語動詞に固有語動詞はもちろん、異型の一字漢語動詞、二字漢語動詞などであらわれ、韓国語の方が多様な変化の様相をみせていることが分かった。

第五章 韓国語の漢語形容詞に関する考察

日韓両言語における漢語動詞の形態は、すでに述べている通り、日本語の「漢語+する」と韓国語の「漢語+hada」がもっとも一般的である。ところが、韓国語の場合、「hada形」であらわれるが、「hada形」漢語動詞とは性質が異なる場合がある。日本語の「安全だ」は韓国語では「安全-hada」の形であらわれ、「hada形」として用いられる。この場合は形容詞性をあらわしている。このように韓国語では形容詞性があらわれる「hada形」が存在し、本論文の主なテーマである漢語動詞とはつながらないと思われるが、形容詞性の「hada形」についても検討すべきであると考えられる。

本章では、主に韓国語を中心として形容詞性があらわれる「hada形」について記述し、日本語はいかなる形に対応するのか考察する³⁷。

5.1 漢語形容詞について

5.1.1 漢語形容詞の概念

現代語における漢語動詞は、下記の(1)のように日本語の「スル形」に対応する韓国語の「hada形」の形態がもっとも一般的である。

(1)a. 大学で研究する。

b. 대학에서 연구(研究)한다.

daehag-eseo yeongu(研究)-ha-nda

大学-で 研究-する-現在終止形

(大学で研究している)

一方、「漢語+hada」の形態であらわれるが、(1b)の「연구yeongu研究-hada」のような「hada形」漢語動詞とは性質が異なる場合があり、以下に用例を示す。

(2)a. 이 일은 간단(簡単)하다.

i il-eun gandan(簡単)-ha-da

³⁷ 漢語形容詞には「強-hada(強い)」などの一字漢語で作られる一字漢語形容詞も存在するが、本章では、「安全-hada(安全だ)」のような二字漢語であらわれる二字漢語形容詞を中心に検討し、一字漢語形容詞については今後の課題にする。

この 仕事-は 簡単-ダ-現在終止形

(この仕事は簡単だ)

b. 이 도시는 안전(安全)하다.

i dosi-neun anjeon(安全)-ha-da

この 都市-は 安全-ダ-現在終止形

(この都市は安全だ)

c. 그의 해답은 정확(正確)하다.

geu-eui haedab-eun jeonghwag(正確)-ha-da

彼-の 解答-は 正確-ダ-現在終止形

(彼の解答は正確だ)

(2)の「간단gandan簡単-hada」「안전anjeon安全-hada」「정확jeonghwag正確-hada」は、「hada形」であらわれている。(2)のような「hada形」は、日本語においては「漢語+ダ³⁸」の形態に対応している場合が多い。さらに、(1b)の「연구yeongu研究-hada」に比べてみると、現在終止形は(1b)は「-nda」で、(2)は「-da」であらわれており、一般的で前者は動詞、後者は形容詞として扱われている。以上のような特質から(2)は形容詞として扱える。

中西(2007)では韓国語の形容詞を、語幹が単一形態素からなるもの(「가깝다gakkab-da(近い)」「나쁘다nappeu-da(悪い)」「많다manh-da(多い)»)と「語根+接尾辞」からなるものに大別できると述べている。

なお、ソン,チョルウィ(1992)では、「語根+接尾辞」の接尾辞について「形容詞派生接尾辞」と称しており、その種類を以下の(3)のように示している(意はソン,チョルウィ(1992)による)。

(3)形容詞の派生接尾辞

a. 「-스럽다-seuleobda」:語根があらわす対象そのものではないが、それに近い性質をあらわす形容詞を形成する。主に、語根に否定的なイメージの抽象名詞を取ることが多い。そして「-hada」の意味機能がほぼ同様である。

한심스럽다hansim-seuleobda(情けない)

자연스럽다jayeon-seuleobda(自然だ)など

³⁸ 用例(2)の場合、日本語においては「簡単だ、安全だ、正確だ」であらわれている。日本語の場合、「漢語+ダ」の形態を「形容動詞」として定義している。「形容動詞」という品詞を認めるか否かは多く学説の分かれるところであるが、本論文で「形容動詞」を対象とするのではないため、「形容動詞」については取り上げない。

- b. 「-롭다-lobda」:母音で終わる一部の語根の後部に付いて、「そのようだ」の意味を加える。そして主に漢語を取る。
새롭다sae-lobda(新しい)
자유롭다jayu-lobda(自由だ)など
- c. 「-답다-dabda」:肯定的なイメージの語根か名詞を取る。「-seuleobda」と一番違うところである。
아름답다aleum-dabda(美しい)
사람답다salam-dabda(人間らしい)など
- d. 「-압/엷다-ab/eobda」:主に主観的な感情状態をあらわる形容詞を派生させる。
즐겁다jeulg-eobda(楽しい)
부끄럽다bukkeu-leobda(恥ずかしい)など
- e. 「-긷다-gujda」:人の心或いは性質と関係がある。
심술긷다simsul-gujda(意地悪だ)
험상긷다heomsang-gujda(陰悪だ)
- f. 「-맞다-majda」:ある属性があるという意をあらわしており、人の態度や外観と関係がある。
궁상맞다gungsang-majda(貧乏くさい)
방정맞다bangjeong-majda(おっちょこちょいだ)
- g. 「-쩍다-jjeogda」:主に心理状態と関係がある。
의심쩍다euisim-jjeogda(疑わしい)
계면쩍다gyeomyeon-jjeogda(気まずい)
- h. 「-지다-jida」:先行要素が持っている意味内容をあらわす。
멋지다meos-jida(カッコいい)
기름지다gileum-jida(油っぽい)

(3)の接尾辞は形容詞を作るため、(3)の接尾辞がついている場合は形容詞として用いられる。ところが、先行要素が漢語の場合、(3)以外にも「漢語-doeda(doeda形)」「漢語-nada(nada形)」「漢語-chada(chada形)」(以下、他形)が出現している。その語例については以下を参照されたい。

- (4)a. doeda形:세련selyeon洗練-doeda
- b. nada形:특별teugbyeol特別-nada
- c. chada形:가열gayeol苛烈-chada

(4)の「他形」のうち、(4a)の「doeda形」と(4b)の「nada形」は動詞性をあらかず「他形」としてもあらわれている形態である。「doeda」と「nada」は漢語の後部について動詞を作る役割を担っていると述べてきたが、形容詞を作る場合もあることが分かる。

そして、(3)のソン, チョルウィ(1992)が提示した派生接尾辞のうち(3d)の「-ab/eob」は筆者が調べた限りではあらわれていない。(3d)は通常、漢語には後接していない。

本論文では、(2)のような「hada形」、そして(3)と(4)のような「他形」を漢語形容詞³⁹として扱い、考察範囲に入れて分析する。ところが、「hada形」と(4)の「doeda形」「nada形」の場合、漢語動詞の形態においても観察される。漢語動詞と漢語形容詞両方から観察される「hada形」「doeda形」「nada形」はどのような相違点がみられるかについて次の節で述べる。ただ、代表として「hada形」を中心として検討することにする。

5.1.2 「hada形」の形容詞性と動詞性

以上から分かるように韓国語における漢語形容詞の形態は「hada形」と「他形」としてあらわれる。そのうち、「hada形」の場合、漢語動詞でもあらわれる形態のため、形のみでは動詞性をあらかずか形容詞性をあらかずか分かりづらい。

本節では、主に「hada形」の形容詞性と動詞性について検討する。

5.1.2.1 先行研究

韓国語における動詞と形容詞の定義としてチェ, ヒョンベ(1929)では以下のように述べている。

(5)그림씨(形容詞)란 일과 문(物)의 바탈과 모양이 있음(存在)이 어떠한을 나타내는, 또는 그리는 씨를 이름이니...(中略)...움직씨(動詞)는 일과 문의 움직임을 나타내는 씨를 이름이니...(1929:182)

(形容詞とは、物事の様子と存在が「どうなっている」ということを意味する。...(中略)...動詞とは、物事の「動き」をあらわす。)

韓国語の動詞と形容詞は形態的特徴として「-da」で終わることがあげられるが、イ, イクソプ(2005:18-21)では動詞と形容詞の活用で相違点がみられると述べている。

³⁹ 研究者によって「漢字語形容詞(ソン2014)」、「漢字語語根・hada形容詞(オン2005)」、「漢字語語根の派生形容詞(チャン2015)」などと呼ばれているが、筆者の主な研究テーマは「漢語動詞」のため、漢語動詞と対応する用語として「漢語形容詞」と称することにする。

(6) 쉬다swida(休む)

- a. 쉬는 사람
 swi-neun salam
 休む-現在連体形 人
- b. 일요일에 쉬다.
 ilyoil-e swi-nda
 日曜日-に 休む-現在終止形

(7) 예쁘다yeppeuda(きれいだ)

- a. 예쁜 사람
 yeoppeu-n salam
 きれいだ-現在連体形 人
 (きれいな人)
- b. 꽃이 예쁘다.
 kkoch-i yeppeu-da
 花-が きれいだ-現在終止形
 (花がきれいだ)

上記の「쉬다swida(休む)」と「예쁘다yeppeuda(きれいだ)」は両方とも「-da」で終わるため、形からみると動詞か形容詞か区別できない。ところが、現在連体形の場合、(6a)は「語幹+neun」で、(7a)は「語幹+n⁴⁰」であらわれており、現在終止形の場合、(6b)は「語幹+nda⁴¹」で、(7b)は「語幹+da」の形であられる。

そして鄭聖汝(2006)では現在進行形「-goissda」がつけられると動詞で、それではないと形容詞であると述べている。以下の(8)の場合、「-goissda」が可能な(8a)の「쉬다swida(休む)」は動詞、不可能な(8b)の「예쁘다yeppeuda(きれいだ)」は形容詞として扱えると言えよう。

(8)a. 쉬다swida(休む)

- 학생이 쉬고 있다.
 hagsaeng-i swi-goissda
 学生-が 休む-現在進行形

⁴⁰ 語幹が母音で終わる場合は「語幹+n」、子音で終わる場合は「語幹+eun」であられる。

⁴¹ 語幹が子音で終わる場合は「語幹+neunda」、語幹が母音で終わる場合は「語幹+nda」であられる。

b. 예쁘다 yeoppeuda (きれいだ)

*학생이 예쁘고 있다.

hagsaeng-i yeppeu-goiss-da

学生-が きれいだ-現在進行形

また、チェ, ヒョンベ(1929)では形容詞の終止形は命令形と勧誘形がとられないと述べており、動詞は命令文と勧誘文が可能で、形容詞は不可能であると思われる。以下に用例を示す。

(9)a. 쉬다 swida (休む)

쉬어라

swi-eola

休む-命令

쉬자

swi-ja

休む-勧誘

b. 많다 manhda (多い)

*많아라

manh-ala

多い-命令

*많자

manh-ja

多い-勧誘

ところが、通常形容詞として扱われる「건강 geongang 健康-hada」と「행복 haengbog 幸福-hada」の場合は命令形と勧誘形が取られる。

(10)a. 건강 (健康)하다 행복 (幸福)하다

geongang-ha-da haengbog-ha-da

健康-ダ-終止形 幸福-ダ-終止形

b. 건강 (健康)해라 행복 (幸福)해라

geongang-ha-ela haengbog-ha-ela

健康-ダ-命令形 幸福-ダ-命令形

- | | |
|---------------------|---------------------|
| c. 건강 (健康) 하자 | 행복 (幸福) 하자 |
| geongang-ha-ja | haengbog-ha-ja |
| 健康-ダ-勧誘形 | 幸福-ダ-勧誘形 |
| d. *건강 (健康) 한다 | *행복 (幸福) 한다 |
| geongang-ha-nda | haengbog-ha-nda |
| 健康-ダ-現在終止形 | 幸福-ダ-現在終止形 |
| e. *건강 (健康) 하고 있다 | *행복 (幸福) 하고 있다 |
| geongang-ha-goissda | haengbog-ha-goissda |
| 健康-ダ-現在進行形 | 幸福-ダ-現在進行形 |

(10)の「건강geongang健康-hada」と「행복haengbog幸福-hada」は、現在時制が付けられないこと(10d)、そして行為の進行をあらわすことができないこと(10e)で形容詞性が強いと判定できるが、(7b)と(7c)のように命令形と勧誘形が取られている。しかし(10b)と(10c)の場合は、形態は命令形と勧誘形が取っているが、実際願望の意味があらわれると考えられる。鄭聖汝(2006:95)では、形容詞が命令形を取ることができることを指摘しつつ、(10)のような願望の場合のみではなく、以下のように願望の意味があらわれていない例も示している。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| (11)a. 겸손 (謙遜) 하다 | 침착 (沈着) 하다 |
| gyeonson-ha-da | chimchag-ha-da |
| 謙遜-する-終止 | 沈着-する-終止 |
| b. 겸손 (謙遜) 해라 | 침착 (沈着) 해라 |
| gyeonson-ha-ela | chimchag-ha-ela |
| 謙遜-する-命令 | 沈着-する-命令 |
| c. *겸손 (謙遜) 하는 사람 | *침착 (沈着) 하는 사람 |
| gyeonson-ha-neun-salam | chimchag-ha-neun-salam |
| 謙遜-する-現在連体形-人 | 沈着-する-現在連体形-人 |
| d. *겸손 (謙遜) 하고 있다 | *침착 (沈着) 하고 있다 |
| gyeonson-ha-goiss-da | chimchag-ha-goiss-da |
| 謙遜-する-現在進行形-終止 | 沈着-する-現在進行形-終止 |

鄭聖汝(2006:95)の改変

(11)の「겸손gyeonson謙遜-hada」と「침착chimchag沈着-hada」は通常形容詞として扱えるが、(11c)と(11d)のように現在時制が付けられなくて、行為の進行をあらわすことも

できない。しかし(11b)の命令形が可能であることで形容詞であるとしても命令形が取られる可能性があることが分かった。しかし、(11b)は願望の意味があらわれていない。

一方、動詞として扱われる「사망samang死亡-hada」と「침몰chimmol沈没-hada」の場合は命令形と勧誘形を取らない。

- | | | |
|---------|---------------|----------------|
| (12) a. | 사망(死亡)하다 | 침몰(沈没)하다 |
| | samang-ha-da | chimmol-ha-da |
| | 死亡-する-終止 | 沈黙-する-終止 |
| b. | *사망(死亡)해라 | *침몰(沈没)해라 |
| | samang-ha-ela | chimmol-ha-ela |
| | 死亡-する-命令 | 沈黙-する-命令 |
| c. | *사망(死亡)하자 | *침몰(沈没)하자 |
| | samang-ha-ja | chimmol-ha-ja |
| | 死亡-する-勧誘 | 沈黙-する-勧誘 |

以上、動詞と形容詞の特徴について述べたが、一般的な特徴に付け加えて対照言語学的な観点からも動詞と形容詞の性質を明らかにすることができる。

【韓国語】

- (13) a. 감사gamsa感謝-hada
 b. 부족bujog不足-hada
 c. 간단gandan簡単-hada

【日本語】

- 感謝する
 不足する・不足だ
 簡単だ

(13a)は韓国語の「hada形」に日本語の「スル形」が用いられる場合で、(13b)は「hada形」に日本語の「スル形」と形容動詞が対応している。また、(13c)は「hada形」に日本語の形容動詞が対応する場合である。日本語からみると、(13a)の「감사gamsa感謝」は動詞性が強くて、(13b)の「부족bujog不足」は動詞性と形容詞性両方の性質を持っており、(13c)の「간단gandan簡単」は形容詞性が強いと言える。

一方、朴善嫻・玉岡賀津雄・李在鎬(2013)では、韓国語における「hada形」の二字漢語を対象に、「開始」「継続」「終結」「状態」の四つのアスペクトから「hada」付加を動詞化と形容詞化を別々に集計して予測した。四つのアスペクトの判定基準については、「開始」の場合、二字漢語に「-시작sijag始作」(日本語の「始め」に相当する)を後続して使える場合は「開始」のアスペクトを持っていると判断し、「継続」の場合は「-중jung中」という接尾辞を付けて可能なら「継続」のアスペクトがあらわれると判定した。

なお、「終結」は「-후hu後」との共起可能性に基づいて「終結」のアスペクトかどうか判断し、「状態」は「-일시적인ilsijeogin一時的な」による修飾可能性が可能なら「状態」のアスペクトがあらわれると判断した。以上の判定基準に基づいて分析した結果は以下のようなになる(朴善嫻・玉岡賀津雄・李在鎬(2013)では20語の二字漢語を提示したが、そのうち三語を示す)。

(14)a. 문제munje問題の場合

*문제munje問題-sijag(始作) / *문제munje問題-jung(中)

*문제munje問題-hu(後) / *ilsijeogin(一時的な)-문제munje問題

→*문제munje問題-hada

b. 필요pilyo必要

*필요pilyo必要-sijag(始作) / *필요pilyo必要-jung(中)

*필요pilyo必要-hu(後) / ilsijeogin(一時的な)-필요pilyo必要

→필요pilyo必要-hada

c. 생활saenghwal生活

생활saenghwal生活-sijag / 생활saenghwal生活-jung(中)

생활saenghwal生活-hu(後) / *ilsijeogin(一時的な)-생활saenghwal生活

→생활saenghwal生活-hada

朴善嫻・玉岡賀津雄・李在鎬(2013:142)の改変

上記の(14)から分かるようにアスペクト性がない(14a)の「문제munje問題」は「hada形」になれなくて、アスペクト性があらわれる(14b)の「필요pilyo必要」と(14c)の「생활saenghwal生活」は「hada」と共起可能である。朴善嫻・玉岡賀津雄・李在鎬(2013:142)では、結論として二字漢語の動詞化は、大多数が「終結」で、形容詞化になるのはほぼすべてにおいて「状態」のアスペクトの特性を持っていると述べている。ところが、アスペクト性のみでは動詞化と形容詞化を判定できない場合もある。

(15)일시적인ilsijeogin一時的な-노력nolyeog努力

일시적인ilsijeogin一時的な-강조gangjo強調

(15)の「노력nolyeog(努力)」と「강조gangjo(強調)」は「일시적인ilsijeogin(一時的な)」という「状態」のアスペクト性を持っているが「hada形」漢語動詞になっており、すべての漢語の性質を説明することは出来ないと考えられる。

以上をまとめると、次のようになる。第一、現在連体形が「語幹+neun」、現在終止形

が「語幹+nda」であらわれるとアスペクト性が反映されているので動詞性が強いと判定でき、現在連体形が「語幹+n」、現在終止形が「語幹+da」の形をみせると形容詞性が強いと考えられる。第二、現在進行形の「-goissda」が可能なら動詞性が強くて、不可能なら形容詞性が強いと考えられる。第三、命令文と勧誘文が可能なら動詞性が強くて、不可能なら形容詞性が強いがそれぞれの条件に合わない場合もある。そして第四、日本語の「スル形」に対応すると動詞に近いと思われ動詞性が強いと判定でき、形容動詞に対応すると形容詞性が強いと言えよう。最後に第五、「hada」付加の動詞化と形容詞化においてはアスペクト性によって判定可能であるが、すべての漢語の性質を説明することはできない。

5.1.2.2 「hada形」漢語形容詞の設定

以上で述べている形容詞性と動詞性の特質に基づいて、本論文では以下のように判定基準を示す。

(16)A. 現在終止形: 「語幹+da」の形態を取る場合は形容詞性が強くて、「語幹+nda」の形であらわれる場合は動詞性が強いと判定する。そして両方の形態を取る場合は形容詞性と動詞性両方の性質を持っていると判定する。

B. 現在連体形: 「語幹+n」の形が出来るなら形容詞性があられ、「語幹+neun」の形であらわれると動詞性、「語幹+n」と「語幹+neun」両者ともあらわれると形容詞性と動詞性両方の性質を持っていると判定する。

(16)の判定基準に基づいて「간단gandan簡単-hada」「연구yeongu研究-hada」「유사yusa類似-hada」「평행pyeonghaeng平行-hada」の「hada形」を一つずつ検討する。

まず、「간단gandan簡単-hada」は、(16)の判定基準に基づいて以下の(17)のように判定できる。

- (17)A-1. 이 일은 간단(簡単)하다
i il-eun gandan-ha-da
この 仕事-は 簡単-ダ-現在終止形
- A-2. *이 일은 간단(簡単)한다
i il-eun gandan-ha-nda
この 仕事-は 簡単-ダ-現在終止形
- B-1. 이 일은 간단(簡単)한 일이다
i il-eun gandan-ha-n il-ida
この 仕事-は 簡単-ダ-現在連体形 こと-である

B-2. *이	일은	<u>간단(簡單)하는</u>	일이다
i	il-eun	gandan-ha- <u>neun</u>	il-ida
この	仕事-は	簡単-ダ-現在連体形	こと-である

(17)の「간단gandan簡單-hada」は日本語の「簡単+ダ」に対応している。なお、(17A-1)のように現在終止形「-da」で、(17B-1)のように現在連体形「-n」であらわれていることから、(17C)のように現在進行形の「-goissda」が不可能である。(17)の「간단gandan簡單-hada」は形容詞として扱えると考えられる。

次に、「연구yeongu研究-hada」を(16)に基づいて判定したのを以下の(18)に示す。

(18)A-1. *학생이	<u>연구(研究)하다</u>
hagsaeng-i	yeongu-ha- <u>da</u>
学生-が	研究-する-終止形
A-2. 학생이	<u>연구(研究)한다</u>
hagsaeng-i	yeongu-ha- <u>nda</u>
学生-が	研究-する-現在終止形
B-1. <u>연구(研究)한</u>	학생
yeongu-ha- <u>n</u>	hagsaeng
研究-する-過去連体形	学生
B-2. <u>연구(研究)하는</u>	학생
yeongu-ha- <u>neun</u>	hagsaeng
研究-する-現在連体形	学生

(18)の「연구yeongu研究-hada」は日本語の「スル形」に対応しており、(18A-2)のように現在終止形は「-nda」であらわれている。しかし、(18B-1)と(18B-2)の連体形の場合は「-n」と「-neun」両方ともあらわれているが、(18B-1)の「yeongu研究-hada」の「-n」は過去連体形であり、現在連体形としては(18B-2)の「연구yeongu研究-hada」のように「-neun」の形であらわれている。そして(18C)のように現在進行形の「-goissda」の形態が可能である点で、「연구yeongu研究-hada」は動詞として扱えると考えられる。

(17)と(18)の「간단gandan簡單-hada」と「연구yeongu研究-hada」はそれぞれ典型的な形容詞と動詞であると考えられる。

次は、「유사yusa類似-hada」の場合である。

- (19) A-1. 이번 사건과 유사(類似)하다.
 ibeon sageon-gwa yusa-ha-da
 今回 事件-と 類似-する-現在終止形
- A-2. *이번 사건과 유사(類似)한다.
 ibeon sageon-gwa yusa-ha-nda
 今回 事件-と 類似-する-現在終止形
- B-1. 유사(類似)한 사건
 yusa-ha-n sageon
 類似-する-現在連体形 事件
- B-2. *유사(類似)하는 사건
 yusa-ha-neun sageon
 類似-する-現在連体形 事件

(19)の「유사yusa類似-hada」は、(17)の「간단gandan簡単-hada」と同様A、Bの判定基準では形容詞として扱えると思われるが、対照言語学の側面から見ると、日本語の「スル形」に対応する。5.4節で日本語との対応関係について述べる。

次は、形容詞性と動詞性両方の性質を持っている場合で、「평행pyeonghaeng平行-hada」の「hada形」があげられる。その判定結果を以下の(20)に示す。

- (20) A-1. 두 직선이 평행(平行)하다.
 du jigseon-i pyeonghaeng-ha-da
 二つ 直線-が 平行-ダ-現在終止形
- A-2. 두 직선이 평행(平行)한다.
 du jigseon-i pyeonghaeng-ha-nda
 二つ 直線-が 平行-する-現在終止形
- B-1. 평행(平行)한 두 직선
 pyeonghaeng-ha-n du jigseon
 平行-ダ-現在連体形 二つ 直線
- B-2. 평행(平行)하는 두 직선
 pyeonghaeng-ha-neun du jigseon
 平行-する-現在連体形 二つ 直線

(20)の「평행pyeonghaeng平行-hada」は日本語で「スル形」と形容動詞両方が使われる場合で、現在終止形の「-da」と「-nda」、現在連体形の「-neun」と「-n」両方あられ

ている。形容詞性と動詞性両方の性質を持っており、(20A-1)と(20B-1)の場合は形容詞として、(20A-2)と(20B-2)の場合は動詞として使われていると考えられる。

以上、「hada形」の形容詞性と動詞性について(16)から提示した判定基準に基づいて検討した。形容詞性をあらわすと「形」、動詞性をあらわすと「動」を付けて示すと以下の表12のようになる。

表12 「hada形」の形容詞性と動詞性

分類	漢語+hada	A		B	
		da	nda	n	neun
I	gandan簡単-hada	形	-	形	-
	pilyo必要-hada	形	-	形	-
	wiheom危険-hada	形	-	形	-
	dansun単純-hada	形	-	形	-
	tadang妥当-hada	形	-	形	-
II	jinbo進歩-hada	形	動	形	動
	pyeonghaeng平行-hada	形	動	形	動
	muli無理-hada	形	動	形	動
	manjog満足-hada	形	動	形	動
	gamsa感謝-hada	形	動	形	動
III	yeongu研究-hada	-	動	-	動
	chulbal出発-hada	-	動	-	動
	gyeolhon結婚-hada	-	動	-	動
	undong運動-hada	-	動	-	動
	seolchi設置-hada	-	動	-	動

I類は形容詞性が強い「hada形」であり、これらは漢語形容詞として扱うことができ、III類は動詞性が強い「hada形」で、漢語動詞として扱えると考えられる。これらに対して、II類は形容詞性と動詞性を持っている。

本論文では、I類は漢語形容詞、III類は漢語動詞として判定し、II類も漢語形容詞に含めて考察することにする。

5.2 漢語形容詞の形態と変遷

以上、漢語形容詞における概念についてふれた。本節では、韓国語における漢語形容詞の形態について述べ、分析する。

5.2.1 漢語形容詞の形態

本論文で収集した946語の漢語形容詞を形態によって四つに分類すると以下のようになる。

- (21) I. 「hada形」 のみの場合 (72.7%)
- II. 「hada形」 と 「他形」 の共存の場合 (13.2%)
- III. 「他形」 のみの場合 (10.6%)
- IV. 「hada形」 漢語動詞との両立の場合 (3.5%)

以下は(21)から提示した漢語形容詞の分類に該当するそれぞれの用例である。

(22) 【hada形 のみの場合】

간단한 문제다.
gandan(簡単)-ha-n munje-da
簡単-ダ-連体形 問題-終止形
(簡単な問題である)

(23) 【hada形 と 他形の共存の場合】

- a. 불량(不良)한 학생
bullyang-ha-n hagsaeng
不良-ダ-連体形 学生
(不良な学生)
- b. 불량(不良)스러운 학생
bullyang-seuleou-n hagsaeng
不良-派生接尾辞-連体形 学生
(不良な学生)

(24) 【他形 のみの場合】

불만(不満)스러운 표정이다.
bulman-seuleou-n pyojeong-ida
不満-派生接尾辞-連体形 表情-終止形
(不満な表情だ)

(25) 【hada形漢語動詞との両立の場合】

후회(後悔)스러운 과거다.
huhwoe-seuleou-n gwageo-da
後悔-派生接尾辞-連体形 過去-終止形
(後悔したことだ)

(22)のような「hada形」の「hada」は漢語動詞の場合と同様、語彙的な意味は持っておらず、漢語名詞を形容詞化とする機能的役割のみを担っており、非常に生産的である。このような漢語形容詞は現代語において大部分を占めている。

(23)の「불량bullyang不良-hada」も(22)のように「hada形」が取られている漢語形容詞であるが、「hada形」のみ取っている(22)の「간단gandan簡単-hada」と異なる点は、(23b)のように「他形」も共存することである。

(24)の「불만bulman不満-seuleobda」は「hada形」で使われておらず、「seuleobda形」のみで出現している。

(25)の「후회huhwoe後悔-seuleobda」は以下の(26)のように「hada形」が共存する漢語形容詞であるが、(26)のように「hada形」であらわれる場合は「hada形」漢語動詞になる。

(26) 나는 과거를 후회(後悔)한다.
na-neun gwageo-leul huhwoe-ha-nda
私-は 過去-を 後悔-する-現在終止形
(私は過去を後悔している)

(26)の「후회huhwoe後悔-hada」は漢語動詞であり、「他形」漢語形容詞と「hada形」漢語動詞の両立が観察される。次の節からは(21)の分類を詳しく検討し、述べてみる。

5.2.1.1 「hada形」のみ

チェ,ヒョンベ(1929)では「hada」は転成接尾辞として扱われ、名詞か語根の後部に付いて形容詞に変える機能を果たすと述べており、ソ,ジョンズ(1975)では、先行要素が非実体性の要素である際は実質的意味を持たず、単に述語化する可能しか果さない「形式動詞」として把握している。

本論文で収集した946語の漢語形容詞のうち、「hada形」のみあらわれているのは72.7%(688語)であり、漢語形容詞のうち大部分を占めており、語例の一部を以下に提示する。

(27) 가능 ganeung 可能 가련 galyeon 可憐 각박 gagbag 刻薄 간결 gangyeol 簡潔
간단 gandan 簡單 강력 ganglyeog 強力 거대 geodae 巨大 건실 geonsil 健実
건재 geonjae 健在 결백 gyeolbaeg 潔白 경솔 gyeongsol 輕率 경쾌 gyeongkwae 輕快
고독 godog 孤獨 난폭 nanpog 亂暴 냉엄 naengoem 冷嚴 단란 danlan 團欒
단순 dansun 單純 담대 damdae 胆大 독특 dogteug 獨特 무결 mugyeol 無欠
무례 mulyeo 無禮 미온 mion 微溫 부실 busil 不實 비참 bicham 悲慘
안정 anjeong 安靜 엄밀 eommil 嚴密…

5.2.1.2 「hada形」と「他形」の共存

漢語形容詞は「hada形」を取っているが、「他形」があらわれている場合もあり、以下のような語例がある⁴²。

(28) a. hada形-seuleobda形の共存

경박 gyeogbag 輕薄
혼잡 honjab 亂雜
다양 dayang 多樣
만족 manjog 滿足
복잡 bogjab 複雜
혼잡 honjab 混雜… (以外、45語)

b. hada形-doeda形の共存

노후 nohu 老朽
진실 jinsil 眞実
충만 chungman 充滿

c. hada形-jjeogda形の共存

수상 susang 殊常 (怪しい)
무안 muan 無顔 (恥ずかしいこと)

d. hada形-lobda形の共存

한가 hanga 閑暇 (暇だ)
위태 witae 危殆 (非常に危ないこと)

e. hada形-nada形の共存

특별 teugbyeol 特別
각별 gagbyeol 各別

⁴² 日本語で使わない漢語については括弧の中にその意を付け加える。

「hada形」と「他形」の共存の場合、上記から分かるように「hada形-seuleobda形」「hada形-doeda形」「hada形-jjeogda形」「hada形-lobda形」「hada形-nada形」が混在してあらわれる。それぞれの用例は以下に提示する。

(29) 【hada形-seuleobda形の共存】

- a. 경박(輕薄)한 사람
 gyeongbag(輕薄)-ha-n salam
 輕薄-する-連体形 人
 (輕薄な人)
- b. 경박(輕薄)스러운 사람
 gyeongbag(輕薄)-seuleou-n salam
 輕薄-派生接尾辞-連体形 人
 (輕薄な人)

(30) 【hada形-doeda形の共存】

- a. 노후(老朽)한 설비
 nohu(老朽)-ha-n seolbi
 老朽-する-連体形 設備
 (老朽化した設備)
- b. 노후(老朽)된 설비
 nohu(老朽)-doe-n seolbi
 老朽-派生接尾辞-連体形 設備
 (老朽化した設備)

(31) 【hada形-jjeogda形の共存】

- a. 수상(殊常)한 행동
 susang(殊常)-ha-n haengdong
 殊常-する-連体形 行動
 (怪しい行動)
- b. 수상(殊常)찍은 행동
 susang(殊常)-jjeog-eun haengdong
 殊常-派生接尾辞-連体形 行動
 (怪しい行動)

(32) 【hada形-lobda形の共存】

- a. 한가(閑暇)한 날
hanga(閑暇)-ha-n nal
閑暇-する-連体形 日
(暇な日)
- b. 한가(閑暇)로운 날
hanga(閑暇)-lou-n nal
閑暇-派生接尾辞-連体形 日
(暇な日)

(33) 【hada形-nada形の共存】

- a. 특별(特別)한 음식
teugbyeol(特別)-ha-n eumsig
特別-する-連体形 食べ物
(特別な食べ物)
- b. 특별(特別)한 음식
teugbyeol(特別)-na-n eubsig
特別-派生接尾辞-連体形 食べ物
(特別な食べ物)

ところが、「hada形」と「他形」の意味が異なる場合も観察される。

- (34) a. 방정bangjeong方正-hada : 行いや心の持ち方の正しいこと
b. 방정bangjeong方正-majda : 浮かれて騒ぎまわるようす、不吉だ

- (35) a. 품행이 방정(方正)하다⁴³.
pumhaeng-i bangjeong(方正)-hada
品行-が 方正-する
(品行が方正だ)
- b. 저 사람은 방정(方正)맞다.
jeo salam-eun bangjeong(方正)-majda
あの人-は 方正-派生接尾辞-終結

⁴³ 「bangjeong(方正)-hada」の場合、現代韓国語では主に(16a)の用例で使われており、他の使い方は観察されない。

(あの人はそそっかしい人である)

以上、述べているのは、「hada形」と「他形」が共存している場合であるが、「신비sinbi神秘」の場合は「hada形」と二語の「他形」があらわれている。

- (36) a. 신비(神秘)한 이야기
sinbi(神秘)-ha-n iyagi
神秘-する-連体形 話
(神秘的な話)
- b. 신비(神秘)스러운 이야기
sinbi(神秘)-seuleou-n iyagi
神秘-派生接尾辞-連体形 話
(神秘的な話)
- c. 신비(神秘)로운 이야기
sinbi(神秘)-lou-n iyagi
神秘-派生接尾辞-連体形 話
(神秘的な話)

「hada形」と「他形」が共存する場合、「hada形」と「他形」の間に意味の差は見つからない。本論文で調べたところでは「방정bangjeong方正」を除く、全ての共存の場合、同様の意があらわれている。

5.2.1.3 「他形」のみ

漢語形容詞の分類には「他形」のみあらわれる場合もあり、漢語の後部に「chada、doeda、gujda、jida、jjeogda、lobda、majda、seuleobda」という接尾辞が付けられる。

- (37) a. 【chada形】
가열gayeol苛烈-chada
활기hwalgi活気-chada
- b. 【doada形】
망령manglyeong妄靈-doeda
세련selyeon洗練-doeda
영광yeonggwang榮光-doeda
외람woilam猥濫-doeda

- c. 【gujda形】
 심술simsul心術-gujda
 험상heomsang險狀-gujda
- d. 【jida形】
 굴곡gulgog屈曲-jida
- e. 【jjeogda形】
 겸연gyeomyeon慊然-jjeogda
 미심misim未審-jjeogda
- f. 【lobda形】
 다채dachae多彩-lobda
 순조sunjo順調-lobda
 여유yeoyu余裕-lobda
 자유jayu自由-lobda
 평화pyeonghwa平和-lobda
 호화hohwa豪華-lobda、など
- g. 【majda形】
 궁상gungsang窮狀-majda
 극성geugseong極盛-majda
 변덕byeondeog變德-majda
- h. 【seuleobda形】
 고급gogeub高級-seuleobda
 다행dahaeng多幸-seuleobda
 불만bulman不滿-seuleobda
 비밀bimil秘密-seuleobda
 자연jayeon自然-seuleobda
 자유jayu自由-seuleobda、など

なお、二つの「他形」が共存する場合もあり、以下にその語例を示す。

(38) a. 【seuleobda形-majda形の共存】

- 궁상gungsang窮狀
- 극성geugseong極盛
- 변덕byeondeog變德

- b. 【seuleobda形-doeda形の共存】
 망령 manglyeong 妄靈
 영광 yeonggwang 榮光
 외람 woilam 猥濫
- c. 【seuleobda形-gujda形の共存】
 심술 simsul 心術
 험상 heomsang 險狀
- d. 【seuleobda形-jjeogda形の共存】
 겸연 gyeomyeon 慊然
 미심 misim 未審
- e. 【seuleobda形-lobda形の共存】
 명예 myeongyeo 名譽
 영예 yeongyeo 榮譽
 예사 yeosa 例事
 자유 jayu 自由
 평화 pyeonghwa 平和
 호화 hohwa 豪華

5.2.1.4 「hada形」漢語動詞との両立

漢語形容詞の分類のIV類は、「他形」の漢語形容詞と「hada形」の漢語動詞が両立する場合である。語例は以下のようになる。

(39) 【漢語形容詞seuleobda形-漢語動詞hada形の両立】

- 감격 gamgyeog 感激
- 감탄 gamtan 感嘆
- 경멸 gyeongmyeol 輕蔑
- 과장 gwajang 誇張
- 실망 silmang 失望
- 혐오 hyeomo 嫌惡
- 후회 huhwoe 後悔 など

- (40) a-1. 경멸 (輕蔑)스럽다
 gyeongmyeol 輕蔑-seuleobda
 輕蔑-接尾辭

- a-1. 경멸 (輕蔑) 하다
 gyeongmyeol 輕蔑-hada
 輕蔑-する
- b-1. 후회 (後悔) 스럽다
 huhwoe 後悔-seuleobda
 後悔-接尾辞
- b-2. 후회 (後悔) 하다
 huhwoe 後悔-hada
 後悔-する
- c-1. 실망 (失望) 스럽다
 silmang 失望-seuleobda
 失望-接尾辞
- c-2. 실망 (失望) 하다
 silmang 失望-hada
 失望-する

(39)の漢語のほとんどが人間の心理状態をあらわす動作性名詞である。漢語動詞「hada形」と両立する漢語形容詞の「他形」は、主に「seuleobda」があらわれるのが特徴である。アン, イェリ (2008)では、「hada形」漢語動詞より「他形」漢語形容詞を使う場合、否定的な感情状態を緩和してあらわれると述べている。

以上、漢語形容詞の形態について述べてみたが、漢語形容詞は、「hada形」のみの場合、「hada形」と「他形」の共存の場合、「他形」のみの場合、「hada形」漢語動詞との両立の場合の四つに分けられることが分かった。

5.2.2 漢語形容詞の形態の変遷

前期現代語では(41)のように主に「hada形」があらわれており、現代語と同様である。

【前期現代語】		【現代語】
hada形	→	hada形

- (41) a. 여기에서는 가능(可能)하다.
 yeogi-eseo-neun ganeung (可能)-hada
 ここ-で-は 可能-する
 (ここでは可能だ)

<三千里>1940

- b. 그 대답은 간단(簡單)하다.
 geu daedab-eun gandan(簡單)-hada
 その 返事-は 簡単-する
 (その返事は簡単だ)

<三千里>1939

- c. 그 이유는 단순(單純)하다.
 geu iyu-neun dansun(單純)-hada
 その 理由-は 單純-する
 (その理由は單純だ)

<三千里>1934

(41)의 「가능ganeun可能」「간단gandan簡單」「단순dansun單純」は現代語でも前期現代語でも「hada形」のみで使われている。現代語で「hada形」のみの場合は688語で、このうち前期現代語で「hada形」であられるのは筆者が調べたところでは655語である。ほとんどの場合において、「hada形」が安定的に用いられていることが分かった。

ところが、現代語では「他形」のみで使われる漢語形容詞が前期現代語では「hada形」のみであられる場合があり、「불만bulman不満」の用例を示す。

【前期現代語】 【現代語】
 hada形 → 他形

- (42)a. 농촌 정책을 불만(不滿)한 태도로써…(以下略)
 nongchon jeongchaeg-eul bulman(不滿)-ha-n taedo-losseo
 農村 政策-を 不滿-する-連体形 態度-として
 (農村政策を不満する態度として)

<三千里>1932

- b. 不滿意 것도 事實이다.
 bulman(不滿)-ha-n geos-do sasil-ida
 不滿-する-連体形 こと-も 事實-終止形
 (不滿意があることも事實である)

<東亜>1933

- c. 설비 등 불만(不滿)하다.
 seolbi deung bulman(不滿)-hada

設備 等 不満-する
(設備などが不満だ)

<三千里>1933

一方、前期現代語では「hada形」と「他形」が共存している場合があり、これらは現代語でいかなる形態を取るのか述べてみる。

「건강geongang健康」の場合、現代語では「hada形」のみであられるが、前期現代語では「hada形」と「他形」が混在し用いられる。

【前期現代語】 【現代語】
hada形・他形 → hada形

(43) a. 健康한 얼굴이었다.
geongang(健康)-ha-n eolgul-ieosdda
健康-する-連体形 顔-過去終止形
(健康な顔だった)

<三千里>1940

b. 健康스러운 얼굴에...(以下略)
geongang(健康)-seuleou-n eolgol-e
健康-派生接尾辞 顔-に
(健康な顔に)

<三千里>1930

「hada形」と混在する「他形」としては「seuleobda」が観察される。「seuleobda」は現代韓国語のうち一番生産性が高い派生接尾辞であり、18世紀に新たに使い始めた派生接尾辞である(ソン, チョルウィ1992:201)。現代語で「hada形」のみの漢語形容詞が前期現代語では「hada形」と「seuleobda形」が共存するのは、「seuleobda」の生産性が高くて、意味領域が広がっており、「hada形」と共存してあらわれていると推測できる。

次の「신비sinbi神秘」の場合は、現代語と前期現代語両方で「hada形」と「他形」が共存する場合で、その形態は変わらない。

【前期現代語】 【現代語】
hada形・他形 → hada形・他形

(44) a. 신비(神秘)로운 세계로…(以下略)
 sinbi(神秘)-lou-n segyeo-lo
 神秘-派生接尾辞-連体形 世界-へ
 (神秘的な世界へ)

<三千里>1940

b. 모나리자 같이 신비(神秘)스런 미소
 monalija gati sinbi(神秘)-seuleo-n miso
 モナリザ ような 神秘-派生接尾辞 - 連体形 微笑
 (モナリザのような神秘的な微笑)

<三千里>1938

c. 너의 신비(神秘)한 얼굴을…(以下略)
 neo-ui sinbi(神秘)-ha-n eolgol-eul
 あなた-の 神秘-する-連体形 顔-を
 (あなたの神秘的な顔を)

<三千里>1932

そして、「자유 jayu自由」は、現代語では「他形」のみであられる場合であり、前期現代語では「hada形」と共存する傾向がみられる。

【前期現代語】

【現代語】

hada形・他形 → 他形

(45) a. 잠깐 자유(自由)로운 시간이 있어…(以下略)
 jamgan jayu(自由)-leou-n sigan-i iss-eo
 暫く 自由-派生接尾辞-連体形 時間-가 ある-理由
 (暫く自由な時間があるから)

<三千里>1940

b. 자유(自由)한 형식 자유(自由)한 내용으로…(以下略)
 jayu(自由)-ha-n hyeongsig jayu(自由)-ha-n naeyong-eulo
 自由-する-連体形 形式、 自由-する-連体形 内容-で
 (自由な形式、自由な内容で)

<三千里>1935

上記の語例は前期現代語では「hada形」が取られている場合であるが、以下の「명예myeongyeo名誉」は「他形」のみあらわれている。

【前期現代語】

【現代語】

他形 → 他形

- (46) a. 명예(名誉)로운 일등 비행사로…(以下略)
 myeongyeo(名誉)-lou-n ildeung bihaengsa-lo
 名誉-派生接尾辞-連体形 一等 飛行士-として
 (名誉ある一等飛行士として)

<三千里>1935

- b. 명예(名誉)스러운 박사의 학위를…(以下略)
 myeongyeo(名誉)-seuleou-n bagsa-ui hagwi-leul
 名誉-派生接尾辞-連体形 博士-の 学位-を
 (名誉ある博士学位を)

<三千里>1935

以上、検討した漢語形容詞の形態の変化をまとめると、表13のようになる。

表13 漢語形容詞の形態の変化様相

分類	語例	前期現代語	現代語
I	可能	hada形	hada形
	不満	hada形	他形
II	健康	hada形・他形	hada形
	神秘	hada形・他形	hada形・他形
	自由	hada形・他形	他形
III	名誉	他形	他形

上記の表からみると、前期現代語と現代語両方とも「hada形」であらわれるのが一番多く、漢語形容詞の一般的な形態は「hada形」であることが分かった。なお、II類から分かるように、前期現代語では「hada形」と「他形」が共存するのが、現代語ではそれぞれ「hada形」、共存、「他形」に分かれている。前期現代語で「hada形」と「他形」が共存したのは、18世紀以降増えた「seuleobda」の拡散に関わると考えられるが、II類からみられる「他形」は「seuleobda」のみではないため、言い切ることは出来ない。そして

「hada形」なしで「他形」で使い始めたⅢ類も観察され、この場合は、漢語動詞にはみられない現象である。漢語動詞とは異なり、漢語形容詞は漢語の後部に付加して形容詞を作る派生接尾辞が発達しているためであると推測できる。

5.2.3 「doeda形」漢語形容詞をめぐって

漢語形容詞のうち、「doeda」が付加して形容詞になる場合があり、これは漢語動詞にもあらわれる現象である。

「doeda形」のうち、「세련selyeon洗練-doeda」と「충만chungman充満-doeda」は現代語で「doeda形」のみであらわれる漢語形容詞であり、それぞれ日本語の「スル形」漢語動詞(「洗練する」「充満する」)に対応している。韓国語では形容詞としてあらわれるが、日本語では動詞として使われている。韓国語の漢語形容詞に対応する日本語については5.4節で述べるが、本節では、「세련selyeon洗練」と「충만chungman充満」の時代による形態の変化様相を中心に若干触れることにする。

「세련selyeon洗練-doeda」と「충만chungman充満-doeda」は現代語では「doeda形」漢語形容詞として扱われているが、前期現代語ではどのような形態を取っているのか示すと以下のようなになる。

(47) a. 세련(洗練)되고 있다.

selyeon(洗練)-deo-goisda

洗練-される-ている

(洗練している)

<三千里>1935

b. 세련(洗練)한 기술로써…(以下略)

selyeon(洗練)-ha-n gisul-losseo

洗練-する-連体形 技術-手段

(洗練した技術として)

<東亜>1930

(48) a. 충만되어 있다.

chungman(充満)-deo-eoissda

充満-される-ている

(充満している)

<三千里>1941

b. 충만하는 現狀인데…(以下略)

chungman(充満)-ha-neun hyeonsang-inde
充満-する-連体形 現状-なのに
(充満する現状なのに)

<東亜>1921

c. 지상에 충만(充満)하라.
jisang-e chungman(充満)-ha-la
地上-に 充満-する-命令
(地上に充満しろ)

<東亜>1922

d. 悲哀의 색이 충만한 中에…(以下略)
biae-ui saeg-i chungman(充満)-ha-n jung-e
悲哀-の 色-が 充満-する-連体形 中-に
(悲哀の色が充満しているところに)

<東亜>1922

現代語では「세련selyeon洗練-doeda」と「충만chungman充満-doeda」という「doeda形」のみで使われるが、上記から分かるように前期現代語では「hada形」と共存してあらわれる。ところが、(47a)をみると、「-goisda」のようなアスペクト性(現在進行)がみられる。これについては5.1節で述べており、韓国語の「-goissda⁴⁴」は動詞性をあらわす。この点からみると、前期現代語における「세련selyeon洗練-doeda」は動詞として使われる可能性が高い。

なお、(48b)では現在連体形「-neun」があらわれ、(48c)では命令形を取っていることが分かる。現在連体形「-neun」は動詞性と形容詞性を区別する主な判断基準になっており、命令文が可能なら動詞性が強いといえることからみると、「충만chungman充満-doeda」も動詞として用いられることが推測できる。

本論文の主なテーマは漢語動詞のため、上記のような現象についての綿密な考察が難しいが、今後研究範囲を広めたより深い考察が必要であると考えられる。

5.3 漢語動詞との相違

5.2節までは韓国語における漢語形容詞の特徴及び性質について記述し、漢語形容詞の形態と形態的変遷について述べている。

本節では、韓国語の漢語動詞といかなる相違点がみられるのか検討する。

⁴⁴ (47a)では「-goisda」で表記されているが、現代語の表記法は「-goissda」である。

5.3.1 形態の相違

すでに述べている通り、韓国語における漢語動詞と漢語形容詞は主に「hada形」で出現しており、「hada形」漢語動詞と「hada形」漢語形容詞を形成する「hada」は意味を持っておらず、ただ動詞か形容詞を作る機能的な役割を担っている。そして漢語動詞と漢語形容詞両方とも「他形」が存在しており、「他形」漢語動詞と「他形」漢語形容詞を提示すると以下の表14のようになる。

表14 漢語動詞と漢語形容詞の形態

		漢語動詞	漢語形容詞
hada形		研究-hada(研究する)	健康-hada(健康だ)
他形	doeda形	充血-doeda(充血する)	洗練-deoda(洗練される)
	nada形	故障-nada(故障する)	特別-nada(特別だ)
	sikida形	魅了-sikida(魅了する)	-
	jisda形	結論-jida(結論づける)	-
	danghada形	負傷-danghada(負傷する)	-
	chida形	拍手-chida(拍手する)	-
	chada形	-	苛烈-chada(苛烈だ)
	gujda形	-	険状-gujda(険悪だ)
	jida形	-	屈曲-jida(屈曲する)
	jjeogda形	-	慊然-jjeogda(気まずい)
	lobda形	-	多彩-lobda(多彩だ)
	majda形	-	窮状-majda(貧乏たらしい)

漢語動詞と漢語形容詞は主に「hada形」があらわれている。「他形」では漢語動詞と漢語形容詞両方とも「doeda形」「nada形」が出現している。ところが、5.1節で述べている通り現在終止形「-nda」をつけてみると、以下のように提示できる。

- (49) a. 充血-doe-nda.
 *洗練-doe-nda.
 b. 故障-na-nda.
 *特別-na-nda.

(49)から分かるように「充血」「故障」は現在終止形「-nda」が可能のため漢語動詞であり、「洗練」「特別」は現在終止形「-nda」が不可能であるため漢語形容詞である。

また、動詞としての「他形」は、「sikida形」「jisda形」「danghada形」「chida形」で、形容詞としての「他形」は、「chada形」「gujda形」「jida形」「jjeogda形」「lobda形」「majda形」である。「sikida形」「jisda形」「danghada形」「chida形」は単独の動詞としても使えるのに対して、「chada形」「gujda形」「jida形」「jjeogda形」「lobda形」「majda形」は形容詞を作る派生接尾辞であるため、単独で使えない。

5.3.2 形態的変遷の相違

漢語動詞の形態の変化にみられる現象との相違点について述べると以下のようなになる。

表15 漢語動詞と漢語形容詞の形態の変化

分類	漢語動詞		漢語形容詞	
	前期現代語	現代語	前期現代語	現代語
I	hada形	hada形	hada形	hada形
	∅	hada形	hada形	他形
II	hada形・他形	他形	hada形・他形	hada形
				hada形・他形
				他形
III	句	他形化	他形	他形
	∅	他形		

漢語動詞と漢語形容詞の相違点を述べてみると、一つ目、漢語動詞は前期現代語において主に「hada形」から使い始めたが、漢語形容詞は最初の形態が「他形」が取られる場合もある。二つ目は、「hada形」と「他形」が共存するII類から分かるように、漢語動詞の場合は、「hada形」と「他形」の競争で「他形」が生き残っている場合が多いが、漢語形容詞の場合はそのような現象はみられない。

5.4 日本語との対照考察

5.4.1. 漢語形容詞に対応する「スル形」と「ダ形」

5.3節までは韓国語における漢語形容詞について述べているが、本節では韓国語の漢語形容詞に対応する日本語の「スル形」と「ダ形」に関して検討する。

- (50) a. 가능(可能)한 일
ganeung(可能)-ha-n il
可能-ダ-現在連体形 こと
b. 可能なこと
- (51) a. 걸출(傑出)한 작품
geolchul(傑出)-ha-n jagpum
傑出-ダ-現在連体形 作品
b. 傑出した作品
- (52) a. 겸손(謙遜)한 말투
gyeomson(謙遜)-ha-n maltu
謙遜-ダ-現在連体形 言い方
b. 謙遜な言い方
c. 謙遜した言い方

上記の「가능ganeung(可能)-hada」「걸출geolchul(傑出)-hada」「겸손gyeomson(謙遜)-hada」は「hada形」漢語形容詞で、それぞれ(50)の「가능ganeung(可能)-hada」は「可能だ」の「ダ形」、(51)の「걸출geolchul(傑出)-hada」は「傑出する」の「スル形」、(52)の「겸손gyeomson(謙遜)-hada」は「謙遜だ」と「謙遜する」の「ダ形」・「スル形」両方に対応している。

筆者が収集した漢語形容詞の946語のうち、日本語でも用いられるのは597語である。そのうち、「ダ形」に対応するのは502語、「スル形」には74語、「ダ形」と「スル形」の共存する場合には21語である。5.2節で検討した漢語形容詞の分類と日本語の「スル形」と「ダ形」の対応関係をまとめると以下の表16のように提示できる。

表16 漢語形容詞に対応する日本語「スル形」と「ダ形」

韓国語	日本語	語例		割合
I (hada形)	ダ形	簡潔hada	簡潔だ	71%
	スル形	傑出hada	傑出する	7%
	スル形・ダ形	謙遜hada	謙遜だ 謙遜する	4%
II (共存)	ダ形	複雑hada 複雑seuleobda	複雑だ	8%
	スル形	混雑hada 混雑seuleobda	混雑する	1%
	スル形・ダ形	無		0%
III (他形)	ダ形	自由lobda	自由だ	4%
	スル形	洗練doeda	洗練する	1%
	スル形・ダ形	無		4%
IV (両立)	ダ形	無		0%
	スル形	感激hada 感激seuleobda	感激する	4%
	スル形・ダ形	無		0%

表16から分かるように「ダ形」と漢語形容詞の対応は83%を占めており、漢語形容詞はほとんどの場合において日本語の「ダ形」に対応していることが分かる。そして「ダ形」とIV類の漢語形容詞は対応していないが、IV類に属されている漢語名詞は主に人間の心理状態をあらわす動作性名詞のためであると考えられる。

「スル形」には漢語形容詞の四類すべてが出現しており、「ダ形」の場合と同様、I類が一番多い。ところが、「ダ形」の場合と異なるのはIV類も観察される点で、すでに述べた通り、動作性名詞が属しているためであると考えられる。

「スル形」と「ダ形」が共存する場合はI類のみで観察される。韓国語の場合は、形容詞として使われるが、日本語では動詞と形容詞両方用いられている。

表16で注目したい点は、漢語形容詞に対応する「スル形」である。日韓両言語で同様の漢語名詞であられるが、韓国語では後部要素をつけて形容詞として扱われ、日本語では「スル形」漢語動詞として用いられるのが興味深い。

5.4.2. 漢語形容詞に対応する「スル形」の特質

以上、韓国語の漢語形容詞に対応する日本語の「スル形」と「ダ形」について述べたが、同様の漢語名詞が日韓両言語で形容詞と動詞として扱われるのは興味深い点である。

日本語の場合、漢語に「スル」が後接して動詞化されるのは、漢語の持つ語彙性アスペクトが影響している。松岡(2004)では漢語名詞の動詞性をアスペクト修飾テストによって測ることで、動詞性を持った漢語名詞が「スル」と結びつきやすいということを明らかにした。

- (53) a. 3時間以内の学習/学習中/学習後/一時的な学習 → 学習する
 b. *3時間以内の緊張/*緊張中/*緊張後/一時的な緊張 → 緊張する
 c. *3時間以内の健康/*健康中/*健康後/*一時的な健康 → *健康する

「開始(~以内)」「継続(~中)」「終結(~後)」「状態(一時的な~)」の四つの語彙性アスペクトにより漢語の動詞化がほぼ予測できる。(53)の「学習」「緊張」「健康」の場合、「学習」は動詞性が高いと判断されて「スル形」が成立できるが、「健康」は不可能であることから動詞性がないと判断されて「スル形」が成立しないことが分かる。(53b)の「緊張」の場合、松岡(2004:18)では「~以内、~中、~後」のような動作性をあらかず修飾句と共起しない漢語の動詞性も「一時的な」という持続時間を限定する修飾句を加える際に状態の一時的持続をあらわして、この場合は状態性のアスペクトが存在し、(53c)の「健康」より動詞性が高いと述べている。

松岡(2004)のテストに基づいて漢語形容詞に対応する「スル形」の動詞性と判定する。IV類に属されているのは動作性名詞の漢語なので動詞性が強いと判断でき、I類、II類、III類に対応する日本語の「スル形」を中心とする。以下のような「スル形」が出現している。

(54) I類に対応する場合

嘉尚する	傑出する	謙遜する	困窮する	窮乏する	近似する	急迫する
緊迫する	懈怠する	老衰する	団欒する	紊乱する	肥大する	散乱する
山積する	心痛する	優越する	類似する	一定する	適合する	切迫する
櫛比する	徹底する	焦燥する	憔悴する	促迫する	充実する	親近する

親熟する 透徹する 特出する 疲労する 混濁する 和睦する

(55) II類に対応する場合

老朽する 充満する 混雑する 心痛する

(56) III類に対応する場合

苦痛する 恐怖する 屈曲する 倦怠する 洗練する 混乱する

松岡(2004)のテストを用いて (54)、(55)、(56)の「スル形」の動詞性を判断すると以下のようになる。

表17 「スル形」のアスペクトテスト

	開始 (~以内)	継続 (~中)	終結 (~後)	状態 (一時的な~)
傑出	×	×	×	×
一定	×	×	×	×
類似	×	×	×	×
混雑	×	×	×	○
混乱	×	×	×	○
苦痛	×	×	×	○

表17で提示されている「傑出」「一定」「類似」「混雑」「混乱」「苦痛」は「スル形」であられるため、松岡(2004)のアスペクトテストによると動詞性が高いと思われるが、表17から分かるように「傑出」「一定」「類似」は不合格で、「混雑」「混乱」「苦痛」は状態性のアスペクトがあらわれると判断できる。そしてこれらはテイル形であられる場合が多い。以上から日本語における「スル形」は状態性をあらわす場合があることが分かった。

第六章 結論

第二章から第五章にかけて述べてきた内容を6.1節でまとめる。そして、6.2節では今後の課題について述べる。

6.1 本論文のまとめ

日本語と韓国語には「漢語+する」と「漢語+hada」という形態であられる動詞が存在し、通常、「漢語動詞」と称している。

本論文では、主に日韓漢語動詞の形態の変化を捉えるため、通時的観点を導入した分析を行った。従来の研究のようなボイスの分析のみでは、日韓漢語動詞の形態の形成のプロセスを把握し、さらに漢語動詞の特徴を明らかにするのは難しいためである。

まず、日韓両言語における漢語動詞の特質について取り上げ、本論文での「漢語動詞」の定義をした。「建物」には「スル」と「hada」がつけられないが、「研究」には「スル」と「hada」が付加できることから、漢語動詞を構成する漢語は動作性をあらわしており、述語的な意味が含まれていることが分かる。そして、漢語の後部に位置する「スル」と「hada」について日韓両言語では、本来の実質的な意味が捨象し、漢語を動詞化とする機能的役目を担っている「機能動詞」として取り上げている。村木(1992:219)では「機能動詞」について「動作名詞のような非具体名詞とむすびついた動詞の意味は、抽象的形式的な意味にずれていて、具体名詞とくみあわさった動詞と比べると、相対的に、意味がぼやけている」と述べている。以上の内容から漢語動詞は「動詞性があるか述語的な意味を持っている漢語」と「機能動詞の「スル」と「hada」」が組み合わさっている場合であるといえる。

一方、今までの先行研究では、主に「漢語+する(スル形)」と「漢語+hada(hada形)」の対応関係について述べているが、日本語の「感染+する」に韓国語の「感染+hada」ではなく、「感染+doeda」が後接する点から、韓国語では「hada」以外の動詞が漢語の後部に付けられることが分かった。日本語の「スル形」に対応する韓国語としては一般的では「hada形」があげられるが、それ以外、上記の「感染-doeda」から分かるように「他形」も存在する。日本語においては「他形」が観察されていないが、韓国語の方は、「doeda形」をはじめ、以下のような「sikida形」「gada形」「jisda形」「nada形」「chida形」が出現している。

スル形-hada形

「運動する」-「運動-hada」

スル形-doeda形

「充血する」-「充血-doeda(なる)」

スル形-sikida形

「魅了する」-「魅了-sikida(させる)」

スル形-gada形

「逃亡する」-「逃亡-gada(行く)」

スル形-jisda形

「結論する」-「結論-jisda(作る)」

スル形-nada形

「故障する」-「故障-nada(出る)」

スル形-chida形

「拍手する」-「拍手-chida(打つ)」

ところが、日本語の「スル」に対応する韓国語の「hada」「doeda」「sikida」「gada」「jisda」「nada」「chida」のうち、「hada」は典型的な機能動詞で、「doeda」は「hada」と相互分布の関係であり、「hada形」と「doeda形」は漢語動詞として扱える。ところが、「sikida」「gada」「jisda」「nada」「chida」は、前部要素の漢語に動詞性がないか、後部要素の動詞が実質動詞の場合があり、漢語動詞として認めない。

次に、歴史的な文献から漢語動詞を収集して漢語動詞の形態はいかにして変化してきたのか、平安時代から現代までの日本語と15世紀から現代までの韓国語を対象として考察を行い、以下の結論を得た。

二字漢語動詞の場合、漢語動詞の形態に三つの特徴がみられる。第一、「スル形」と「hada形」が対応しており、漢語動詞の形態は日韓語両方とも変わらず、漢語の後部に「スル」と「hada」が取られている。第二、一律的に「スル形」を取っている日本語に対して、韓国語の方は主に「hada形」が生起するが、前期現代語では「hada形」と「他形」が共存し、現代語になってからは「他形」のみであられる場合がある。このような現象は韓国語のみみられる。第三、日韓両言語で一語のみ観察されるものであるが、「故障」の場合、前期現代語では日韓語両方とも句としてあられるが、現代語になって日本語では「スル形」、韓国語では「他形」として用いられている。

一方、一字漢語動詞の場合は、形態的な面からみると二字漢語動詞とは同様であるが、活用形からみると異なっている。そのため、二字漢語動詞の変化様相とは異なる様相がみられる。日韓一字漢語動詞は消滅の現象が観察され、一字漢語動詞の消滅と残存に類義語

の有無が関わっていると考えられる。第一、類義語が存在しない一字漢語動詞は現代語でも残存している。第二、類義語が観察される場合は、一字漢語動詞が消滅して類義語が使用しており、ここから一字漢語動詞と類義語の競争で類義語の方が優勢であるということが分かった。

本論文の主なテーマは漢語動詞であるが、漢語動詞と同様の形態を取っている点で考察する必要があると判断できる。「hada形」を取っており、形容詞性があらわれているのを、本論文では「漢語形容詞」と称し、韓国語の漢語形容詞の形態と特徴について述べてから日本語の「スル形」漢語動詞と形容動詞との対応関係について検討した。漢語形容詞は漢語動詞と同様、主に「hada形」があらわれるが、「他形」も存在する。「他形」として、「doeda形」「nada形」「chada形」「gujda形」「jida形」「jjeogda形」「lobda形」「majda形」「seuleobda形」が出現しており、このうち、「doeda形」「nada形」はもともと動詞として用いられるのに対して、「chada形」「gujda形」「jida形」「jjeogda形」「lobda形」「majda形」「seuleobda形」は形容詞を作る派生接尾辞である。これらの漢語形容詞に日本語の「スル形」が対応する場合について検討したが、日本語における「スル形」は形態面では動詞として用いられるが、状態性をあらかず場合が多いということが分かった。

6.2 今後の課題

従来の日韓漢語動詞における先行研究は、主に「スル-hada」と受動形の「サレル-doeda」の対応関係に焦点を合わせたボイスに関する研究が盛んに行われてきている。ところが、本論文では漢語動詞の形態について通時的観点から考察を行った。そのため、今後、日韓漢語動詞の受動形についての通時的考察を行う必要がある。今までは「サレル-doeda」を中心として対照研究が行われてきたが、「サレル-danghada」「サレル-baeda」など、韓国語の方は「doeda」ではなく「他形」の受動形があらわれる場合がある。現代語における受動形としてあらわれる形態と時代をさかのぼっていかにして変化してきたのか調査・分析が必要である。

本論文では、日本語における一字漢語動詞を「スル形」のみ認め、「-じる」「-ず」の形態を取り上げないとした。三宅(2010:108)では、「論じる」「応じる」のような「スル」との交替が可能な「-じる」形をとったものも類を同じくするものとしているが、このようなタイプのものは、外形的にも、さらの形態論的な性質という点でも、まったく異質のものであると見做し得ると述べている。ところが、漢語動詞における形成のプロセスについて究明するには「-じる」「-ず」の形態の性質及び時代的变化について検討していかなければならない。

韓国語における漢語形容詞に関する考察についても、本論文では、主なテーマではない

ため、詳細に述べていない。韓国語においては形容詞性が強い漢語形容詞が日本語の「スル形」漢語動詞に対応する場合について、今後、様々な観点から分析する必要があると考えられる。

本論文は、日韓両言語における漢語動詞の通時的対照研究であるが、様々な形態が出現している韓国語に対して、日本語の方は一律的に「スル形」があらわれ、対照言語学的に十分な分析を行えたとは言い難い。現段階では時代の流れに関わらず、日本語の方は「スル形」が固定していると結論付けているが、今後、日本語では「スル形」のみであらわれる原因について統語論的、意味論的に分析していかなければならない。

参考文献

<日本の文献>

- 阿辻哲次(2005)「漢字文化圏の成立」『朝倉漢字講座1-漢字と日本語』朝倉書店 pp15-34
- 安平鎬・張根壽(2001)「「一字漢語+スル」と「一字漢語+hada」」『「하다」と「する」の言語学』 pp53-128
- 李吉遠(1991)「韓・日両言語の受身構文」『阪大日本語研究』3 pp59-72
- 庵功雄・張志剛(2015)「漢語サ変動詞に見る近代語と現代語：コーパスを通しての考察」『日本語の研究』11(2) pp86-100
- 井口厚夫(1993)「「掃除する」と「掃除をする」-行為を表す名詞と漢語サ変動詞-」『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究-12』情報処理振興事業協会 pp110-119
- 石井正彦(1987)「漢語サ変動詞と複合動詞」『日本語学』6(2) pp46-59
- 今野真二(2011)「明治期の日本語の揺動」『文学』12(3) pp123-135
- 沖森卓也(1989)『日本語史』おうふう
- 小川裕花(1993)「「名詞(を)+する」の構文について」『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究-12』情報処理振興事業協会 pp122-136
- 生越直樹(1982)「日本語漢語動詞における能動と受動-朝鮮語hada動詞との対照-」『日本語教育』48 pp53-65
- 生越直樹(2001)「現代朝鮮語の하다動詞における하다形と되다形」『「하다」と「する」の言語学』 pp1-26
- 生越直樹(2005)「朝鮮語と漢字」『漢字圏の近代-ことばと国家』東京大学出版会 pp149-168
- 生越直樹(2008)「現代朝鮮語における様々な自動・受動表現」『ヴィイスの対照研究:東アジア諸言語からの視点』くろしお出版 pp155-185
- 加賀信広(1993)「形式動詞「する」と文法項の転送現象」『言語文化論集』37 pp159-178
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房
- 影山太郎(1996)『動詞意味論-言語と認知の接点-』くろしお出版
- 影山太郎(2010)「日本語形態論における漢語の特異性」『漢語の言語学』くろしお出版 pp1-17
- 加藤重広(2015)「形容動詞からみる品詞体系」『日本語文法』15(2) pp48-64
- 門脇誠一(1982)「日本語と朝鮮語の語彙」『日本語教育』48 pp43-52
- 門脇誠一(1989)「日・朝語対照研究-「漢語+する」と「漢語+hada」について-」『北海道東海大学紀要人文社会科学系』2 pp39-58

- 柏原卓(2013)「日韓における漢語の機能」『和歌山大学教育学部紀要人文科学』63 pp195-203
- 北原保雄(2010)『日本語の形容詞』大修館書店
- 金田一春彦(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 金恒洵(2006)『日本語と韓国語の機能動詞に関する対照研究』北海道大学博士学位論文
- 金文京(2011)「言語資源としての漢字・漢文-日本と韓国の比較」『文学』12(3) pp39-51
- 金良宣(2009)「他動詞的「VNする」の意味分布-韓国語との対照を中心に-」『言語科学論集』15 pp103-118
- 権善和(2005)「日本語形容動詞の研究」 仁荷大学博士学位論文
- 国立国語研究所(2001)『教育基本語彙の基本的研究：教育基本語彙データベースの作成』国立国語研究所
- 小林英樹(2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房
- 小林英樹(2006)「漢字の造語機能」『朝倉漢字講座1-漢字と日本語』朝倉書店 pp83-97
- 小林英樹(2009)「漢語サ変動詞の意味・用法の記述的研究-「除去(する)」、「排除(する)」などをめぐって-」『語彙の意味と文法』 pp65-84
- 柴公也(1986)「漢語動詞の態をいかに教えるか-韓国人学生に対して-」『日本語教育』59 pp144-156
- 柴公也(1993)「「漢字語+sikida」について-再帰性・他動性・使役性・受動性との関わりをめぐって-」『朝鮮学報』144 pp87-150
- 佐藤武義(1995)『概説日本語の歴史』朝倉書店
- 佐藤喜代治(1987)「日本語における漢語の座」『日本語学』6(2) pp4-12
- 志部昭平(1987)「朝鮮語における漢字語の位置」『日本語学』6(2) pp85-96
- 沈国威(2007)「いわゆる「基本語化」現象について-言語接触と語彙体系の近代化-」第五回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム予稿集 pp10-16
- 朱京偉(2011)「日本の近代漢語の来歴」『日本語学』30(8) pp4-15
- 鄭聖汝(2006)『韓日使役構文の機能的類型論研究』くろしお出版
- 田中克彦(2017)『言語学者が語る漢字文明論』講談社学術文庫
- 田中牧郎(2006)「「努力する」の定着と「つとめる」の意味変化」『日本語辞書学の構築』おうふう pp223-238
- 田中牧郎(2011)「近代漢語の定着-『太陽コーパス』に見る」『文学』12(3) pp136-153
- 田中牧郎(2013)『近代書き言葉はこうしてできた』岩波書店
- 田中牧郎(2015)「近代新漢語の基本語化における既存語との関係-雑誌コーパスによる「拡大」「援助」の事例研究-」『日本語の研究』11(2) pp68-85
- 田中牧郎(2015)「明治後期から大正期に基本語化する語彙」『日本語語彙へのアプローチ』

おうふう pp234-250

田野村忠温(1988)「「部屋を掃除する」と「部屋の掃除をする」」『日本語学』7 pp70-80

崔昌玉(2016)「現代朝鮮語の「sikida」について」朝鮮学会大会第67回予稿集 pp1-20

張善実(2010)「V-N型の漢語動詞の語構成と自他」『言葉と文化』11 pp155-164

趙恵真(2015a)「日韓漢語動詞における通時的対照研究-前期現代語を中心として-」日韓次世代学術フォーラム第12回国際学術大会 予稿集 pp145-148

趙恵真(2015b)「日韓漢語動詞における通時的対照研究」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』15 pp195-211

趙恵真(2016)「日韓語の漢語動詞に関する考察」韓国日本文化学会第51回国際学術大会予稿集 pp76-81

趙恵真(2017a)「韓国語の漢語形容詞に関する考察」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』17 pp95-118

趙恵真(2017b)「日韓漢語動詞における通時的対照研究」『日本言語文化研究』5 投稿予定

張志剛(2010)「語構成による漢語動詞の自他使用の予測可能性」『言語社会』4 pp 415-423

張志剛(2014a)「和語複合動詞と対応する漢語動詞の意味と自他」『一橋大学国際教育センター紀要』5 pp65-79

張志剛(2014b)『現代日本語の二字漢語動詞の自他』くろしお出版

陳力衛(2005)「和製漢語の形成」『解釈と鑑賞』70(1) pp38-46

陳力衛(2011)「近代日本の漢語とその出自」『日本語学』30-8 pp34-46

塚本秀樹(2009)「日本語と朝鮮語における品詞と言語現象のかかわり」『語彙の意味と文法』 pp395-414

塚本秀樹(2012)「朝鮮語における漢語動詞の受身文」『形態論と統語論の相互作用』ひつじ書房 pp399-418

豊田豊子(1980)「漢字構成の「な形容詞」(形容動詞)」『日本語学校論集』7 pp85-99

都恩珍&黄情兒(2007)「韓国語の「doeda」被動文の意味的特徴に関する一考察-日本語の「漢語+する」形に対応する場合を中心に-」『桜花学園大学人文学部研究紀要』9 pp99-115

中西恭子(2007)「形容詞をめぐって」『韓国語教育論講座第1巻』くろしお出版 pp521-531

永澤濟(2007)「漢語動詞の自他体系の近代から現代への変化」『日本語の研究』3(4) pp17-32

- 永澤濟(2010)「変化パターンからみる近現漢語の品詞用法」『東京大学言語学論集』30 pp115-168
- 永澤濟(2011)「漢語「-な」型形容詞の伸長-日本語への同化-」『東京大学言語学論集』31 pp135-164
- 野村雅昭(1988)「二字漢語の構造」『日本語学』7(5) pp44-55
- 野村雅昭(1976)「現代漢語の語構成について」『情報管理』18-11 pp884-891
- 韓有錫(1990a)「漢語動詞「-スル」と「-toeda」の日韓対照研究」『名古屋大学国語国文学』67 pp103-120
- 韓有錫(1990b)「併存する漢語動詞について-韓国語との対照考察-」『名古屋大学国語国文学』67 pp75-86
- 韓必南(2011)「日本語の「する」と韓国語の「hada」による属性・状態の叙述」『東京外国語大学記述言語学論集』7 pp53-75
- 朴善嫻(2011)「日韓二字漢語の動詞化および形容詞化-語彙資料としての提案-」『日本語教育方法研究会誌』18(2) pp 4-5,
- 朴善嫻(2013)「日本語と韓国語の同形二字漢字語の形態統語類似性と相違性に関するコーパス研究」『ことばの科学』26 pp39-58
- 朴善嫻・玉岡賀津雄・李在鎬(2013)「韓国語の2字漢字語の語彙性アスペクトによる動詞化および形容詞化の予測」『Studies in Language Sciences』12 pp136-152
- 朴善嫻・熊可欣・玉岡賀津雄(2014)「同形二字漢字語の品詞性に関する日韓中データベース」『ことばの科学』27 pp3-23
- 平尾得子(1995)「VNガスルとVNスルとVNヲスル-サ変動詞語幹の意味と構文的制約-」『日本語類義表現の文法(上)単文編』くろしお出版 pp89-98
- 平嶋一美(2003)「フランス語動詞事象の意味分類に関する考察」『外国語教育研究』5 pp55-67
- 松井利彦(1987)「漢語の近世と近代」『日本語学』6-2 pp25-36
- 松岡知津子・玉岡賀津雄・酒井弘(2009)「アスペクトによる漢字二字熟語のサ変複合動詞化に対する予測」『語彙の意味と文法』 pp121-138
- 松岡知津子(2002)「非対格性・非能格性の概念に基づいた自動詞の分類に関する研究の動向」『広島大学大学院教育研究科紀要』51 pp351-356
- 松岡知津子(2004a)「複合動詞「～スル」を形成する漢語名詞について」『日本語教育』120 pp13-22
- 松岡知津子(2004b)「漢語名詞とスルが構成する2種類の述語の交替」『広島大学大学院教育研究科紀要』53 pp305-310
- 松岡知津子(2005)『機能動詞スルと名詞が形成する文の構造と意味:漢語名詞との結びつ

きを中心に』広島大学博士学位論文

三宅知宏(2002)「「乱れ」と規則性-品詞転換/省略新語をめぐって-」『言語』31(9) pp48-51

三宅知宏(2010)「“一字漢語スル”型動詞をめぐって」『漢語の言語学』くろしお出版 pp107-119

村木新次郎(1991)『日本語動詞の諸相』ひつじ書房

村田雄二郎(2005)「漢字圏の言語」『漢字圏の近代-ことばと国家』東京大学出版会 pp1-16

村田菜穂子(2005)『形容詞・形容動詞の語彙論的研究』和泉書院

森山新(2011)「日本語のスル動詞と韓国語の하다動詞から見た日韓両言語のナル性」『日本認知言語学会論文集』11 pp572-574,

山田一美・山田勇人(2009)「漢語サセル動詞に関する一考察」『紀要』39 pp19-29

山田孝雄(1908)『日本文法論』寶文館出版

山田孝雄(1936)『日本文法学概論』寶文館出版

油谷幸利&門脇誠一&松尾勇&高島淑郎編(1993)『朝鮮語辞典』小学館

尹盛熙(2005)『韓国語の動詞性名詞に関する考察:動詞性名詞の意味と形式動詞の選択を中心に』東京大学博士学位論文

尹亭仁(2014)「日韓両言語における漢語動詞の「負の転移」をめぐって」『神奈川大学言語研究』37 pp1-26

尹亭仁(2016)「韓国語の漢語動詞・漢語形容詞の語彙調査」『人文学研究所報』55 pp21-30

尹亭仁・車香春(2014)「韓国語と日本語の2字漢語動詞に関する一考察-韓日辞典に見られる異同を手掛かりに-」『神奈川大学言語研究』36 pp1-24

楊高郎(2009)「国語辞典における自他認定について」『筑波日本語研究』14 pp75-95

吉田絢奈&宮本エジソン(2017)「非対格動詞と非能格動詞の漢語動詞の読み時間の比較」日本言語学会第154回大会予稿集 pp34-39

吉永尚(2008)『心理動詞と動作動詞のインターフェイス』和泉書院

吉本一(2011)「近代韓国の漢語とその出自」『日本語学』30(8) pp48-58

ラトナーヤカ,ディルルクシ(2012)『非意志性の分析-シンハラ語をはじめアジア語の状況を巡って-』名古屋大学博士学位論文

劉恩聖(2000)『日本語の「する」と韓国語の「hada」の語形成及び表現法に関する対照研究』広島大学学位論文

劉健(2014)「二字漢語動詞の自他性について」『筑波日本語研究』19 pp1-12

若生正和(2008)「日本語と韓国語の漢字表記語の対照研究--漢語動名詞を中心に」『大阪

教育大学紀要1人文科学』56(2) pp69-83

鷲尾龍一(2001)「하다・되다를日本語から見る」『「하다」と「する」の言語学』 pp27-52

鷲尾龍一(2005)「受動表現の類型と起源について」『日本語文法』5(2) pp3-20

<韓国の文献>

アン, イェリ [안예리] (2008)「형용사 파생 접미사의 어기 공유 현상(形容詞の派生接尾辞の語基共有現象)」『形態論』10(1) pp63-83

안, 이, 예리 [안예리] (2013a)「1음절 한자어+하다용언의 통시적 변화(1音節漢字語+hada用言の通時的変化)」『韓國語学』58 pp107-133

안, 이, 예리 [안예리] (2013b)『20세기 전반기 국어 문장구성에 대한 연구-대중종합지『삼천리』말뭉치 언어학적 분석(20世紀前半期の国語の文構成に対する研究-大衆総合紙『三千里』のコーパス言語学的分析)』延世大学博士学位論文

안, 이, 예리 [안예리] (2014)「사라진 ‘2음절 한자어+하다’ 용언의 유형(無くなる2音節漢字語+hada)用言の類型)」『国語史研究』18 pp397-430

李成圭[이성규](1988)「日本語における受動文の意味的特徴-漢語動詞を対象にして-」『日本語と日本文学』9 pp1-10

李成圭・閔丙燦[이성규・민병찬](2003)「漢語動詞に見られる受動文の特徴-日韓対照研究の立場からの理論的構造-」『日本学報』54 pp199-211

이, 이, 킵 [이익섭] (2005)『한국어 문법(韓國語文法)』서울大学出版部

이, 슌히 [이승희] (2010)『순원왕후의 한글편지(純元王后의 한글手紙)』靑い歴史

우, 인헤 [우인혜] (1997)『우리말 피동연구(韓國語の被動の研究)』韓國文化社

온, 쏬호 [엄성호] (2015)「‘한자어 어근·하다’형용사 의미연구(‘漢字語語根·hada’形容詞における意味の研究)」慶熙大学大学院 博士学位論文

킴, 쥬스 [김경수] (2015)「韓・日漢語動詞의 諸相-文法化를 중심으로-(韓・日漢語動詞의 諸相-文法化를 中心に-)」『比較日本学』33 pp81-105

킴, 쥬남 [김정남] (2005)「‘-답다’, ‘-롭다’, ‘-스럽다’의 분포와 의미(‘-dabda’, ‘-lobda’, ‘-seuleobda’의 分布と意味)」『韓國語意味学』18 pp125-148

킴, 쏬쥬 [김성주] (2003)『한국어의 사동(韓國語의 使動)』韓國文化社

킴, 찬쑤 [김창섭] (1984)「形容詞派生接尾辞들의 機能과 意味-‘-답-, -스럽-, -롭-, 하-’와 ‘的’의 경우-」『震檀学報』58 pp145-161

킴, 히쥬 [김희경] (2011)「한자어의 유형 분류 재고-한중일 한자어의 대조언어학적 연구를 위한 고찰-(漢字語의 類型의 分類に 關する 再考-韓中日의 漢字語의 對照言語學的研究의 ための 考察)」『言語と言語学』52 pp53-74

- キム, ヒョソン [김효선] (2003) 「일본어 「一字漢語+する」와 한국어 「一字漢語+하다」의 양국어로의 대응관계에 관한 고찰(日本語「一字漢語+する」と韓国語「一字漢語+hada」の両国語における対応関係に関する考察) 『日本語教育』 25 pp129-147
- キム, ヤンソン [김양선] (2010) 「한국어 「하다」로만 대응하는 일본어 2자 한자어(VN)의 의미분포 (韓国語의 「hada」의みに対応する日本語の二字漢字語(VN)の意味分布) 『日語日文学研究』 72 pp53-73
- チョン, ヒウオン·박, 옌찬·김, 한삼 [정희원, 박용찬, 김한샘] (2007) 『사전에 없는 말 신조어(辞典にない言葉、新造語)』 国立国語院篇、太学社
- ソ, ジョンス [서정수] (1975) 『동사「하」문법(動詞「ha」の文法)』 螢雪出版社
- ソク, ジュヨン [석주연] (2001) 「국어 형용사의 어휘사:파생형용사의 어휘사를 중심으로(国語形容詞の語彙史:派生形容詞の語彙史を中心として)」 『韓国語意味学』 9 pp49-64
- ソン, チョルウィ [송철의] (1992) 『国語의 派生語形成 研究(韓国語의 派生語形成における研究)』 太学社
- ソン, ヘソ (2014) [손해서] 「동형의 한중 한자어 형용사 대비 연구(同形の韓中語における漢字語形容詞の対照研究)」 釜慶大学 博士学位論文
- チョ, 헤진 [조혜진] (2012) 「일본인 한국어 학습자를 위한 한일 한자어 대조연구(日本人韓国語學習者 の た め の 日韓漢語 に お け る 対照研究)」 延世大学修士學位論文
- チョン, 송민 [정성미] (2007) 「‘-하다’형용사의 선행 요소의 형태 구조-한자어 선행 요소를 중심으로-(‘-hada’形容詞의 先行要素의 形態의 構造-漢語先行要素を中心として-)」 『한말연구』 21 pp301-319
- 찬, 나 [장나] (2015) 『현대한국어 한자어 어근 파생형용사 연구(現代韓国語における漢語語根의 派生形容詞의 研究)』 仁荷大学 博士学位論文
- チョン, 옌주 [정연주] (2007) 「형용사 형성 접미사의 통시적 변화- ‘-되-’, ‘-롭-’, ‘-스럽-’, ‘-답-’ 을 중심으로-」 高麗大学博士学位論文
- 全鐵 [전철] (2004) 「韓日兩言語의 「一字漢語」 研究」 慶尚大学博士学位論文
- チェ, ヒョン베 [최현배] (1929) 『우리말본(我が文法)』 正音社
- ナム, 옌보크 [남영복] (1995) 「「한자어 명사+する/하다」의 통사적 측면에 대한 대조 연구(「漢字語+名詞+する/hada」의 統語的側面에 對する 對照研究)」 『人文科学研究』 14 pp207-222
- 노, 미ョン비 [노명희] (1988) 『현대국어 한자어의 단어구조 연구(現代國語における漢字語의 單語構造의 研究)』 서울大學博士學位論文

- ハン, ヨンギュン [한영균] (2009) 「문체 현대성 변별의 어휘적 증거와 그 변화(文体現代性弁別の語彙的準拠とその変化)」 『口訣研究』 23 pp305-342
- パク, 슌지쥔 [박순정] (2007) 「한국어 「하다」와 일본어 「する」의 분류(韓國語 「hada」와 日本語 「する」의 分類)」 『日本学研究』 20 pp115-127
- パク, 키쥔애 [박경애] & 오·히쥔지쥔 [오현정] (2014) 「한일 양 언어 한어동사에 관한 고찰 ‘一字漢語+する’와 ‘一字漢語+하다’를 중심으로(韓日兩言語における漢語動詞に関する考察-「一字漢語+する」と「一字漢語+hada」を中心として-)」 『教師と教育』 32(1) pp68-81
- 裴晋影[배진영] (2003) 「日韓の漢字語使用についての対照的研究 : 品詞別に見た傾向比較」 『国文目白』 42 pp10-18
- 裴晋影[배진영] (2005) 「日韓新聞社会面における「漢語+スル・hada」動詞の対照的研究-時代別変遷に注目して-」 『日本女子大学大学院文学研究科紀要』 11 pp15-34
- 裴晋影[배진영] (2007) 「日本語における一字漢語動詞の語彙論的分析-活用類型及び類義語に注目して-」 『日本文化研究』 24 pp467-480
- 裴晋影[배진영] (2008) 「韓日兩語における「一字漢語動詞」の対応傾向」 『東北亜文化研究』 17 pp383-400
- 裴晋影[배진영] (2009a) 「韓國語一字漢語動詞の日本語の対応様相-新聞記事 5種の動詞を中心に-」 『東北亜文化研究』 20 pp461-473
- 裴晋影[배진영] (2009b) 「ジャンル別にみる韓國語一字漢語動詞の傾向-『現代国語使用頻度調査』に見られる一字漢語動詞を中心に-」 『日本文化研究』 30 pp87-102
- 裴晋影[배진영] (2010a) 「韓國新聞の日本語版による「一字漢語動詞」の日本語の対応のあり方-韓日同形「一字漢語動詞」を中心に-」 『日本文化研究』 33 pp233-252
- 裴晋影[배진영] (2010b) 「韓國新聞に見られる「一字漢語動詞」の日本語版での対応のあり方-韓日異形対応の「一字漢語動詞」を中心に-」 『日本文化研究』 35 pp183-202
- 裴晋影[배진영] (2011a) 「意味分類による韓日同形一字漢語動詞について」 『日本文化研究』 37 pp213-230
- 裴晋影[배진영] (2011b) 「日本語における一字漢語動詞の意味分類-韓日異形対応の一字漢語動詞に注目して-」 『日本文化研究』 39 pp283-305
- 裴晋影[배진영] (2012) 「韓國語 「漢語+hada」形容詞における日本語の対応様相-「一字漢語+hada」形容詞に注目して-」 『日本文化研究』 41 pp183-197
- 裴晋影[배진영] (2013) 「日本語における韓國語 「漢語+hada」形容詞-韓日同形漢語の品詞分類に注目して-」 『日本文化研究』 45 pp213-228
- 민, 히쥔시크 [민현식] (1984) 「‘-스럽다, -롭다’ 接尾辞에 대하여(‘-seuleobda, -lobda’의 接尾辞に対する研究)」 『国語学』 13 pp95-118

- ミン, ヒョンシク [민현식] (1995) 「국어 어휘사의 시대구분에 대하여(国語語彙史の時代区分について)」 『国語学』 25 pp335-366
- ユ, キョンミン [유경민] (2005) 「'X 하-'와 'X 되-' 및 'X 시키-'의 대응쌍 연구('X+ha' と 'X+doe' 及び 'X+siki' における研究)」 『国語学』 46 pp147-385
- 油谷幸利(1978) 「現代韓国語動詞分類」 『朝鮮学報』 87 pp1-35
- ユ, チャンドン [유창돈] (1964) 『李朝語辞典』 延世大学校出版部
- ユ, ヒョンギョン [유현경] (2000) 「국어 형용사의 유형에 대한 연구(国語形容詞の類型に対する研究)」 国語学 36 pp221-258

参考サイト

コーパス検索アプリケーション「中納言」

<https://chunagon.ninjal.ac.jp>

ヨミダス歴史館

<https://database-yomiuri-co-jp.ezoris.lib.hokudai.ac.jp/rekishikan>

国立言語院言語情報サイト

<https://ithub.korean.go.kr>

韓国史データベース

<http://db.history.go.kr/item/level.do?itemId=ma>

デジタルハンゲル博物館

<http://archives.hangeul.go.kr>

ニュースライブラリー

<http://newslibrary.naver.com>

大韓民国新聞アーカイブ(国立中央図書館)

www.nl.go.kr/newspaper